

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	納戸 美佐子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助の理論と方法Ⅰ	2	通年	必修	いいえ	82

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機をみると「必須科目である」が92.2%、「資格取得に必要である」29.7%、「関心のある内容である」3.1%、「単位数を確保する」1.6%であった。本科目は、社会福祉士国家試験受験科目のひとつであり、社会福祉士等の実習とも関連する科目である。講義では、ソーシャルワークについて学生の関心が高まるように、テキストだけでなく事例や時事問題を活用した。相談場面に関するビデオ教材も活用し、相談場面のイメージを抱くことができるようにした。また、講義内で確認問題を実施し、理解度を学生本人が確認できるようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された		達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生による授業評価の到達度自己評価において、「自分なりの目標を達成した」平均値3.8点、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」平均値4.0点であった。また、再試験希望者のうち再履修者は、0名であった。これらのことから、教育目標は「達成された」と判断した。					

5. DP, CP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP・カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性：本科目は、カリキュラムマップにおいて福祉専門科目のひとつであり、社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験受験資格の必須科目であると同時に、卒業に関わる必須科目である。再履修者もなく、多くの学生が標準レベルに達していることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DPにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性：全ての学生が標準レベルに達していたことからDPにおける内容の妥当性に問題はないと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」および「説明は理解しやすいものであった」は、平均値4.2点出会った。また、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は、平均値4.1点であった。「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均値が3.8点であった。これらの結果から、学生の状況に応じた授業ができたと考えられた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	再履修者は0名であり、全ての学生が標準レベル以上に達したと考えられる。次年度の講義では、学生が主体的に授業に参加できるように工夫することが課題である。また、約5割の学生が予復習の時間を確保していなかった。予復習として取り組むべき課題を具体的に提示する必要があったと考えられる。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助の理論と方法Ⅱ	3	通年	必修	いいえ	81

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機については、「必修科目である」88.6%、「資格取得に必要である」30.0%、「関心のある内容である」1.4%、「単位数を確保する」1.4%であった。本科目は1年次の「相談援助の基盤と専門職」、2年次「相談援助の理論と方法Ⅰ」での学習内容の理解を前提とした科目であると同時に、「相談援助の理論と方法Ⅱ」では難度が高くなり、これまでにこの科目に関心があった学生でさえ学習意欲の低下、理解が困難になるなどのおそれが予想される科目である。ソーシャルワークを学ぶ上でなぜこのような内容の理解が必要であるのかということ、今学んでいることがソーシャルワーク実践にどのように位置づけられるかということを伝えることに努めた。また、実習後の授業においては、学生が実習生として経験し学んだであろうことをできるだけ説明の中で触れることによって、実習での体験や実感を改めて咀嚼し、学びを深めることを重視した。実践事例を用いた解説や視聴覚教材の活用、時事や身近な話題などと関連させた解説なども多く取り入れるように努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学習到達度の自己評価においては、「知識・理解」（DP1）において「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（かなりそうだと思う13.7%、わりにそうだと思う32.9%）「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」（かなりそうだと思う11%、わりにそうだと思う31.5%）、「思考・判断」（DP2）においては、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」（かなりそうだと思う9.6%、わりにそうだと思う32.9%）、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」（かなりそうだと思う8.2%、わりにそうだと思う34.2%）、「関心・意欲」（DP3）においては「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」（かなりそうだと思う9.6%、わりにそうだと思う38.4%）であった。また、前期期末試験の平均点は78.3点であったのに対して、後期期末試験の平均点は84.7点と大幅に得点が伸びており、本科目における教育目標はある程度達成できたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,行動目標からの内容的妥当性 4(2)に記載したように、試験の結果、学生の学習到達度自己評価から、DPにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性に問題はないと考える。 ②CP,カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は1年次「相談援助の基盤と専門職」および2年次「相談援助の理論と方法Ⅰ」での学習内容の理解を前提とした科目であると同時にこれら2科目と比較して難度が高くなるため、これら2科目での学習内容を振り返りつつ、他の関連科目での学習内容も取り入れつつ、総合的かつ包括的にソーシャルワークを実践するための視点と求められる知識を培うことを意識した授業内容と展開を心掛けた。相談援助に関わる関連科目での学びの統合が求められる科目という点から、適切な位置づけである。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては、平均値3.5～3.6であり、高くもなく低くもない評価を得たと考える。一方、1回30分程度以上の予習・復習を67.1%、65.8%の学生が一度も行っていないことは反省点である。学生が学びを深めたい意欲をもち、自発的学習につながるような授業の展開を工夫していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	最終回の授業のコメントカードには半数近い学生から、「難しい内容だったが、ただ丸暗記をするのではなく、援助の視点やクライアントの状態をどう捉えるかということについて、深く考えさせられた」との感想が寄せられた。具体的な達成の目安として掲げた理想的レベルには達しないとしても、相談援助事例に関してどのように事象を捉え、考察するかという視点を養うことはある程度まで達成できたと考ええる。授業での学びだけにとどまらず、学生の学びを深める意欲を引き出し、主体的自発的に学ぼうとする態度の形成につながるよう、さらなる改善を行いたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
就労支援サービス論	3	後期	選択	いいえ	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は3年次の社会福祉士指定科目であり、「社会福祉実践の展開」をねらいとした福祉専門科目である。受講動機を見てみると、「資格取得に必要である」が70.7%、「関心のある内容である」が12.2%となっており、資格取得のための履修であることがうかがえる。前述のとおり本科目は社会福祉士指定科目であるため、授業はできるだけ養成テキストに沿う内容で進めると同時に、新聞記事で時事的な問題を提示したり、DVDなどの視聴覚教材を用いたりして、学生が就労支援の実際をイメージ化できるよう努めた。加えて、障害者や生活困窮者への就労支援の場で実践を行っている講師を招き、就労支援の具体的内容について事例などを提示してもらい、就労支援への意欲関心を高められるようにした。 また国家試験も意識化できるよう、過去問を適宜提示し、授業内容と国家試験問題の内容が結びつくようにした。また毎回のコメントカードにより学生の質問や意見等を求め、次の講義の冒頭で質問等に答えるなどのフィードバックを行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は74.4点、中央値は80.5点であり、再試対象者は9名であった。評価割合はA評価17.4%、B評価39.1%、C評価8.7%、D評価15.2%、E評価19.6%となっており、A評価、B評価が56.5%、D評価、E評価が34.8%で、成績の開きが大きかった。さらに制度内容等をわかりやすく伝えていく工夫を行い、成績の底上げ図っていく必要がある。 学生の「自分なりの目標を達成した」の自己評価では、平均値3.7、中央値4.0であった。またDP1に関わる「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考えを得ることができた」の平均値は3.7-3.9、中央値4.0であり、DP2に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値は3.7-3.8、中央値4.0であった。これらの点からやや達成されたと判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 4. で記したとおり、学生の成績、自己評価からは内容的には妥当であったと考えられる。ただし学生の成績には点数の開きがあった。本科目は社会福祉士の国家試験科目であるため、さらに学生の理解を高めるようなわかりやすい講義内容を工夫していく必要がある。事例等を用いた学習や、課題への取り組みを通して、さらに学生の理解をうながしていきたい。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 上記にも記したとおり、概ね内容は妥当であったと考えられるが、学生の理解を高めていくような取り組みや、自発的学習を促すさらなる工夫が必要である。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価では、各項目とも平均値3.7-4.0、中央値4.0となっており、概ね妥当であったと考える。ただ「説明は理解しやすいものであった」の項目において、「全くそうでないと思う」と回答した学生が1名おり、すべての学生が理解できるような、より噛み砕いた説明の工夫をしていく必要がある。 学習量の評価では、全く予習をしなかった学生が61.0%、全く予習をしなかった学生が56.1%を占めていた。課題等を提示することにより、学習を促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は3年次の社会福祉士指定科目であり、「社会福祉実践の展開」をねらいとした福祉専門科目である。制度論が中心の科目ではあるが、就労支援の実際をできるだけイメージ化できるよう工夫し、学生の意欲関心を高めて、自発的学習をうながしていきたい。またわかりやすい説明を心がけ、学生の理解を促して、成績の底上げを図っていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
権利擁護論	3	後期	選択	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、「資格取得に必要である」63.3%、「必修科目である」51.7%であった。社会福祉士・精神保健福祉士指定科目であることから、国家試験の出題傾向を念頭に置きつつ、相談援助に必要な成年後見制度とその知識の前提となる民法・行政法の内容を中心に、なるべく理解しやすく伝えるよう努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	後期試験の平均点は65.33点であり、昨年度を下回った。コース別の平均点は福祉・養護教諭コース65.35点、子ども家庭福祉コースの平均点は65.26点と、コース別の差はほぼなかった。理想的レベル（90点以上）に達した者は1名にとどまった一方で、再試対象者は22名に上った。到達度自己評価について、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が3.6(中央値4.0)のほかは3.4-3.5の範囲内に収まっており、昨年度より数値のばらつきが少なくなっている。ただ、学生の欠席率は8.62%であり、昨年度より改善している。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけから見ると本科目は「福祉専門科目」であり、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目でもある。国家試験を受験する予定の学生が多く、学生の講義に対する動機付けは高い。試験の平均点が60点台とやや低い、これについては、学生の授業以外における学習量の問題であると考え。国家試験受験のために必要な最低限度の内容となっているため、内容的には妥当であると考え。②DP行動目標から見ると、自己評価と成績の分布に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないと考え。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今年度から学生の出席カードに任意にコメントを記述する方式にしたため、授業の質評価のうち、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値は、「説明は理解しやすいものであった」と並んで3.6であった。他の項目の平均値も3.4-3.5の範囲内にある。また、授業以外の学習をしていない学生が約6割に上っているが、授業の課題以外に学習していない理由として「何をしたら良いかわからないから」「プリントで充分だった」との意見が見られた一方で、授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習として「テスト勉強しやすくまとめた」「国試に向けた学習」「復習」が挙げられていた。学生の意見については「毎授業本当にわかりやすいレジュメ、説明で木村先生の授業を受講すると『学びを深めることができています!』とすることができます。いつもありがとうございます。他の先生も木村先生を見習っていただきたいです」と、授業内容に非常に満足しているものが見られた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	福祉専門科目であり、かつ社会福祉士・精神保健福祉士指定科目である本科目の位置づけから、思考判断、意欲関心のいずれもある程度は達成できたが、一番の要であった知識理解については達成できたとまではいえないと考えている。権利擁護に関する知識は多岐にわたる為、以下に知識を学生に定着させるか、授業以外の学習をいかに増やすかが、今後の課題となろう。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	櫻木 美穂子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会福祉特講Ⅰ	4	前期	選択	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	実際に体験すること、体験したことを踏まえ自分で考えることに重点を置き授業を構成した。 最初にスケジュールと課題を説明し、各自が準備しやすいよう、また課題に早くから取り組めるよう配慮した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	講義毎に最後にミニレポートを提出してもらったが、講義で学んだことと自分が考えたり思ったことを書いてもらうようにしている。その中で講義の内容の理解度の確認と自分の考えをまとめる力を見ている。講義が進むにつれに内容がまとまり、自分の意見も書くことができていた。 最後の課題発表も自分でテーマを決め、図書館やインターネットを使い調べてまとめることができていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	単位をとるために受講した学生や自己学習のために受講した学生もいた。(評価はなし)どの学生も真剣に実技に取り組んでいた。また4年生ですでに実習を経験している生徒もあり、自分の経験と講義を合わせて考えることができていた。また就職してからの仕事をより具体的にイメージ出来たと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業中にグループワークや発表の機会を多く設け学生が自分で考える機会を多く作った。また学生にわかりやすくする工夫をしたことで、理解が進んだと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	4日間という短い期間の中での集中講義であるため時間をかけて一人一人を評価することが難しい。そのため各授業ごとにミニレポートを提出することで理解度を評価する。 最後の課題発表では自分でテーマを見つけそれについて情報収集しまとめ自分の考えを述べることで一人一人の考える力を評価している。 今後もこの形で進めていく予定である。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会福祉特講Ⅱ	4	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉の制度・政策の最新動向を教授するとともに、国家試験対策の意味合いも持つ。教員5名のオムニバス形式によるものである。講義では、特に法制度の改正部分や国家試験で出題が予想される内容、また学生の理解度が低いと思われる内容について丁寧に説明を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価を見ると、「自分なりの目標を達成した」（まあまあ思う60.0%、わりにそうだと思う40.0%）、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（まあまあそうだと思う40.0%、わりにそうだと思う20.0%、かなりそうだと思う40%）となっており、教育目標はある程度達成できたと考える。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①D P 上の位置づけ 学生の到達度自己評価結果から本科目の教育目標は達成されており、D P 上の位置づけに問題はないと考える。 ②C P、カリキュラムマップ上の位置づけ 上記で述べたように、本科目は国家試験対策の意味合いも兼ねた内容となっているものの、夏休み開講ということもあり、受講生数は少ない状況となっている（実習で履修できない学生が多い）。C P・カリキュラムマップ上の位置づけという点では検討が必要であると思われる。 ※本科目は2018年度カリキュラムより廃止となった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目は教員5名によるオムニバス形式をとっている。各担当の授業進行自体は、特に問題はないと考えるが、準備学習の提示の有無、内容・方法等について、教員間でばらつきが見られた。この点について、担当教員間で開講前に協議するなどの対策が必要と思われる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目における教育目標は達成されたものの、開講時期や準備学習の提示などに課題があると考ええる。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	納戸 美佐子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅲ	2	後期	選択	いいえ	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は、「必須科目である」76.0%、「資格取得に必要である」36.0%であった。本科目は、相談援助の展開とそこで活用される専門的な知識・技術の習得を目指している。具体的なイメージを抱くことが出来るように、福祉的課題を抱えた人々への相談援助の事例を活用し、グループワークも実施した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	達成度自己評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た」平均値4.5点、「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことが出来た」、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることが出来た」、「コミュニケーション力や表現力を高めることが出来た」は、それぞれ4.3点であった。「自分なりの目標を達成した」「事象を理解する視点や考え方を得ることが出来た」「職業倫理や行動規範について学ぶことが出来た」は、それぞれ平均値4.2点であった。「職業選択の参考になった」の平均値は、4.1点であった。これらの項目は、本科目の行動目標とも関連しているものである。再履修者は0名であった。これらのことから、多くの学生が標準レベル以上に達していることから、教育目標は「達成された」と判断した。					

5. DP, CP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP・カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性：本科目は、カリキュラムマップにおける専門教育科目である。全ての学生が標準レベル以上に達したことから内容は妥当であると考えられる。 ②DPにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性：本科目は、社会福祉士受験資格取得のための必須科目であるとともに、ヒューマンサービス専門家に必要な知識(DP1)、思考判断(DP2)、意欲関心(DP3)、態度(DP4)、技能表現(DP5)を習得する科目である。学生の目標達成状況からDPにおける内容は妥当であると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価については、学生の授業評価の授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が創られていた」、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値は、4.5点、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」の平均値は、4.4点であった。「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値は、4.3点であった。また、図書館の図書や雑誌を68%の学生が利用していた。また、図書館から利用できる学術データベースを検索し、利用した学生は、88%であった。しかしながら、52%の学生は、復習を行っていないと回答していた。以上のことから、学生が予復習を行いやすい課題を具体的に提示していくことが課題である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	再履修者は、0名であった。多くの学生が標準レベル以上に達したと判断される。授業の質評価の全ての項目において、平均値が4.3点以上であった。これらのことから、本年度の内容を継続して実施し、さらに、学生が予復習を行いやすい課題を具体的に提示していくことが課題である。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習 V	3	後期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目（3年次対象・選択）の1つであり、相談援助演習Ⅲ（2年後期）及び相談援助演習Ⅳ（3年前期）と連動し、5人の教員がオムニバス形式で担当している。主な教授内容は、各担当教員の専門領域（障害福祉、高齢福祉、児童福祉、医療福祉、地域福祉）における事例を活用し、支援内容の検討やグループディスカッション、ロールプレイ等を行っている。 授業評価アンケートにおける学生の受講動機では、「資格取得に必要である」（61.5%）が見られ、相談援助演習Ⅲと同様に、社会福祉士取得を意識した受講がうかがえる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体の成績は平均79.6点であり、この点では教育目標を達成したと言える。各DP項目の達成状況について、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」（DP1）については「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（わりにそうだと思う46.2%、かなりそうだと思う30.8%）であり、目標をある程度達成できたと言える。「思考判断」（DP2）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（わりにそうだと思う57.7%、かなりそうだと思う15.4%）であり、目標をある程度達成できたと言える。「意欲関心」（DP3）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う42.3%、かなりそうだと思う30.8%）であり、これも目標をある程度達成できたと言える。「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う38.5%、かなりそうだと思う30.8%）であり、目標をある程度達成できたと考える。「技能表現」（DP5）については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（わりにそうだと思う57.7%、かなりそうだと思う15.45%）、また、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は「わりにそうだと思う」（50.0%）、かなりそうだと思う」（15.4%）となり、目標をある程度達成できたと考える。 以上の他、授業評価アンケートにおける学生の自発的学習や図書館利用の状況から、今後は学生の関心・意欲を高め、主体的学習態度を引					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 全体の成績は平均79.6点であった。また、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、全体としてある程度達成されており、DP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は相談援助の専門的視点や態度、知識・技術を実践的に修得するものである。これらは当該学年で履修する相談援助実習の展開において不可欠となるものであり、本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートでの「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」との問いでは、「していない」（88.5%）が見られた。また、「この授業では、図書館の図書、雑誌を利用した」との問いについては、「利用しなかった」（96.2%）が見られ、本科目において学生の主体的学習態度を十分に引き出せていない現状が明らかとなった。引き続き学生の関心・興味を引き出す授業展開を検討する必要があると考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目における教育目標の達成という点では課題があると考え。本科目は教員5名によるオムニバス形式の授業形態となっており、教員間の連携が特に重要になる。今後も授業内容や展開方法等について教員間で共有しながら、より教育効果の高い授業を目指したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習 V	3	後期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	後期実習を挟み実践場面を経験したところから援助の視点が拡がりを感じられるが、更に気づき足りない点を構造化できればと演習を進めた。受講動機で「必修」だからとするものは66.70%であったが、「資格取得に必要」と答えた者が51.9%と学生が実習などでの経験を通して援助の必要性に気づいてくれているものと評価でき「専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」と評価する者が多かった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「学びを深めたいと意欲を持つことができた」に高い評価が得られた。また、図書館利用においても評価は少なかったものの自主的な取り組み姿勢が伺えた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「到達度自己評価」「授業の質評価」いずれにおいても高い評価であった。「学習量」については僅かではあったが予復習とした物が複数名いたことは積極的に取り組もうとした姿勢が伺える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「図書館、インターネット利用」をする学生数が少ないものの、僅かでも自主的な取り組み姿勢は評価できると考える。調べることも含め、課題の提出など事前学習、事後学習に結び付ける改善を行っていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総じて達成されたと考える。今後においては、一人ひとりからの疑問や質問について何らかの形で関わりを持ちたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習 V	3	後期	選択	はい	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	3年後期科目であり、実習経験等を踏まえて学生が参加していたように考えられる。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各学生のプレゼンテーションの準備からして大方の学生は目標達成できたと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容については妥当であると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	大方の学生が積極こめんとがあった。的に参加していた印象を受ける。プレゼンテーションの担当者の、出席番号順の割りあてに対してコメントがあった、コンビを組む学生との協働学習が難しかったことかもしれないが、お互いに時間を調整することや協同して準備すること もソーシャルワーカーとして大切な資質であり、馬の合う学生とだけ共同できるということは克服することが期待される。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね授業目標は達成された。次年度も継続したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	納戸 美佐子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習 V	3	後期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は、「必須科目である」60.9%、「資格取得に必要である」56.5%であった。本科目は、本科目は、相談援助の展開とそこで活用される専門的な知識・技術の習得を目指している。具体的なイメージを抱くことが出来るように、福祉的課題を抱えた人々への相談援助の事例を活用し、グループワークも実施した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価において、到達度自己評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることが出来た」平均値4.1点であった。「事象を理解する視点や考え方を得ることが出来た」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることが出来た」「コミュニケーション力や表現力を高めることが出来た」「職業倫理や行動規範について学ぶことが出来た」「職業選択の参考になった」の平均値は、4.0点であった。「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることが出来た」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことが出来た」の平均値は、3.9点であった。再履修者は0名であった。これらのことから、「達成できた」と判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP・カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性：本科目は、カリキュラムマップにおける専門教育科目である。全ての学生が標準レベル以上に達したことから内容は妥当であると考えられる。 ②DPにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性：本科目は、社会福祉士受験資格取得のための必須科目であるとともに、ヒューマンサービス専門家に必要な知識(DP1)、思考判断(DP2)、意欲関心(DP3)、態度(DP4)、技能表現(DP5)を習得する科目である。学生の目標達成状況からDPにおける内容は妥当であると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価については、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」平均値4.5点、「説明は分かりやすいものであった」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会がつけられていた」「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は、4.3点であった。また、図書館の図書、雑誌を利用した学生は、71%、図書館から利用できる学術データベースを検索し、利用した学生は83%であった。前年度の反省を踏まえ、具体的な課題を提示した結果、図書館等の利用が増加したと考えられた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	再履修者は0名であり、全ての学生が標準レベル以上であったと考えられる。本年度においては、72%の学生が80点以上の成績であった。しかしながら、例年に比べ、到達度自己評価が低かった。これらのことから、学生自身が自分の理解度を把握し、新たな学びを得たことを感じる事が出来るような機会を学生に提供することが課題である。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅴ	3	後期	選択	いいえ	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は3年次の社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目である。学生の受講動機をみると、「必修科目である」が83.3%、「資格取得に必要である」が45.8%、「関心のある内容である」が4.2%であり、資格取得のための履修であることがうかがえる。本演習は相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴと連続しており、学生にとって演習Ⅴは最後の相談援助演習となるため、これまで演習・実習で学んできた援助技術を総括できるよう、地域を基盤として、複数の課題を解決することが求められるような事例を用い、ソーシャルワークの理論と実践を統合化できるような内容になるよう努めた。今年度は、地域福祉の実践としてある自治会を中心とした地域づくりを含む事例を通してコミュニティソーシャルワークの視点を学ぶ内容を取り入れた。 相談援助の実践ではチームアプローチが基本となるため、できるだけグループワークを通して課題解決を導く演習となるよう工夫した。毎時間ごとにはふり返りの時間を設け、学生のコメントに対してフィードバックを行ったり、次の演習の冒頭で紹介しながら、専門的視点への理解を深めたり、共有したりできる機会を設けた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は79.1点、中央値は80点であった。学生の学習到達度の自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」の平均値が3.6、中央値3.5であった。これらの点から学生は十分な目標達成レベルに達していると判断した。各項目については、知識理解が平均値3.8、中央値4.0、思考判断が平均値3.7-3.9、中央値4.0、意欲関心が平均値3.9、中央値4.0、態度が平均値3.8、中央値4.0、技能表現が平均値3.6、中央値3.5-4.0であった。これらの結果より、概ね目標は達成されたと考える。ただし、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の項目において、「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目において、「少しそうでないと思う」と回答した学生が2名いた。これらの点は、ソーシャルワークの実践的な知識・技術を身につけることに主眼をおく本科目において、目標達成が困難であったことを示しているため、次年度は各学生の達成度を判断しながら、個別の対応を丁寧に行っていきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本演習は「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目として位置付けられている。4. に記したように、内容的妥当性には問題がなかったと考えられるが、すべての学生が目標達成できるよう、個別の対応を行っていく必要がある。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 上記同様、内容的に妥当であったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価では平均値4.1-4.2、中央値4.0であった。ただし「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の項目において、「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名いた。今後はどの学生にも明確に伝わるようにわかりやすい説明を心がけていきたい。 学習量の評価をみると、予習をしなかった学生は45.8%、復習をしなかった学生は54.1%、また自発的学習を行わなかった学生は79.1%であった。半数以上の学生が授業以外での学習を行っていない結果となり、自発的学習を促すことができなかった。また「図書館の図書、雑誌を利用した」学生は25.0%、「学術データベースを利用した」学生は12.5%、「インターネットを利用した」学生は41.7%にとどまった。自発的学習の必要性、図書館利用の必要性について意識づけしていく必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目である。 4. に記した学習達成度の自己評価、6. に記した授業の質評価により、概ね授業の目標は達成されたと考える。今後は自発的学習をさらにうながしていく取組みが必要である。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅱ	3	通年	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、社会福祉士指定科目（3年次・通年）の1つであり、相談援助実習（3年次）の事前及び事後指導を行うものである。高齢者福祉領域及び地域福祉領域を担当し、実習前指導では実習関連書類の作成指導や実習現場で必要となる知識・技術の教授を通じて実習への動機を高めた。実習後指導では個別面談やケース検討会、実習報告会を通して実習で得た学びや気づきを深めさせた。また、実習期間中は巡回訪問を行い、個別指導及び実習指導者への面談を通して、実習状況の確認を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成されなかった	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の達成状況について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」（DP1）は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（わりにそうだと思う39.1%、かなりそうだと思う34.8%）となっており、目標をある程度達成したと言える。「思考判断」（DP2）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（わりにそうだと思う26.1%、かなりそうだと思う30.4%）となっており、目標をやや達成できなかったと言える。「意欲関心」（DP3）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う21.7%、かなりそうだと思う39.1%）であり、目標をある程度達成できたと言える。「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う34.8%、かなりそうだと思う34.8%）となっており、これも目標をある程度達成したと言える。「技能表現」（DP5）については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（わりにそうだと思う21.7%、かなりそうだと思う39.1%）であり、また、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は「わりにそうだと思う」（30.4%）、「かなりそうだと思う」（39.12%）となっていることから、目標をある程度達成できたと言える。 以上、本科目の教育目標の達成については、各DP項目の達成度から全体として「ある程度達成できた」と考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、DP項目の達成は「ある程度達成された」となっており、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は相談援助実習の実施に向けた事務手続きや動機づけ、実習で得た学びの整理・振り返りを行うものである。本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	実習前指導では、実習実施に向けた関連文書の作成、実習で必要となる知識・技術の獲得、動機づけ等を行っている。こうした過程において学生には主体的学習態度が求められるが、授業評価アンケートの「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」との問いでは、「していない」（69.6%）が示された。また、授業にあたって「図書・雑誌の利用をしていない」（69.6%）、「インターネットの利用をしていない」（47.8%）も見られた。図書やホームページ等のネット情報を具体的に提示し、学習意欲を高める必要があると考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目における教育目標の達成はある程度達成されたとと言える。しかしその一方で、実習への動機づけや主体的学習態度を引き出す点での課題が明らかとなった。相談援助実習指導Ⅰと同様に、今後は本科目で修得した知識・技術が実際の実習現場でどのように役立ったか/役に立たなかったか、実習後指導（個別面談、発表、レポート）が知識・技術の修得に十分寄与したかといった点での評価も必要と考える。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅱ	3	通年	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は、「必修科目である」が69.2%、「資格取得に必要である」が61.5%であったが、医療における社会的な問題に困る人々の生活課題を解決調整する意味について感じ、考えることを学生らに求めたことから、実習での経験で随分と成長したと評価できる。 ①医療機関での実習に必要なと思われる知識と技術について参考資料の提示と講義を行った。 ②配属については、前・後期それぞれ2週間のストレスを考え、実家若しくは一人暮らしの場所からの通いを配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①「到達度自己評価」「授業の質評価」の項目は、平均値が4.2以上であり教育目標は達成されたと考える。「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」「必要となる技術を身につけることができた」の平均値が4.3以上と高く学生自らの成長から伺える。 ②図書館の利用半数を超えてはいたが利用するものがやや少ない状態だった。インターネットの利用は高い傾向にあり主体的に調べる取り組みは評価できる。 配属先の情報については、学生各自で過去の先輩らが同じ施設で実習した時の資料を参考にしたり、インターネットなどを活用し調べさせるように指導した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	医療機関は実習先として他の領域と同じ扱いではあるが、生命を扱う場としての特殊性があると説明し、受験資格を得る為の実習態度であれば他職種の実習生と比較され注意、指摘を受けることになると注意をし緊張感と積極性持つよう指導した。そのことが「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」が4.3と高く「到達度自己評価」に表れDPは達成できたと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	実習先としての医療機関は、他の領域と同じ扱いではあるが、生命を扱う場としての特殊性があると説明し、受験資格を得る為の実習では、他職種の実習生と比較され注意、指摘を受けると注意を喚起し緊張感と積極性持つよう指導した。そのことが「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が4.4と高く「到達度自己評価」に表れDPは達成できたと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね、実習指導に基づき行うことが出来ていると思われる。実習先となる医療機関は、他の領域と同じ扱いではあるが、生命を他の専門職との協働によって成され、緊張感を持って実習に取り組んだ成果として学生らの成長を評価できると考える。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅱ	3	通年	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目の一つであり、「相談援助実習」のスーパービジョン、及び事前指導・事後指導を行うものである。児童福祉領域(児童養護施設・障害児施設を含む)での相談援助実習を通して、相談援助の知識・技術を実践的に体得し、社会福祉士として求められる総合的に対応する力を高められるよう事前指導、事後指導を展開した。事前指導においては、実習施設で求められる援助技術や知識の習得とソーシャルワークの視点の形成、実習中及び実習後指導においては実践と理論の統合化を学生の主体的な学びと気づきの中から達成できるようにスーパービジョンを実施することを心掛けた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の達成状況について、学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」（DP1）については「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（かなりそうだと思う17.6%、わりにそうだと思う52.9%）「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」（かなりそうだと思う17.6%、わりにそうだと思う52.9%）、「思考判断」（DP2）については「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」（かなりそうだと思う11.8%、わりにそうだと思う58.8%）、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」（かなりそうだと思う17.6%、わりにそうだと思う52.9%）、「意欲関心」（DP3）については、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」（かなりそうだと思う17.6%、わりにそうだと思う52.9%）、「態度」（DP4）については「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（かなりそうだと思う11.8%、わりにそうだと思う58.8%）、「技能表現」（DP5）については「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（かなりそうだと思う11.8%、わりにそうだと思う64.7%）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（かなりそうだと思う11.8%、わりにそうだと思う58.8%）であった。実習を経験して、達成感を感じつつも、自身の不十分さやまだまだ学ぶべきことが多くあることに気づいた学生の自己評価が厳しい目で行われたことによると考えるが、そのこと自体を含め、多くの学びがあったことによるものであり、目標をある程度達成したと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,行動目標からの内容的妥当性 4(2)に記述したように、学生の到達度自己評価から、DPにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性に問題はないと考える。 ②CP,カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は「相談援助実習」と連動して展開される科目であり、実習に向けた具体的準備、実習に向けての動機づけを行い、事前学習、学びの整理を行うものである。本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては平均値3.7～4.0が得られた。授業の予習（1回30分程度以上）を1度も行わなかった学生が41.2%、復習(1回30分程度以上）を1度も行わなかった学生が52.9%とともに高い値であったが、授業の課題以外に学習に取り組んだ学生が41.2%であった。学生が学びを深めたい意欲をもち、自発的学習につながるような授業の展開を工夫していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の教育目標はある程度達成できたと考えるが、学生の学びを深める意欲を引き出し、主体的自発的に学ぼうとする態度の形成につながるよう、さらなる改善を行いたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅱ	3	通年	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」と連動して展開される科目である。授業は実習前指導、実習配属中の指導、事後指導からなり、事前指導ではソーシャルワークの視点形成、事後指導ではスーパービジョンを通じた実践と理論との統合化を目標に展開した。受講動機を見てみると、「必修科目である」が36.4%、「資格取得に必要である」が87.5%、「関心のある内容である」は9.1%となっており、ほとんどの学生は資格取得のための履修である。 今年度は事後指導に個別のレポート指導を組み込み、レポート指導を通じて学生が実習体験を深められるようにした。また例年実施している事例報告会を各自パワーポイントを用いて行うようにし、プレゼンテーション力を高められるようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目の最終的な成績の平均値は81.7点、中央値83点で、十分なレベルの達成度であったと考える。学生の学習達成度の自己評価においては、「自分なりの目標を達成した」が平均値3.9、中央値4.0であった。各項目については、知識理解が平均値4.2-4.6、中央値4.0-5.0、思考判断が平均値4.2、中央値4.0、意欲関心が平均値4.3、中央値4.0、態度が平均値4.4、中央値4.0、技能表現が平均値4.3-4.4、中央値4.0であった。これらの評価から、目標は概ね達成されたと判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」と連動して展開される科目として位置付けられている。4. に記載したような成績の平均値、および学生の自己評価から内容的妥当性はあったと考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 4. に記したように成績の平均値、および学生の自己評価から内容的妥当性はあったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価については、各項目において「全くそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」と回答した学生はおらず、平均値4.4-4.5、中央値4.0-5.0であった。 学習量の評価については、実習前後の課題もいたためと考えられるが、予習を全くしなかった学生は9.0%、復習を全くしなかった学生は9.0%にとどまり、学生の学習をうながすことができた。また全く自発的学習をしなかった学生についても、27.2%にとどまり、実習の経験をもとに、自発的学習を促すことが一定程度できたと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」と連動して展開される科目である。4. に記したように成績および学習達成度の自己評価、授業の質評価から、概ね授業の目標は達成されたと考えられる。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	高口 恵美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講動機は「必修科目である」が66.7%であり、「資格取得に必要である」が80%、「関心のある内容である」が13.3%であった。精神保健福祉士を目指すものにとって基本的な知識を得る教科であるが、関心が極端に低かった。実践がイメージ出来るような事例を豊富に取り入れながら、実践で役立つよう、要約や記録の機会を多く設けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	C P、カリキュラムマップ上の位置づけから見て、本科目は資格取得に必要な「選択科目」であり、精神保健福祉に関する援助の基盤となる知識を高める教科である。学生からの感想では「精神保健福祉に関する関心が高まった」とあり、学習達成度の自己評価からみても、D P、C Pともに内容は妥当であると考ええる。					

5. D P、C P、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P、C P、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	C P、カリキュラムマップ上の位置づけから見て、本科目は資格取得に必要な「選択科目」であり、精神保健福祉に関する援助の基盤となる知識を高める教科である。学生の自己評価では全体的に3.5以上であり、D P、C Pともに内容は妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について「評価基準が明らかである」の平均値は3.7、「学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は3.7、「説明は理解しやすいものであった」の平均値は3.7、「自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」の平均値は3.7、「口頭、文書など、何らかの形で質問を受け付け、答える機会が作られていた」の平均値は3.6であった。以上のことから、考察や意見交換の時間を意識的に設けたい。また、学習量の評価では、自主学習に取り組む機会を設けることが出来なかった様子がうかがえた。評価基準を明確に示し、学生が自主的に考察し自学に取り組むことが出来るよう工夫したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉の基本的知識を「学ぶ」時間と、学んだことを要約し記録する時間を多く設けたことから、学生の知識向上につながったと考える。しかし、授業時間以外に学習に取り組む機会につなげることが出来なかったことは課題である。以上のことから、学習のねらいや復習課題を提示するよう努めていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	高口 恵美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助演習Ⅱ	3	前期	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講動機は「必修科目である」が55.6%であり、続いて「資格取得に必要である」が77.8%、「関心のある内容である」が16.7%と、受講動機が低い。精神保健福祉士を目指すうえで必要な知識を得て、人に伝える、意見を交換しながら理解を深めるといった交互交流を主とした演習を行った。重ねて、実践場面を想定した演習では、小グループでの取り組みを導入し気づき合いを促し、関心が高まるよう工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価では「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」「専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」という項目で、すべての項目において平均値3.7以上である。学習量については、発表のための調べる時間が負担になったという意見もあるが、専門職として必要な知識を調べ誰かに伝えるというスキルを高めるために必要であると考え、今後も継続したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムマップ上の位置づけから見て、本科目は精神保健福祉士を目指すうえでの「必須科目」であり、相談援助の基本となる技術を身につけるための科目であるため内容は妥当であると考えます。グループワークを中心としているが、安心して積極的に発言出来る環境や雰囲気になるよう促したい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方法を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について「評価基準が明らかである」の平均値は4.0、「学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は3.9、「説明は理解しやすいものであった」は3.9、「自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」4.4「口頭、文書など、何らかの形で質問を受け付け、答える機会が作られていた」の平均値は4.2であった。今後も学生が自主的に自学に取り組むことが出来るよう工夫したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士としての基本的な知識と技術の習得に向け、必要な情報を調べてまとめる、誰かに伝える、テーマについて考えディスカッションする時間を多く設けたことから、学生の精神保健福祉相談援助に対する理解や関心が高まったと考える。しかし、さらに具体的場面を想定した演習などを取り入れ、実践力の向上に努めていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助演習Ⅲ	4	通年	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であり、精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、他の精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更なる考慮をして講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、精神保健福祉士の過去の国家試験問題等を利用したりしての解説等を行うことを事前に知らせ実施した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、演習参加協力度、リアクションペーパー、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全体的に80点以上が殆どを占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の試験対策にとっても役に立ったや、幅広く福祉全般の関連分野まで理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、受講の全学生が、精神保健福祉士の国家試験受験者であり、精神障害者福祉や医療福祉領域に興味があるということで、講義に対してのモチベーションは非常に意欲的なものが感じられ、高い関心を感じられた。学生も成績評価からみて、一定の到達領域に達しており、内容的には十分に妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性についても、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の項目が他の項目より平均点が低かった。座学であるがゆえ、なかなか困難かと思うが、可能な限り今以上に事例等の導入を検討したり、アクティブな活動を入れ込む等を検討を行い、引き続き次年度以降の課題としたい。学術データベースの利用に関しても残念ながら殆どなされてなく、利用の仕方からのインフォメーションを行うことも引き続き検討としたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。時間の作り方に関しても、引き続き具体的に指導を行いたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士国家試験受験資格の必須科目であり、全員が精神保健福祉士養成レーンの学生であった。今までの精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授を行ったが、4年後期の開講科目という点から、前半部分は今までの復習とその関連性も含めて講義を進めていくこととした。また、後半部分は両福祉士の国家試験が近付くということも考慮して、その試験に関することに関係性を持たせて講義を行った。更には、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、ロールプレイを取り入れ実際に演じてみるという演習を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めた。次年度は予習復習に関しても、引き続き具体的な指示を出すことにしたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3	通年	選択	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であり、精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、他の精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更なる考慮をして講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を、また、シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。更には、実習指導の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件等々を詳細に説明した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の資格取得に課せられた精神保健福祉援助実習Ⅰ（医療機関実習）の事前事後指導の科目である。3年次の医療機関実習での実習に向けた各自の目標設定や課題の確認等をしてしながら医療機関実習に臨むことができている。実習終了後のグループワークの中でも、自身の実習中のことを振り返ることができており、更には次年度の実習Ⅱの目標も、ある程度立てられるようになっている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	3年次の精神保健福祉援助実習Ⅰに対しての、事前事後指導という位置づけである。精神保健福祉援助実習Ⅰを通して学んだことを、個別体験から総合的包括的な理解へと広がるための科目設定である。従って、内容的には妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価に関しては、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていたの項目と、質問の受付答える機会の提供の項目については高得点だった。できるだけ主体的参加によるグループワークが展開できるような、演習形式を意識して行っていたための評価であると考えている。実習事前事後指導については、具体的実習先を早い段階で決定して、各自の実習目的を明確化することを進めていった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士を目指す学生のみが受講生をしめる本科目において、学生の学習への動機づけはある程度学生自身でできていると思われる。実習に向けての職業倫理や行動規範などにより時間をかけるとともに、授業外での学習を促したり、勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して勉強することへの動機づけができたのではないかとと思われる。次年度も、引き続きこの点を取り入れて授業を組み立てていこうと考えている。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	通年	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機は、精神保健福祉士の国家試験受験資格の指定科目であるため、必修であると回答した学生が多いと考えられる。また、学生は資格取得に必要な科目であることを意識しての受講であることがわかる。 ②資格取得のための指定科目という意識づけをオリエンテーションでの目的として、実習指導の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。 ③授業の実施に当たっては、できるだけ具体的な内容を含めて、説明を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の資格取得に課せられた精神保健福祉援助実習Ⅱ（地域実習）の事前事後指導の科目である。3年次の医療機関実習での学びを通して4年次の実習に向けた各自の目標設定や課題の確認等をしながら地域実習に臨むことができている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	精神保健福祉援助実習Ⅱに向けた、事前事後指導という位置づけである。精神保健福祉コースの総括としての実習Ⅱを通して学んだことを、事後指導の時間を多く設けて個別体験から総合的包括的な理解へと広がるための科目設定である。内容的には妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価に関しては、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた、及び質問の受付答える機会の提供の項目についても高得点であった。できるだけ主体的参加によるグループワークが展開できるような演習形式を意識して行っていたための評価であると考えている。実習事前事後指導については、具体的実習先を早い段階で決定して、各自の実習目的を明確化することを進めていった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士を目指す学生が受講生をしめる本科目において、学生の学習への動機づけはある程度学生自身でできていると思われる。実習に向けての職業倫理や行動規範などにより時間をかけるとともに、授業外での学習を促したり、勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して勉強することへの動機づけができたと思われる。次回も引き続き、この点を取り入れて授業を組み立てていこうと考えている。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神障害者地域生活支援論	4	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	社会福祉士や精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目ではないが、精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、他の精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更なる考慮をして講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、精神保健福祉士の過去の国家試験問題等を利用したりしての解説等を行うことを事前に知らせ実施した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、最終レポート、リアクションペーパー、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全体的に80点以上が殆どを占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の試験対策にとっても役に立ったや、幅広く地域での福祉全般の関連分野まで理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、両福祉士の国家資格を取得するための専門科目ではないのにも関わらず、その関連性の高さから、講義に対してのモチベーションは非常に意欲的なものを感じられた。また、受講の全学生が、精神保健福祉士の国家試験受験者であり、精神障害者福祉や医療福祉領域に興味があるということで、高い関心を感じられた。学生も成績評価からみて、一定の到達領域に達しており、内容的には十分に妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性についても、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の項目が他の項目より平均点が低かった。座学であるがゆえ、なかなか困難かと思うが、可能な限り今以上に事例等の導入を検討したり、アクティブな活動を入れ込む等を検討を行い、引き続き次年度以降の課題としたい。学術データベースの利用に関しても残念ながら殆どなされてなく、利用の仕方からのインフォメーションを行うことも引き続き検討としたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。時間の作り方に関しても、引き続き具体的に指導を行いたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士の国家試験受験資格の科目ではないが、その関連性が強く、全員が精神保健福祉士養成レーンの学生であった。今までの精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授を行ったが、4年後期の開講科目という点から、前半部分は今までの復習とその関連性も含めて講義を進めていくこととした。また、後半部分は両福祉士の国家試験が近付くということも考慮して、その試験に関することに関係性を持たせて講義を行った。更には、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、多くの事例を提供して検討を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めることができたと感じられる。次年度は予習復習に関しても、引き続き具体的な指示を出すことにしたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
福祉臨床心理演習Ⅲ	3	後期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は「資格に必要である」75.0%であった。認定心理士資格取得希望者が多く受講している。それ以外の学生はそれぞれの自主的な判断により選択、受講している科目と考えられる。 本科目は、高齢者領域の臨床心理学、心理アセスメントと心理療法を取り上げており、3年後期は社会福祉士の実習期間が入ることを念頭に、心理アセスメントの理解を十分に深めた上で、心理療法について取り扱うよう計画した。受講学生のなかには、高齢者領域に実習に行く学生もあり、体験を交えて知識や技術を獲得できるよう学生の意見を多く取り入れた演習となるよう心掛けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82.0点であった。概ね80点以上の理想的レベルに到達している。 学生の自己評価においても到達度平均点は3.5～4.0点であり、学生も目標を達成したと感じていると考えられる。 「専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の平均点は3.8点、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均点は3.8点であり、特に「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「学びを深めたいと意欲をもつことができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均点は4.0点で且つ「わりにそうだと思う」と答えた者が受講者のうち100.0%であったことから、殆どの学生が対人援助職を目指す者としてのスキルアップを実感したと言える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「選択科目」であるが、高齢者領域の臨床心理学の心理アセスメントおよび心理療法を体験的に学ぶことのできる内容である。したがって、基礎的な心理学、発達心理学の知識を修得した上で、それを実践にどう結び付けていくかを考えていく段階での学習が有効である。よって、3年次の開講は適切であると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業はまず対象者理解を促し、心理アセスメント・心理療法についての解説を行った後、学生同士のロール・プレイを行った。今年度は、アセスメントにあたっては行動観察の視点を示す認知症高齢者に関する文献を紹介し、心理検査一辺倒のアセスメントとならないよう指導した。また、心理療法については、回想法を紹介し、計画から実施、振り返りまでの一連の流れを体験させた。 授業の質の評価は平均点が4.0～4.5点であった。評価基準、学習の範囲や課題については、学生は適当だと判断したと考えられる。また、授業内での説明、参加の機会、質疑の機会についても理解が得られたと考えられる。 授業の予習を1回以上行った学生は75%であり、授業の復習を1回以上行った学生は75%であった。授業以外の学習に取り組んだという学生は0名であった。以上より、予習復習について多くの学生が取り組んでいたことは高く評価できる。さらに、今後はもっと学生が自主的に発展的な学習に取り組んでいこう、参考図書等を積極的に紹介していくことも検討していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の目的とする基礎的知識の形成および関心意欲の向上について、概ね達成できた。 今年度は、授業の進行の工夫により、技術の向上を実感する学生が多くみられたことから、この取り組みは次年度も継続していくこととする。また、今後はさらに自ら進んで学ぶ姿勢の学生が増えるよう、参考図書等を積極的に紹介していくなどの工夫をしていく。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会心理学	3	後期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は「必修科目である」8.3%、「資格に必要である」25.0%、「関心のある内容である」16.7%、「単位数を確保する」50.0%であった。選択科目であり、認定心理士資格取得希望者には必要な科目であるが、それ以外の学生はそれぞれの自主的な判断により選択、受講されている科目と考えられる。今年度は、例年と比較し、「単位数を確保する」を動機として挙げた学生が多かったようである。 本科目は、個人と環境との関係を重視する心理学の領域を取り上げており、身近な現象を研究により理論としたものが多い。講義のなかでも身近な例を取り上げて、研究方法やその理論について解説を行うが、学生が日常生活や今後の専門性を生かした働き方と重ねて学ぶことができるよう、小レポートにて学生から具体的な例を提案させることにより、専門性のある概念や言葉に親しみ、関心を深めるようにしている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は75.5点であった。受講者の全員が60点以上であり、標準的レベルの知識理解が進んだと考えられる。 学生の自己評価の平均点は3.2～3.4点であり、「まあそうだと思う」「わりにそうだと思う」につけた受講者がほとんどであった。特に、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「学びを深めたいと意欲をもつことができた」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「職業選択の参考になった」の平均点が3.4点であった。「関心のある内容である」という学生は16.7%と少なく、「単位数を確保する」という受講動機の学生が50.0%と多かったが、知識理解と意欲関心を高めることができたのではないかと考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「選択科目」であるが、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験に頻出の内容である。また、それらの資格に加え、養護教諭、保育士など対人援助職として個人と環境との問題を検討するためには基礎となる学問である。心理学概論、発達心理学、臨床心理学等の心理学の各領域の知識を獲得し、さらに専門性を高めようとする3年の時期に学ぶことは、適切であると考えられる。 受講動機では、「関心のある内容である」が16.7%と低かったが、学習到達度の自己評価からは、それを高めることができたのではないかと考えられる。自由記述欄にて「楽しくできた」という感想を得ることができた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業は、テキストに沿ってパワーポイントで解説を加えながら説明を行った。できる限り、身近な例を加えて説明するようにし、学生にも授業の終わりに、社会心理学の理論や概念を学生自身にとって身近な例で説明するよう小レポートの課題を課した。小レポートにて学生の解釈にずれがあった場合は、添削して返却し、学生のミスを早い段階で修正するように心がけた。次の授業では、受講生全員の<例>をもとに、前回の授業を振り返った。授業の質の評価では、「評価基準は明らかであった」の平均点は3.6点、「学習の範囲や課題は明らかであった」の平均点は3.7点、「説明は理解しやすいものであった」の平均点は3.7点であった。このことから、授業の進め方はおおむね評価されていると考えられる。 また、学生アンケートによると、学習準備を30分程度1回以上行った者が3名だった。また、復習を30分程度1回以上行った者が3名だった。授業以外の学習に取り組んだという学生は1名であり、自由記述欄に「試験勉強」と記述されていた。試験結果からは、知識はおおむね身についていたことから、試験に向けて集中的に学習に取り組んだ者が多かったことが推測される。 本授業は3年生開講科目であるため、実習等の授業課題が多いこと、補講によりまとめて一度に多くの知識を吸収しなければならないことなどがあり、授業内で得た知識の獲得に集中した学生が多かったのではないかと考えられる。受講生には、今後、実社会の中で生きた知識として応用することを期待する。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の目的とする基礎的知識の形成および関心意欲の向上について、概ね達成できた。 今後も継続して学生の知識と意欲の向上に努めていく。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
コミュニティ心理学	4	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は「資格に必要である」71.4%、「関心のある内容である」42.9%、「友人が履修している」14.3%であった。選択科目であり、認定心理士資格取得希望者には必要な科目であるが、それ以外の学生はそれぞれの自主的な判断により選択、受講されている科目と考えられる。 本科目は、臨床心理学の実践から生まれた応用領域の学問を学ぶものである。このコミュニティ心理学の基本概念や実践報告には、臨床心理学や社会福祉学と重なる点や異なる点が数多くみられる。そこでこれまで福祉学科で培った各学問との関係、各対人援助領域での応用のあり方について、文献を読み解きながら、受講者全員による質疑、議論を重ねることで、本科目の知識を吸収していくことを促した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は95.3点であった。全ての受講者は理想的レベルの知識理解が進んだと考えられる。 学生の自己評価においては「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均点は3.9点、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均点は3.7点、「専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均点は3.6点であった。 また、授業の質の評価において、各項目の平均点は3.6点であり、概ねすべての学生が授業の質を好意的に評価していた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「選択科目」であるが、臨床心理学の応用領域ということから考えると、これまで3年半の間に獲得した心理学と社会福祉学の各領域の知識を生かし、さらに専門性を高め、実践に結び付けることを志向し議論することは、4年後期の時期に適切であると考えられる。到達度自己評価は「自分なりの目標を達成した」の平均点は3.1点であり大半の学生が自らの目標を達成し、成長を実感することができたと推察できる。 授業の質評価は、各項目の平均点は3.6点であり、学生の力に合った授業内容であり、授業展開ができたと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業外での学習については、学習準備を30分程度1回以上行った者が2名だった。また、復習を30分程度1回以上行った者が2名だった。また、授業以外の学習に取り組んだという学生は0名であった。今回は、基礎的な内容をまとめて解説したうえで、実践研究に関する文献を紹介する形で授業を運営したが、自らまとめていく機会がやや減ったため、学生が今日的な福祉課題と結びつけてコミュニティ心理学を日常に応用していくようなところまではいかなかったように感じられる。また、多くの学生は国家試験対策と並行して学ばなければならない4年後期開講の本科目に対し、授業外に学習する時間を割く余裕があまりなかったと思われる。授業内での学習については、授業の質評価はほぼ3.6点であり、可もなく不可もないといった反応にとどまっている。 以上のことから、今後も授業内での学習の質を保証するだけでなく、授業外でいかに学ぶ必要があるかということを伝えていく工夫をさらにしていくことが必要なのではないかと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の目的とする基礎的知識の形成および関心意欲の向上について、概ね達成できた。 今後も、適切な知識の提供とともに、受講者全員による質疑、議論を重ねることで、知識の吸収を促していく。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
運動処方論	3	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	今回の受講動機をみると、「関心のある内容である」と答えた学生は57.1%、「単位を確保する」が42.9%であった。 授業においては、1年次の「健康科学」の内容を振り返ることで、健康に関する正しい理解を促すと同時に、高齢者、妊婦、および子どもに適した運動（遊び）のプログラムの作成方法について具体的に説明を行った。 毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次回の授業で説明を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は81.7（±13.0）点であった。成績分布別にみると、90点以上が30%、89～80点が30%、79～70点が10%、69～60点が30%であった。受講者全員がが標準的レベルに達しており、そのうち6人の学生が理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が14%、「わりにそうだと思う」が57%、「まあまあそう思う」が29%、であり、全員が肯定的に捉えていた（平均値3.9）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が14～29%、「わりにそうだと思う」が57～71%、「まあまあそうだと思う」が14%と、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.0～4.1）。 「技能・表現（DP5）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目7と8）についても、「かなりそうだと思う」が14～29%、「わりにそうだと思う」が57～71%、「まあまあそうだと思う」が14%と、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.0）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	専門教育科目の「保健・医療関係科目」に含まれる科目である。授業では高齢者、妊婦、子どもそれぞれの特徴を理解させた上で、それぞれに適した運動（遊び）プログラムの作成方法について具体的に解説を行った。「知識・理解（DP1）」、「思考・判断（DP2）」および「全体を通して」に関する学生の到達度自己評価では、すべての学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.7であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習を行った学生の割合は、2,3回が14%、1回が14%、0回が72%であった。 1回30分程度以上の復習を行った学生の割合は、2,3回が14%、1回が14%、0回が72%であった。 また授業課題以外の学習に取り組んでいなかった学生の割合は72%であったことから、学生の学習意欲をさらに高める工夫をする必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	目標は概ね達成できたと考える。 今後の課題としては、定期的に予習・復習を行う学生、また授業課題以外の学習に取り組む学生を増やすために具体策を考えることである。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	樋口 善之

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地域保健学Ⅰ	3	後期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたっては、本科目が養護教諭コースを希望する学生が受講していることから、地域保健の仕組みや実践活動の具体例など、養護教諭として知っておくべき基本的内容を網羅することに努めた。また、授業の準備性を高めるため、適宜、学校保健との関連性について説明を加えた。学修準備性については、受講態度もよく、おおむね良好であった。しかしながら、課題以外の学習に取り組んだ学生は非常に少ないことから、主体的な学びをいかに実現するかを今後の課題としたい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目は、養護教諭の実践力の育成に関連する科目であり、知識理解に重点を置いた。学習到達度の自己評価として、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は3.6であり、知識理解は達やや成できたと考える。また、思考判断・意欲関心についても「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことが出来た」が3.7点、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」が3.6点であった。 一方、技能表現については、講義形式で座学が中心であったことから、完全に達成されたとは言いがたい。学生の自己評価も「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」が3.6点、「コミュニケーション能力や表現力を高めることができた」が3.3点と他の項目に比べて低くなっていた。この点について、アンケートの実施時期が実習に伴う補講措置の関係で、情報収集課題を伴う授業の前になったことが影響している可能性はあるが、次年度以降の課題として検討したい。 全体を通して、最終的な成績の平均点は89.9点、再試験対象者が0名であった。到達度としては概ね良好であったと考える。授業の予習復習や課題への課題については取り組む姿勢が見られたが、前述の通り、指示された課題以外の学習に取り組むものがいなかったことは非常に残念である。参考図書などを紹介して、自主的な学びを促していきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムとして、本科目は養護教諭を希望する学生が受講する選択科目であり、専門教育科目として位置づけられている。学校保健の実践者になる上で必要な関連知識を学ぶ位置づけであることから、講義の内容としては、基礎的な知識の修得と意欲の醸成に重点を置き、成績評価としても記述式の期末試験を課し、地域保健に関する基礎的知識と共に、自己の考えを述べる設問内容としている。カリキュラムの位置づけとしての内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については、より学校保健との関連性についての説明を適宜加えていくことが学修意欲を高めることにつながると考える。公衆衛生学的な地域保健に関する高度な内容の解説よりも、学校保健との関連性から地域保健事業の背景や課題などをみることによって、知識だけでなく、積極的な主体的学びにつながると考える。また、講義の中で専門用語や組織などは名称や詳細などは、インターネットなどを活用して自主的に調べることを促すことも検討したい。C24
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合的評価として、おおむね良好であったと思われる。しかしながら、本講義を担当した過去の授業評価に比較して、当年度の評価は芳しい結果ではなかった。授業者としては、地域保健に関する基礎的な理解に重点をおいて行っているが、より学校保健との関連性について触れるようにする必要性を感じた。授業の進め方については肯定的な評価（説明は理解しやすいものであった・・・3.7点）もあったところから次年度も継続して授業改善を進めていきたい。特に、基礎的な知識の修得に加え、授業スタイルとして、発言の機会を増やしたり、ブレインストーミングを取り入れたりするなど、双方向的な授業になるよう心がけ、より主体的な学びにつなげていく授業改善は継続していきたいと考える。前段でも触れたが、「地域保健をなぜ養護教諭が知っておくべきなのか」という点について受講生が主体的に考えるようにしていくことが本科目の課題であると考えている。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神保健学	3	後期	選択	いいえ	52

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目、かつ教職の必須科目であることから、他の受験資格科目と、教職科目との関連性を考慮して講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、1, 2年次での開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明し、教職課程における本講の重要性を述べた。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、定期試験の件、社会福祉士の実習期間に伴う補講の件、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、関連キーワードの確認テストを行ったり、後期のみの講義で、30コマあること（週に2回）から学習状況確認のために、16回目に中間的な小テストを行うことを事前に知らせ実施した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、定期試験、確認テスト、リアクションペーパー、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全体的に80点以上が約3割を占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の受験資格を取得するためだけではなく、教職との関連性も含め、幅広くメンタルヘルス全般の関連分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、精神保健福祉士の国家資格を取得するためと、教職必修の科目でもあり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものが感じられた。また、精神保健福祉士の受検資格は取得し国家資格も取得するけれど、精神方面には進まないという学生や、教職免許は取得するも、教育には進まないという学生、の受講もあったが、メンタルヘルス領域に興味があるということで、高い意欲を感じられた。学生も成績評価から、一定の到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「コミュニケーション力や表現力を高めることができることができる」の平均点が、他の項目より低かった。座学であるがゆえ、なかなか困難かとは思うが、可能な限り今以上に事例等の導入を引き続き検討したり、アクティブな活動を入れ込む等を引き続き検討していくことを次年度の課題としたい。学術データベースの利用に関しても殆どなされてなく、利用の仕方からのインフォメーションを行うことも引き続きの検討としたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。時間の作り方に関しても、引き続き指導を行いたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得するために必要な科目、および教職必修科目ということで、精神保健福祉士養成レーンと養護教諭レーンの学生の受講が多かった。2年次での精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授を行ったが、2年次に受講していない学生（養護教諭レーンや、メンタルヘルス領域に関心を持つ者）も受講していることから、前半部分は2年次の復習とその関連性も含めて講義を進めていくこととした。また、上記に示したように、よりリアリティを習得すすために、事例を提供して検討を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めたと感じられる。次年度も引き続き予習復習に関して具体的な指示を出すことにしたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会的養護	3	後期	選択	はい	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	テキストの解説を中心に授業を構成した。睡眠や授業以外の行動に従事している学生が多かった。参加度が低いのは授業内容の問題もあると考えられるが、関心を深める動機づけについては課題としたい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった		やや達成されなかった
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業中の参加度、小テストの結果などからして、一部の学生を除き大方の学生の達成度が高いとは言えない。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容については概ね妥当であると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「ただの教科書朗読会」という学生からのコメントがあったが、授業開始時に音読して参加学生全員が少なくとも教科書を読むことを伝えていたが、理解されていなかったと思われる。授業参加度が高いとは言えずまた再三注意したにもかかわらず教科書すら購入していない学生もあり、次年度以降の動機づけの工夫をしたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	一部を除いて、大方の学生が内容理解が深まったとは判断できない。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	吉積 秀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
子どもの食と栄養	3	通年	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	初年度にあたり、前任の先生のアドバイスで講義の最初に受講動機のアンケートを行った。「必須科目だから」「資格取得に必要なだから」と答える学生がほとんどだったが、資格取得後保育士として活動したいと答えた学生は一人であった。次年度は保育コースを選んだ理由の項目を新たに加え、学生の学習目的及び意欲の確認を行いたい。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	概ね80点以上とってほしいと試験を作成したつもりだったが、平均値は71点だった。標準レベルに達していたと思うが、理想的レベルに達したものは22名中5名であり、その中で特に基礎的な栄養に関する12問の問題の正解は1問正解の人から9問正解の人まで隔たりがあり、その平均は6問正解であった。次年度は基礎的な栄養に関する講義を特に重点目標の一つにしたい。今年度のレポート、プレゼンテーションを含めた最終的な成績は平均80点あり、再試験対象者は0名であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価をみると、「かなりそう思う」「わりにそう思う」「まあまあそう思う」を含めると94～95%であったが、「かなりそう思う」「わりにそう思う」と答えた学生が33%にすぎなかった。次年度は学生の自己評価をあげられるよう学生と密な対話をもって進めていきたい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	実習時の説明に私が「学生に対して理解してほしい」と思った部分と「学生が理解してくれた部分」に少し差があったように思われた。もう少し、丁寧に説明をしていきたい。復習に関しては、講義の最後に復習の課題を提示していたが、半数の人が「していない」と答えている。次年度からは復習の時間を講義の最後または、次回講義の最初に設けていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生の到達度自己評価をみると、おおむね達成されたように思われる。但し、実習では良いが、一方的になりやすい講義については、質疑応答等を加え、学習の強化につなげたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育内容 総論	4	後期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、ほぼ全ての学生の動機がそれに該当する。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 上記の状況は例年変わらないが、今年度は具体性の高い内容を設定し、実施に保育現場にも行って演習を行なった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価から全体的な教育目標は達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」においても平均値が4.2点を切る項目は無く、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。保育現場での演習のための準備においても、概ね全ての学生が積極的に取り組んでおり、「資格取得に必要な科目」でありながら、意欲関心が非常に高く、主体的な学びの様子が確認された。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、保育内容におけるまとめとなる科目のため、関連DPについては妥当であるとする。また、保育内容の各論を踏まえ実習後に総合的に保育内容について理解する科目として位置付けていることから、CP、カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	毎年、4年生の他科目との関連から、課題量が負担になると言う意見が多く、今年度は授業内容を変更した。一つの課題にかける時間を増やす代わりに、学外演習を取り入れる等、内容を深めたが、学生の取り組み、成績評価から、一定の成果があったと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	深堀 和枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
乳児保育	3	通年	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講動機を見ると「必須科目である」が66.7%、「資格取得に必要である」が44.7%ということで、できるだけ楽しく学んで欲しいと考え、毎回わらべうたや手遊びなどを取り入れるようにした。 ②講義だけでなく、制作、グループワーク、演習など技術を取得するために必要と思われることを積極的に授業に組み込んだ。 ③教科書だけでは子どもの発達に分かりづらいと考え、子どもの発達の特徴や保育現場の映像を活用しわかりやすく説明した。 ④授業終了前には今日学んだことや印象に残ったこと、質問など毎回記入してもらった。それを次回の授業の時、学びや印象に残ったことを振り返り、質問に解答し復習に努めた。 ⑤保育実習を前に保育所見学やふれあい体験などを勧めたが、参加はなかった。外部非常勤講師のため授業に組み込むこともできなかった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①学生の達成度自己評価では、平均値が3.7であった。テストは概ね理解できていたが、コミュニケーションや表現力を高めることはできるだけ多く取り入れたが、目標達成には努力が必要である。昨年度の前期テストで子どもの発達理解が点数が低かった為、今年度は復讐に力を入れた確認したことで正解率が70%にあがった。 ②学生による授業の質評価は3.7～3.8であった。思考判断では偏りがあり、理解するには説明が不十分だった可能性があると思われる。もっと個別に確認していくべきだった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①受講動機は「必須科目である」が66.7%「資格取得に必要」が44.4%のため、意欲的に学ぶ姿勢が有り、内容的には事例を多くあげていき学生も一定の成績を収めていることから学生の達成すべき行動目標は標準レベルに達し、内容的には妥当であったと考える。 ②「楽しかった」との意見が有り、現場ですぐに活用できるように製作やグループ討議・発表を多く取り入れたことで対応技術などの経験を積んだことの成果であると思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価は3.7～3.8だった。学生が参加する機会を多く設けたのだが、昨年に比べ平均値が低かった。 ②「図書館、インターネットの利用」は低く、学生が自主的に学ぶ機会を作る授業の工夫が必要と感じた。インターネットは情報が多いので、どれを選択するのか正しい情報を取り入れることは課題である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①現場に出た時に積極的に実践できるようベビー人形を活用し安全面への配慮やわらべうた遊びを多く取り入れるなどして「保育実習Ⅰ」に繋いだ。 ②前期と後期では実習を通しての学びの差があると感じた。講義や演習をする中で、現場の実態や講義での学びを通して自分の考えがしっかりとしてきた学生の姿を見ることができた。また、受け入れる施設での多少の違いがあり連携の課題が見えた。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
障害児保育	3	通年	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	障害児の療育について歴史的経緯を踏まえ、今日のあり方を理解してもらうことを意識して授業を構成した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	課題ノートの作成状況レポートの内容から判断した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容としては妥当であると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	予習用に提示したテキストは翻訳書であり、翻案していない部分があるが、今日の障害児保育の方法論としての意味を学生に伝えたい意図から提示した。現場用に応用してほしい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	定期的な退出物の点検や、レポートの内容からして、多くの学生が十分に学習したとは判断できない。動機づけを含めて、次年度の授業に反映したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育相談支援	4	後期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	開講時期が四年次ということもあり、一定の相談援助の技術・知識は持っているものと考えられた。しかし、過去2年間の授業を通して、学生が事例を味わい、より深く対象を理解する・様々な可能性を探るといった経験は少ないものと思われた。近年、本邦は少子高齢化の社会の中で核家族化や都市化の進行、女性の社会進出が増加し、保育のニーズも多様化するようになってきた。また地域や家庭の子育て機能が低下し、子育てをする保護者の孤立感・育児不安が増大し手来ているとも言われ、それらの対応に保育所の保育士が携わる事が期待されるようになった。そこで本演習では、様々な相談援助の専門家の中でも「保育士の専門性を活かした支援の方法」について、学びを深められるよう授業を展開し、グループ活動・ディスカッションを行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない		どちらともいえない	どちらともいえない		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は77.83(±6.53)であった。4年生後期の科目であり、職業選択の参考にするための科目と言うよりは、これまで学んだ知識・技術に加えて新たな視点を提供するための科目であると考えられていたが、学習到達度の自己評価がいずれの項目においても3.5-3.6とさほど役に立っていないようであった。しかしながら今年度は全ての項目の平均値が3.5-3.6であった。本科目は昨年度まで前期に開講されていた科目であったが、今年度から後期に開講されることになった。開講時期の変更により、国家試験や就職活動等で授業に取り組む姿勢になれていたかどうか、授業評価を行う姿勢にも影響があったのかどうか、慎重に検討する必要があると考えられる（昨年度の学習到達度の自己評価は3.8-4.3、授業の質評価は4.2-4.5）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「保育関係科目」に位置しており、学科のCPとも合致した授業内容となっている。学生は本科目を「必修科目である」75.0%、「資格取得に必要である」62.5%と評価しており、「関心のある内容」と答えた学生は12.5%に過ぎなかった。また昨年度と比べ学習到達度評価及び授業の質評価において低い評価を得たことから、本科目の開講時期の適時性についての検討が必要かもしれない。また内容的・方法的妥当性についての検討も、数年かけて推移をみていきながら行っていきたい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質及び学習到達度の評価があまり高くなかったことから、開講時期の適時性、内容・方法論上の妥当性について経過を追って検討していく必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	12名全員が少なくとも1回以上欠席していた。欠席理由を聞いてみると実習や就職活動等によるものであったが、例年に比べると欠席が目立った。これは開講時期の変更により、怒ったものと考えられる。今年度も事例検討の時間やグループディスカッションの時間配分等について調整したが、成績の平均値の向上や学生の積極的態度にはつながらなかったため、複数年かけて推移を見ながら開講時期の適時性、内容的・方法的妥当性について検討していきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育実習指導Ⅰ	3	通年	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、ほぼ全ての学生の動機がそれに該当する。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うというよりは、必然的に受講している科目である。 学生の受講動機に関わらず、保育実習に行くための準備科目であるため、社会人としての基礎的なマナーから実習に必要な書類作成、実習の心がけ、基本的な保育技術について教授する準備を整えた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価から、全体的な教育目標はやや達成できたと考える。一方で、学生の「到達度自己評価」において一名が全項目「1」と回答しており、授業の内容が適切に伝わらなかった点があると考え。自由コメントにおいてもその点がうかがえる内容の記述があり、丁寧な説明を心がける必要があると考える。上述の点より、学生の自己評価の平均値は全体的に例年より低くなっているが、その1名を除く平均では例年を上回る値である。 実習の準備に関わる科目のため、授業内容、進行については大きな変更は困難であるが、説明についてより詳しくする必要があると考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、学内の学びを総合的に実践の場で学ぶ機会であるため、上級学年での開講の必要がある。その点を踏まえて、DP、CP、カリキュラムマップにおける位置づけにおいては妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方法を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	実習に行くために必要な知識・技術を身に着けるための科目であるため、必要な教授内容を系統的に配置し、進行した。講義だけでは、学生の理解に差が出るため、学習進度に合わせて4名の教員で授業時間外に個別に対応し、全体の授業進行を均一に保った。しかし、上述の1名の学生のように、伝わりにくかった点があると考えられるので、説明についてはより丁寧にすることを心がける必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	実習先からの評価、成績評価から概ね教育目標は達成できていると考える。学生の学力差に対する対応が今後の課題である。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育実習指導Ⅱ	4	通年	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、全学生の動機がそれに該当する。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うというよりは、必然的に受講している科目である。 学生の受講動機に関わらず、保育実習に行くための準備科目であるため、社会人としての基礎的なマナーから実習に必要な書類作成、実習の心がけ、基本的な保育技術について教授する準備を整えた。また、2度目の保育所実習ということで、1回目の実習を踏まえて、各個人について必要な保育技術についても事前に聞き取りを行い準備した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の「到達度自己評価」において全受講生が目標を達したと回答しており、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。また、実習後の保育所からの評価についても全学生とも標準以上の評価であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、学内の学びを総合的に実践の場で学ぶ機会であるため、上級学年での開講の必要がある。その点を踏まえて、DP、CP、カリキュラムマップにおける位置づけにおいては妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	実習に行くために必要な知識・技術を身に着けるための科目であるため、必要な教授内容を系統的に配置し、進化した。特に2回目の保育所実習であることから、高い保育技術を教授できるよう、全受講学生のニーズに個別に合わせ2名の教員で授業時間外にも個別に対応した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	実習先からの評価、成績評価から概ね教育目標は達成できていると考える。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育実践演習	4	通年	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、履修者全員資格取得を目指している。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。 上記を踏まえ、保育士として勤務するに当たり必要となる実践的な知識・技術を演習形式でロールプレイを通して経験し、身に付けることが出来るよう、多様な演習内容を準備した。具体的には、5つの異なる演習の計画・実行・反省を通して、学修が進むように授業を進めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価において全ての学生が達成されたと答えており、成績もそれを反映するものであった。昨年度は図書館の利用率が低かったため、課題の内容を変更した結果、今年度は半数が図書館を利用したという結果が得られた。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、4年間のまとめとなる科目のため、関連D Pについては妥当であるとする。また、4年間の学習後に総合的に保育実践力を身に付ける科目として位置付けていることから、C P、カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業への取り組み、授業内のディスカッションの内容、各演習の実施、振り返り、成績評価を踏まえて、授業の進め方は概ね問題ないとする。 各演習課題の準備について準備時間が不足するという学生の意見については、準備時間は必要に応じて設けているにも関わらず、取り組みが遅く、直前で時間が足りていない様子が見受けられるため、準備期間中に継続的に課題に取り組むよう促し、適宜サポートする必要があると考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	成績評価上も概ね教育目標は達成できているとする。授業進行については、継続的な課題への取り組みの促しとサポートが必要であるとする。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この授業を受講者は6名で、うち4名は養護教諭を希望している学生であった。 この授業では、健康や体力に関連した記事を読んだり、ビデオをみて理解できた内容や感想を発表させたり、わからなかった用語を調べさせると共に、内容について質問したり、説明を加えることによって興味・関心を高めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は83.3（±5.2）点であった。成績分布別にみると、90点以上が40%、89～80点60%であり、全員が理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が17%、「わりにそうだと思う」が50%、「まあまあそうだと思う」が33%とすべての学生が肯定的に捉えていた（平均値3.8）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が17%、「わりにそう思う」が50%、「まあまあそうだと思う」が33%と、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値3.8）。 「思考・判断（DP2）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目4と5）についても、「かなりそうだと思う」が17%、「わりにそう思う」が66%、「まあまあそうだと思う」が17%と、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.0）。 「意欲・関心（DP3）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目6）についても、「かなりそうだと思う」が17%、「わりにそう思う」が66%、「まあまあそうだと思う」が17%と、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.0）。 その他、「技能・表現（DP5）」（質問項目7と8）、「態度（DP4）」（質問項目9）に関する学生の到達度自己評価についても、平均値はそれぞれ4.0、3.8であり、すべての学生が肯定的に捉えていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	専門教育科目の「専門研究科目」に含まれる科目である。授業では、健康や体力に関連した記事を読んだり、ビデオをみて理解できた内容や感想を発表させたり、わからなかった用語を調べさせると共に、内容について質問したり、説明を加えることによって学生の興味・関心を高めた。すべてのDPおよび「全体を通して」に関する学生の到達度自己評価では、すべての学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.8～4.3であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習を行った学生の割合は、6回が50%、0回が50%であった。 1回30分程度以上の復習を行った学生の割合は、4, 5回が33%、2, 3回17%、0回が50%であった。 また授業課題以外の学習にも全員が取り組んでおらず、学生の学習意欲をさらに高める工夫をする必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	目標は概ね達成できたと考える。 今後の課題としては、学生の興味関心をさらに高め、積極的に研究する姿勢を身に付けさせるために、具体策を考えることである。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は、「必修科目である」100%である。具体的に学びたい方向性が定まっていない為、今日、何が社会的に問題となっているか、どのような方向性で社会が動こうとしているかについて、資料を基に考えさせるようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲をもつことができた。」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身に着けることができた」など全般的に高いもので、学生各自が習得できているものと考ええる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	到達度自己評価において③以上の評価が得られ各自成果があったと理解し妥当と判断する。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	全般的にさほど高い評価ではないが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」で平均値が下回っていたものの、学生の意欲は評価出来るものであった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」と評価されていることで次年度につなげる期待が持てた。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目においては、学生の興味・関心を十分に踏まえながら、学生の主体的学習態度を引き出せるよう指導を行った。具体的には、最初にゼミ全体として取り扱う研究テーマ（地域福祉）を設定し、その上で各人に興味・関心のあるテーマを決定させた。学生指導においては、全体・個別指導を並行して行いながら、学生同士の相互交流が深まることや学習意欲が高まるよう努めた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の達成状況について学生の授業評価アンケートにおける到達度自己評価から見てみると、「知識理解」（DP1）は「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（わりにそう思う44.4%、かなりそう思う11.1%）であり、目標をあまり達成できなかったと考える。「思考判断」（DP2）は、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（わりにそうだと思う33.3%、かなりそうだと思う22.2%）となっており、これも目標をあまり達成できなかったと言える。「意欲関心」（DP3）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う55.6%、かなりそうだと思う11.1%）であり、目標をある程度達成できたと言える。「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う55.5%、かなりそうだと思う11.1%）となっており、目標をある程度達成できたと考える。「技能表現」（DP5）については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（わりにそうだと思う44.4%、かなりそうだと思う11.1%）であり、また、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（わりにそうだと思う55.5%、かなりそうだと思う22.2%）と結果が分かれており、どちらも言えない状況にある。 以上により、本科目の教育目標の達成は、どちらも言えないと判断した。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①D P上の位置づけ 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、全DP項目において目標を達成しており、本科目のD P上の位置づけに問題はないと考える。 ②C P、カリキュラムマップ上の位置づけ 学生の将来の進路選択や学問的関心を深めるという時期からも、本科目のC Pおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業評価アンケートでの学生の学習量では、「授業の課題以外の学習への取り組み」について「していない」（77.8%）となっている。図書館の図書・雑誌の利用についても「利用していない」（66.7%）が示された。以上の結果から、学生の興味・関心を踏まえた指導を意識し、ゼミ運営を行っていたものの、実際には学生の主体的な学習態度や行動にはつながっていない現状が明らかとなった。今後の課題としたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	上記で述べた通り、本科目の教育目標は、各D P項目に対する学生の到達度自己評価から、「どちらとも言えない」と判断された。また、本科目を通して学生の主体的学習態度や行動を引き出すことも十分でなかった。今後も学生の興味・関心を的確に把握するとともに、学生自らがそれらを深めていく学習態度を身につけることができるよう指導やゼミ運営を工夫したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	社会福祉専門職を目指す学生、特段メンタルヘルス分野（精神保健福祉領域）に興味を持つ学生を対象としたゼミである。可能な限りリアリティを重視し、現場実践学を学ぶ機会の提供を行うことに重点を置いている。ゼミで、司法施設や福祉施設の見学を積極的に行ったり、社会福祉士会や精神保健福祉士協会の研修会にも積極的に参加した。本ゼミを選択するに当たり、事前に全員と面談を行い、趣旨説明やゼミの学習内容を説明した。外部活動を行ったら、必ず振り返りを行い、レポートにまとさせた。更には、4年次につながる様に、最終的に卒業研究である「ゼミ論」の』テーマの選定が行えるよう、アドバイスをを行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、参加意欲、態度、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全学生が80点以上であり、理想的レベルに達している。レポート等の内容から、幅広く福祉全般の関連分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的妥当性については、卒業するための必須科目であり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものが感じられた。また、メンタルヘルスや障害福祉、医療福祉領域に興味がある学生が選択しているということで、高い意欲を感じられた。学生も成績評価から、理想的な到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度は、学術データベースの利用に関してが殆どなされてない状況であったので、卒業研究にもかかわる重要事項でもあり、利用の仕方からのインフォメーションを行った。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。最終学年になることも考慮して、時間の作り方に関しても、引き続き指導を行いたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	メンタルヘルスについて興味関心がある学生が多く、全員精神保健福祉士養成レーンの学生であった。これまでの精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授した。次年度には専門研究Ⅱが設定されているので、それに引き継ぐような関連性を持って講義を行った。また、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、実践現場の見学を行ったので、現状と課題を追求できるように、さらなる内容を吟味していく必要があると感じた。次年度は予習復習に関しても、引き続き具体的な指示を出すことにしたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機としては、「必須科目である」83.3%、「資格取得に必要な科目である」16.7%の学生が答えている。 専門研究では個人で設定したテーマやグループで設定したテーマをもとに演習形式で行った。オリエンテーションではお互いを知るために、他己紹介等のグループワークを取り入れた。さらに、個人の興味のあるテーマについてディスカッションを行い、各自がテーマを設定しテーマについて、プレゼンテーションを行い、その後そのテーマについてグループワークを行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値は90.0点であった。 授業では興味のあるテーマについて個人が発表し、そのテーマについてグループ討議を行い、テーマの深化を図った。 学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.2、中央値4.0）、また意欲関心が高く、学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値4.3）、コミュニケーション力や表現力を高めることができた（平均値4.0、中央値4.0）と答えていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業では興味のあるテーマについて個人が発表し、そのテーマについてグループ討議を行い、テーマの深化を図った。 学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.2、中央値4.0）、また意欲関心においては、コミュニケーション力や表現力を高めることができた（平均値4.0、中央値4.0）と答えていた。 学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の担当教員への意見においては、自分のテーマについて資料を調べたりして積極的に取り組んだという意見があった。 また、学習量の評価について、図書館での学習などを通して、ほとんどの学生が学習準備をしていた。また、本ゼミに入って養護教諭になりたいと強く思うようになった等の意見があった。 本科目を通して養護教諭として専門性を深めていけるよう、グループ討議などを取り入れ授業構造を改善していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目を通して養護教諭としての専門性を深め、学校現場において活躍できるような実践力を身につけることができるように授業工夫していきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は「必修科目である」が100%である、3年次の専門研究Ⅰから継続し、学生自らが研究領域、テーマを決め主体的、積極的に研究の成果を各自がまとめる取り組みをした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「到達度自己評価」にもあるように「専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が全員であったことは評価できる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「到達度自己評価」にもあるように「自分なりの目標を達した」とする学生がほとんどであったことは評価できる。また、
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	卒業研究をまとめる作業でインターネットを活用したはずだが図書館での利用が評価に表れていなかったのが残念であった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	卒業研究のテーマは多彩であった。専門職に就いた者、一般に就職した者としたが、指導領域において3名が社会福祉士国家試験に合格し、医療機関に医療ソーシャルワーカーとして4名就職することができたことは学生の努力の成果だと考える。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	3年次からの引き続きで、社会福祉専門職を目指す学生、特段メンタルヘルス分野（精神保健福祉領域）に興味を持つ学生を対象としたゼミである。可能な限りリアリティを重視し、現場実践学を学ぶ機会の提供を行うことに重点を置いた。ゼミで、司法施設や福祉施設の見学を積極的に行ったり、社会福祉士会や精神保健福祉士協会の研修会にも積極的に参加した。3年次に設定した、自分の卒業研究の課題を「ゼミ論」としてまとめさせ、それに伴う文献研究や実践現場でのインタビューや調査等の指導を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、理想的レベルには達成した。また、ゼミ論、参加意欲、態度、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全学生が80点以上であり、理想的レベルに達している。ゼミ論、レポート等の内容から、幅広く福祉全般の関連分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的妥当性については、卒業するための必須科目であり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものが感じられた。また、メンタルヘルスや障害福祉、医療福祉領域に興味がある学生が選択しているということで、高い意欲を感じられた。学生も成績評価から、理想的な到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見での内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	前年度は、ゼミ論をまとめるために、学術データベースが、あまり利用がなされてない状況であったので、今年度はその活用方法を教授した。次年度も、利用の仕方からのインフォメーションを行うことを引き続き行いたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。就職活動や国家試験対策で時間を取ることが多くなるということも考慮して、時間の作り方に関しても、引き続き指導を行いたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	メンタルヘルスについて興味関心がある学生が多いということで、精神保健福祉士養成レーンの学生の受講が多かった。これまでの精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授した。卒業研究のゼミ論完成に向けて、それに引き継ぐような関連性を持って講義を行った。また、よりリアリティを習得できるように、実践現場の見学を行って、現状と課題を追求できるように指導できた。最終的には、全ゼミ生の就職が決定し、国家試験も良い結果を残せた。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	納戸 美佐子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機をみると「必須科目である」100%、「資格取得に必要である」50.0%、「関心のある内容である」50.0%であった。本年度の学生は、エンディングノートの活用方法の検討をテーマにしていた。そのため、学生のテーマに関して、文献研究等を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	再試験対象者は0名であり、全ての学生が標準レベル以上に達した。到達自己評価において、「自分なりの目標を達成した」「事象を理解する視点や考え方を得ることが出来た」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることが出来た」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断することが出来た」「職業倫理や行動規範について学ぶことが出来た」「職業選択の参考になった」の平均値は、4.0点であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP・カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性：本科目は、カリキュラムマップにおける専門教育科目である。全ての学生が標準レベル以上に達したことから内容は妥当であると考えられる。 ②DPにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性：本科目の受講動機は「必須科目である」が100%であった。しかしながら、到達度自己評価をみると、理解（DP1）、思考判断（DP2）、意欲関心（DP3）、態度(DP4)、技能表現（DP5）は「達成された」と考えられることから、内容は妥当であると思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	自ら考える時間とグループで意見交換をする機会を確保するようにした。授業の質の評価では、全ての項目の平均値が4.0点であった。学生が自ら考える時間とグループで意見交換をする時間を確保する事を重視し、講義を行った。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	全ての学生が標準レベル以上に達したと考えられる。学生が関心を持ち、積極的に取り組むことができる課題や機会を確保することにより、主体的な学びが促進されたと考えられた。また、グループワークを行うところにより、チームで課題に取り組む力を伸ばすことが出来た。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機としては、「必須科目である」100.0%、「資格取得に必要な科目である」10.0%、「関心のある科目である」10.0%という結果であった。 専門研究Ⅱでは専門研究Ⅰで取り組んだテーマをもとに個人で発表を行い、テーマについてグループワークを行った。さらに、そのテーマについて探索的に研究し、養護教諭としての専門性を高めるように講義内容を工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値は89.0点（±5.4）であった。 授業では興味のあるテーマについて個人が発表し、そのテーマについてグループ討議を行い、テーマの深化を図った。 学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.3、中央値4.5）、また思考・判断が高く、自分が学ぼうとしている専門分野において様々な課題を検討する力を得ることができた（平均値4.5、中央値5.0）、また、意欲関心においては、自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値4.2、中央値5.0）と答えていた。さらに職業選択の参考になった（平均値4.6、中央値5.0）と答えていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業では興味のあるテーマについて個人が発表し、そのテーマについてグループ討議を行い、テーマの深化を図った。 学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.3、中央値5.0）、また意欲関心が高く、自分が学ぼうとしている専門分野において学びを深めたいと意欲を持つことができ（平均値4.2中央値5.0）、また、自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた（平均値4.2、中央値5.0）と答えていた。 学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の担当教員への意見においては、学習量の評価について、図書館での学習などを通して、半数近くが学習準備をしていた。 本科目を通して養護教諭として専門性を深めていけるよう、グループ討議などを取り入れ授業構造を改善していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目を通して養護教諭としての専門性を深め、学校現場において活躍できるような実践力を身につけることができるように授業構造を改善していきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講学生の取得しようとする資格が同一ではないことから、各学生が強みとする専門性や学習準備性の不揃いな点を活用して、ともに学び合い教え合うことを通じて理解を深めていくことを大切にしながら授業をすすめた。昨年度からの継続的な作業として各自で関心のあるテーマについての文献検索、文献研究を行ってきたことをふまえ、自身の論文テーマを設定し、論を構成して、各自が成果を論文としてまとめることを最終目標とし、そのプロセスにおいて研究における倫理と方法論の重要性、多角的な視点について理解を深めることに重点をおいた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価において、平均値の低さが目立ったのは「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」という質問項目（かなりそうだと思う20%、わりにそうだと思う40%、平均値3.8）であった。「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」においては平均値が高く、いずれも「かなりそうだと思う40%、わりにそうだと思う60%、平均値4.4」であった。教育目標は一定程度達成されたと評価した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	専門教育科目の「専門研究科目」に含まれる科目である。学生の学ぶ意欲を引き出し、これまでの大学の授業で学んだ知識、理解を土台として、自身の専門領域における関心と学びを深めていくこと、主体的自発的に学ぼうとする態度を形成することによって、自立した専門職として自身をさらに向上させていく人となるうえで重要な科目である。本科目はDP,CP,カリキュラムマップにおける位置づけから見て内容的に妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は4.0～4.2であった。授業の進め方は概ね問題はなかったと捉えてよいと考えるが、「理解しやすい説明」や「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会」や「何らかの形で学生の質問を受け付け、それにこたえる機会」において、さらに努めたいと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の教育目標はある程度達成できたと考える。学生の学びを深める意欲、主体的自発的に学ぼうとする態度の形成をめざして、学生との対話に重点をおき努めていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。 ○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	○昨年度は秀16.7%、優16.7%、良29.2%、可33.3%、不可4.2%であった。 ○本年度は秀9.7%、優19.4%、良16.1%、可22.6%、不可32.3%、平均点65.5点であった。SD=15.01。 ○不可が大幅に増加した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	○教職課程の科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○一昨年から昨年度の向上には、論述タイプの問題やモデル図を理解/説明できる力の育成が寄与していたと思われる。その部分が今年度の不可の学生にはあまり効果がなかった。特に手元資料に依存せず、授業中の説明での理解が必須であったことから、授業参加度の低い者の存在が明確になってしまったともいえる。 ○授業参加の意味を資料説明の度に繰り返し伝えるとともに、それをどのようにアウトプットできるのかを重点的に指導したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○次年度は授業参加度の向上を目標としたい。具体的にはGoogle Classroomの活用など具体的な課題活用に取り組みたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教育課程論は前期に教職概論を受講した学生が教職への道を一步踏み込む科目になる。教員として知っておくべき諸課題についての基礎理論および新しい動向などについて教師のまなざしで見ることが出来る資質の習得を心がけた。 ②既に教職への関心を深めている学生なので、具体的な資料に基づいて思考を磨くことを試みた。 ③殊に新学習指導要領の内容に踏み込んだ講義を試みた。 ④学生の教職への学修意欲を喚起するために試験方法を完全に知識重視の穴埋め形式とした。範囲は『学習指導要領』の「総則」のみとした。それゆえに集中的学修を期待した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	定期試験の成績の平均値は40.6であり、合格者は30名中4名に過ぎなかった。再試験での挽回を期したが、平均値は57.79に留まり、期待を下まわった。不合格者は12名に上った。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	講義内容をよくわかっていないし、意欲も少ないので、講義をきめ細かくていねいにしたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生自身の自己評価はかなり甘い。自分にきびしく、意欲を持って目標に向かえるような改善が必要かもしれない。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校保健教育法	3	後期	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。受講動機としては「資格取得に必要である」81.8%、「必須科目である」22.2%、「関心のある内容である」0.0%であった。資格取得や必須科目であるが、関心が低い科目であることがわかる。 これらのことから、授業のオリエンテーションを丁寧に行い授業への関心が高まるように工夫をした。また講義を通して基礎的な知識が定着できるように、講義と演習のバランスを考え授業計画を立て、関心を高めるように心がけた。 ②授業では、保健教育の授業の基礎（学習指導要領における保健教育の位置づけ、指導案の作成方法など）を講義と演習を通して行った。さらに、学生が題材を決定し学んだことをもとに模擬授業の指導案を作成し、10分間の保健指導を行った。模擬授業をおこなうだけでなく、自己評価、他者評価を行い授業への関心意欲を高め、また授業の質が向上するように工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値は79.0点（±7.9）であった。理想的レベル（80点以上）は11名であった。 目標別の達成度は知識理解に関しては、78.0%、思考判断79.0%、意欲関心76.7%、技能表現82.0%であった。知識理解では、基礎的な問題の正答率は高かったが、基礎的な知識を応用した論述問題の正答率が低かった。このことは、基礎的な知識の定着とそれを応用しての理解が不十分であったと考えられる。授業では基礎的な問題の定着を確認しつつ、復習問題を課題に出すなどの工夫を通して、応用力の定着を図るように授業構造を改善していきたい。 学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.0、中央値4.0）、また、自分が学ぼうとしている専門分野において学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値3.9、中央値4.0）、であった。一方で、自分なりの目標を達成することができたと答えた学生の割合が低かった（中央値3.7、平均値4.0）。 さらに、学生が行った模擬授業において、指導案、教材等の作成の方法などを具体的に示し、達成感を得ることのできる授業内容の工夫を行っていきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,CPカリキュラム上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「保健・医療関係科目」であり、養護教諭一種免許状取を取得するための看護臨床実習、養護実習の履修要件科目である。 受講動機としては受講動機としては「資格取得に必要である」81.8%、「必須科目である」27.3%、「関心のある内容である」0.0%であった。 また、学生の授業評価においては、知識・理解において知識を確認、修正したり、新たに得ることができた（平均値4.0、中央値4.0）と答えている。また、思考・判断において自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた(均値3.9、中央値4.0)と答えている。 学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。 ②DP,行動面から見ての内容的妥当性 成績評価から見て知識理解に関する達成度が比較的低かったが、基礎知識を活用し、応用問題に適応するように授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であったと考える。また学生の授業以外に取り組んだこととして、「教育実習に向けての練習ができた。」「授業
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業評価においては、「教育実習に向けて練習ができた。」「授業の復習をした。」という意見があった。授業では、講義でしっかりと基礎知識を身につけ、グループワークなどを取り入れ、学校現場で授業を実践できるような力を身につけることができるように授業を改善していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、養護教諭一種免許状を取得するために必要な科目である。基礎的な知識は概ね達成できたが、学校現場では保健教育の中心となり活躍することが求められる。基礎的な知識を定着させ、学んだ知識をさらに活用できるような実践力が身につくように授業構造を改善していきたい。さらに、教材開発の方法などを取り入れ、学生が保健の授業の楽しさを味わうことができ、達成感を持つことができるような授業内容を工夫していきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	大黒 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育相談（カウンセリングを含む。）	2	後期	選択	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたり、まずは学校カウンセリング論に関する基礎的な理論を学習させること、そして実際の現場では講義で学んだ理論をどのように活用できるかと言う点を重視して講義を行った。 学生は現場で必要とされる人材とはどのような人格及び、行動、態度で臨まなければならないのか、考える力を養えるように事例問題を多く提示した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館・インターネット利用」、「自	授業後のアンケート結果を見ると、授業内容について、またカウンセリングについて興味を示している学生が多くいた。ただ、講義の復習や予習など自己勉学に励む時間が少ないようにも感じた。事例問題については講義中に繰り返し示したように、問題を解決する際に「私の意見」を述べるのではなく、理論に沿った回答を述べるように伝えていたので、カウンセリング理論に則した回答がほとんどだった。したがって、この講義に対する思考や態度はある一定レベルは達成されたと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	アンケートの自由記述の欄に、「学校現場で実際にどのようなことが起こっているのか、それを知ることが出来てよかった。」、と書いてあったように、本科目である内容的妥当性は評価できるものだと考えた。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	基本的にパワーポイントを用いて講義を行うが、SNSや動画を用いて、より視覚や聴覚に訴えた講義が必要になるだろう。90分の講義時間の活用法が重要になってくる。座学は30分程度、30分がソーシャルメディアの活用、残り30分を思考判断が成長するような課題を提供する必要があると感じた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学校現場はその年々で課題が変化する。2020年度はコロナ禍において、オンライン授業による弊害（例えば子ども同士のコミュニケーションレスなど）が起きているので、そのような学生に対してどのように対処しなければならないのか、最新の研究を踏まえて講義する必要があるだろう

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
事前及び事後の指導	3～4	三期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は教職課程における、養護教諭になるための学習として位置づけられている。また、受講動機としては「資格取得に必要である」83.3%、「必須科目である」45.8%、「関心のある内容である」8.3%であった。資格取得や必須科目であるが、関心が低い科目であることがわかる。 これらのことから、養護実習に向けての準備や実習後のカンファレンスを通して、自分が目指す養護教諭像や学校現場での実践についてより具体的にイメージできるように、講義と演習のバランスを考え授業計画を立て、関心を高めるように心がけた。さらに学生が養護実習で経験する職務内容について、学校現場で実践できるように具体的な事例を示し、わかりやすく解説することを心がけた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値は87.0点であった。理想的レベル（90点以上）は12名、（80点以上）は19名であった。 目標別の達成度は知識理解に関しては、78.5%、思考判断89.0%、意欲関心82.0%、技能表現85.3%であった。授業では基礎的な問題の定着を確認しつつ、復習問題を課題に出すなどの工夫を通して、応用力の定着を図るように授業構造を改善していきたい。 学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.3、中央値4.0）、また意欲関心においては意識が高く、自分が学ぼうとしている専門分野において様々な課題を検討する力を得ることができた（平均値4.2、中央値4.0）であった。さらに、自分が学ぼうとしている専門分野においてさまざまな課題を的確に判断する力を得ることができた（平均値4.1、中央値4.0）であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,CPカリキュラム上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「教職課程科目」であり、養護教諭になるための学習として位置付けられている。 受講動機としては受講動機としては「資格取得に必要である」83.3%、「必須科目である」45.8%、「関心のある内容である」8.3%であった。 また、学生の授業評価においては、思考・判断において知識を確認、修正したり、新たに得ることができた（平均値4.3中央値4.0）と答えている。また、関心・意欲においては自分が学ぼうとしている専門分野について、さまざまな課題を検討する力を得ることができた（平均値4.1、中央値4.0）と答えている。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。 ②DP,行動面から見ての内容の妥当性 成績評価から見て知識理解に関する達成度をさらに定着させるために、基礎知識を活用し、応用問題に適応するように授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の担当教員への意見においては、自主学習に取り組んだという意見があった。講義でしっかりと基礎知識を身につけ、グループワークなどを取り入れ、学校現場で臨機応変に活躍できるような実践的な力を身につけることができるように授業を改善していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、養護教諭一種免許状を取得するために必要な科目である。基礎的な知識は概ね達成できたが、学校現場では、医学的知識を身につけた専門職としての活躍が期待されている。養護実習で経験する救急処置について、実践事例を通して、学んだ知識をさらに活用できるような実践力が身につくように授業内容を工夫していきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職実践演習（養護教諭）	4	後期	選択	はい	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は教職課程における、養護教諭になるための学習として位置づけられ、さらに教職実践の進化を図るための科目として位置づけられている。 受講動機としては「資格取得に必要である」76.0%、「必須科目である」44.0%、「関心のある内容である」4.0%であった。このことから、資格取得や必須科目であるが、関心が低い科目であることがわかる。 本科目では、養護実習を通して学んだことを通して、自分が目指す養護教諭像や学校現場での実践についてより具体的にイメージできるように、講義と演習のバランスを考え授業計画を立て、関心を高めるように心がけた。さらに学校現場においてより実践力を身につけることができるように、保健教育における「性に関する指導」、「養護教諭と多職種連携について」の講義内容を設け、養護教諭の職務内容と専門性について理解が深まるように授業内容を工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値は86.0点（±8.6）であった。理想的レベル（90点以上）は13名であった。 目標別の達成度は知識理解に関しては、80.0%、思考判断95.0%、関心意欲80.0%、技能表現95.0%であった。 授業では、養護実習の実践を通して個人で振り返り、個人の課題を把握しグループワークを通して課題に取り組み、学校現場での実践に生かすことができるように授業内容を工夫した。今年度は、養護教諭と多職種連携について理解を深めるために事例を通した授業展開を行った。 学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値3.9、中央値4.0）、また意欲関心においては、自分が学ぼうとしている専門分野において学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値4.0、中央値4.0）であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,CPカリキュラム上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「教職課程科目」であり、養護教諭になるための学習、教職実践の深化を図る科目として位置づけられている。 受講動機としては受講動機としては「資格取得に必要である」76.0%、「必須科目である」44.0%、「関心のある内容である」4.0%であった。 また、学生の授業評価においては、思考・判断において知識を確認、修正したり、新たに得ることができた（平均値3.9中央値4.0）、意欲関心においては自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた（平均値4.0、中央値4.0）と答えている。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。 ②DP,行動面から見ての内容の妥当性 教職課程の深化を図るための科目として位置付けられ、授業において養護実習の経験を通して、学校現場で実践できる力を養成するために、講義と演習のバランスを考慮した。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価として、図書館等を利用し課題に積極的に取り組んでいた。さらに授業では、学校現場で臨機応変に活躍できるような実践できるような力を身につけることができるようにグループワークなどを積極的に取り入れ、授業を改善していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、教職実践の深化を図る科目である。養護教諭は学校において、医学的知識を身につけた専門職としての活躍が期待されている。 また子どもたちを取り巻く環境は複雑化しており、養護教諭は多職種と連携し課題を解決できるような実践力が求められている。今年度から取り入れた「養護教諭と多職種連携」についての講義を通し、課題解決に向けて学んだ知識をさらに活用し、実践力が身につくように授業内容を工夫していきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学（新約聖書）	1	後期	必修	いいえ	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①「学生の授業評価アンケート」（学科A Bの全体72名）を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが100.0%であって、他の動機は「単位数確保」が6.9%、「友人関係」が2.8%、それに「資格取得」と「GPAをあげる」がいずれも1.4%であった。ほとんどがキリスト教の成立に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を最初に明示した。具体的には、総合人間科学の科目として、専門分野の科学の基盤となる重要な「自己理解」と「人間性」に関わる科学であることを説明した。第2に、評価基準を明示した。授業の質評価を見ると、すべての事項に無回答は「0」であり、<評価基準は明らかであった>の項目では肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「15、32、24」で95.9%であり、否定的回答の「少し」「全く」は「2、1」で4.1%であった。②「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与えられるというシステムを作り活用し、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、専門分野の科目とは異なるが、聖書の古代の状況を現代の状況に翻訳するに当たり、理解力を助けるための具体的なメタファーや例えは、可能な場合には福祉と関係のあるものを用い、キリスト教学の知識や理解を専門職との関係で蓄積できるように工夫した。④ 期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要な
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①成績を見ると、平均値は86.3点であった。分布的には、90点以上が39.7%、89～80点が52.6%で、理想的レベル（概ね80点以上）に達した受講者は92.3%であり、79～70点が3.8%、69～60点が1.3%で、標準レベル（概ね60点以上）のそれは5.1%であった。成績で見ると、知識理解はほぼ目標に達した。② 78名の学生の<知識><理解>に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順（以下同）に「10、42、20」と「10、41、20」で97.3%と95.9%で、それぞれ否定的回答は「少し」「全く」の順（以下同）に「1、0」と「2、0」で1.4%と2.7%であった。アンケートが試験前の実施であるが、ほぼ成績分布と平衡が取れていた。③ 専門分野での達成自己評価では、思考判断に関する<検討する力><判断する力>に関しては、肯定的回答は「4、27、37」と「5、26、36」で91.9%と90.5%であったのに対し、否定的回答は「5、1」と「5、2」で8.1%と9.5%となった。④ 専門分野でも意欲関心に関する<意欲>では肯定的回答は「4、27、35」で89.2%であり、否定的回答は「6、2」で10.8%であった。⑤ さらに専門分野の技能表現に関する<技術>と<コミュニケーション、表現力>の習得では、肯定的回答はそれぞれ「4、23、36」「2、19、42」でいずれも85.1%であったのに対し、否定的回答はいずれも「9、2」で14.9%であった。⑥ 学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「3、23、43」で93.2%であったのに対して否定的回答は「3、2」で6.8%であった。⑦ <職業選択の参考>では、肯定的回答は「2、21、39」で83.8%であったのに対し、否定的回答は「9、3」で16.2%であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、<知識><理解>では1乃至2%台であった。しかし専門分野の学習においては数値は上がっている。すなわち、<検討する力><判断する力>ではそれぞれ8.1%と9.5%、<意欲>も10.8%であり、<技術>と<コミュニケーション、表現力>の習得ではいずれも14.9%、<倫理・規範>に関しては6.8%であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるための<知識><理解>、及び、責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための<倫理・規範>、これらの分野では否定的回答が1乃至2%台と6.8%であった。これに対し、課題を解決のための論理的思考・判断にかかる<検討する力><判断する力>、及び、社会のニーズの変化に対応し自ら学び続ける<意欲>に関しての否定的回答はそれぞれ8.1%、9.5%、10.8%であり、<技術>の習得という専門分野と、適切な関係を形成する<コミュニケーション、表現力>に関してはいずれも14.9%であり、15%未満に留まった。③ 以上から、CPの位置づけから肯定的回答は非専門と非技能表現の分野では90%以上であり、専門と技能表現の分野では80%台であり、授業内容は妥当であると考ええる。また、DPの位置づけからも、肯定的回答は、非専門と非技能表現の分野と、専門と技能表現の分野とにおいて同様なことが見られ授業内容は妥当であると考ええる。すなわち、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①AB両クラスの全学生からの担当教員へ日頃の意見は、「人の考えに関わるため採点はできないのではないか」という貴重なものがあった。いわゆる重要事項を暗記し正しい答を選択するという内容の授業ではなく、「自分の大切さに気付く自己理解」それと同様に「他者の大切さに気付く人間性」を軸に、聖書から「愛」「赦し」「弱さ」「逆説的自由」とは何かを、現代の状況に照らして問題を投げかけ共に考える授業を行った。採点は、授業の内容の理解度、関心度、記述の構成である、と授業で述べている点を今後も周知したい。他の意見は8件あり感謝7件と「意外と面白い」という1件であった。② 学習量の評価を見ると、<授業の記録><1回30分以上の予復習>の「1回」が予習と復習のそれぞれ7名と9名であり、「2、3回」はいずれも8名で、「4、5回」は0名、「6回」が5名と3名であり、「0回」がいずれも54名である。成績の平均が80点台に留まった原因は、この数値に見られると考える。進め方に関する授業の質評価を見ると、<学習の範囲や課題は明らかであった>という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」（以下同じ）の順に「15、34、24」で、否定的回答は「0、1」であった。<理解しやすい>という項目では、「8、31、27」で、ただ否定的回答は「5、3」であった。<学生の質問への答を得る機会>では肯定的回答は「6、29、33」で、否定的回答は「4、2」であった。<参加の機会>では否定的回答が「9、1」で少なくなく、肯定的回答は「5、25、34」に留まった。③ 今後も知識・理解を得られるような改善に向け、1）記録しない学生への対応として、知識を整理できるようにプリントして配布し、パワーポイントにすること、2）予復習の方法を具体的に指示すること、3）毎授業で
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	①授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を今後も明確にし、予習・復習の必要性和具体的な方法を繰り返し喚起することが必要である。② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。加えて、この科目は実学であって、学生の専門分野での<的確に判断する力>及び<その学びを深めたいと意欲をもつ>ことの基盤となるものである。この科目の知識理解を増すことは、専門分野での統合的な判断力及び意欲の基盤を強くするものである。③この点を繰り返し共通理解できるようにし、それに加え、パワーポイントの活用を含め、<授業の進め方とその向上について>に記載した改善策に取り組む工夫をする。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナーⅡ	1	後期	必修	はい	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講動機は「必修科目である」が100%であった。このほか、「資格取得に必要である」、「単位数を確保する」がともに4.4%であった。この科目は、全体での共通の講義のほか、教員のオムニバス形式(6回1クールで行うので、実際に学生が受講する教員は2名)で行う科目であることから、各教員の専門性を重視しつつ、「初年次セミナーⅠ」で学んだ「調べる」「聞く」「読む」「書く」ための技能に加えて、「発表する」「討論する」ための技能を身につけることを目的として授業を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価について、理想的レベル（90点以上）に達した学生は22名、再試験対象者は0名であった。到達度自己評価をみると、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値がともに4.0、「自分なりの目標を達成した」の平均値が3.9、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値がいずれも3.8であった。その他の項目の平均値も3.7～3.5を示しており、昨年度とほぼ同様の数値を示している。加えて、「初年次セミナーⅠ」ともほぼ同様の傾向を示している。学習量については、授業の準備を1回も行わなかった学生が27名、2、3回行った学生は17名、4,5回行った学生は14名、6回行った学生は8名であり、「初年次セミナーⅠ」に比べて学習量の減少がみられる。また、図書館の図書、雑誌を利用した学生は40名、学術データベースを利用した学生は26名、インターネットを利用した学生は50名と、受講者の多くが利用しているが、「初年次セミナーⅠ」に比べて学生数が減少している。この科目はグループ学習を中心に行っているが、グループ内で積極的に課題に取り組む学生とそうでない学生との差がこの数値に表れているといえよう。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみると本科目は「必修科目」、「総合人間科学科目」であり、大学における学習の技能を身につけるための科目である。当然福祉の専門領域を学ぶための技能を身につけるための科目でもあり、内容的には妥当であるとする。②DP,行動目標から見ると、すべてのDPの基礎となる内容を網羅しているともいえる。よって、内容的妥当性には問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方法を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均値が4.2、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「説明は理解しやすいものであった」、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値がいずれも4.0であった。これらの数値についても、昨年度、「初年次セミナーⅠ」より若干ではあるが低下している。学習量について、授業の復習を全くしなかった学生は45名、授業の課題以外の学習に取り組んでいない学生は66名と、「初年次セミナーⅠ」と同様の傾向を示している。授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習は「新聞を読んだ」、「本を読んだ」が挙げられていたが、これらはいずれも授業の課題と密接に関連する学習でもある。他方、授業の課題以外の学習に取り組まなかった理由については、「課題で精一杯だったから」、「することがなかった」、「授業の課題だけで十分だったから」などの意見がみられた。「初年次セミナーⅠ」と比べて、取り組み姿勢や学習の技能について、学生間で差がついていると推測する。学習の技能については、振り返り、繰り返ししながら徐々に身につくものでもあり、学生が積極的な学習姿勢をとるための動機づけが今後の課題であると言える。学生の意見については「講義の先生を選べるようにしたかった」、「すべての先生に当たるようにしてほしい」との意見が寄せられた。2019年度は学生を6グループに分け、1グループあたりの担当教員は2名（「初年次セミナーⅠ」と併せて4名）で進めた。教員の専門領域によって、多少の難易度の差、あるいは教員と学生との相性の差がでることはやむを得ないところはあるが、各教員の専門領域
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	この科目では、全学共通の総合人間科学科目として、「調べる」「聞く」「読む」「書く」技能の習得に重点を置いた「初年次セミナーⅠ」を基礎として、研究倫理のほか、さらに「発表する」「討論する」技能の習得を目指したが、当初の目標はおおむね達成できたと言える。次年度以降も「初年次セミナーⅠ」「初年次セミナーⅡ」を通じて、専門教育が本格化する2年次以降の学習をより深めるため、大学で学ぶための基礎的な知識、技能を身につけることを目指す。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生涯スポーツ	1	後期	選択	いいえ	62

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。 ラケットスポーツ（バドミントン、卓球、テニス）では、練習によって各種スポーツにおける技能を高めさせると同時に、ルールを理解させることによって、学生自身が積極的に試合ができるようにした。また、ダブルスのゲームでは毎回ペアを入れ替えるなど、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。試合後には反省点や次回に向けての改善点（課題）などを実習記録にまとめさせることによって、各種スポーツ技能のさらなる向上を意識させた。 ウォーキングやジョギングについては、自分に合ったペース、友達と会話ができるペースで行わせることによって、無理なく運動が続けられるようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は80.5（±8.5）点であった。成績分布別にみると、90点以上が10%、89～80点が59%、79～70点が21%、69～60点が5%、60点未満が5%であった。ほとんどの学生が標準的レベルに達しており、69%の学生は理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が31%、「わりにそうだと思う」が48%、「まあまあそうだと思う」が21%であり、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.1）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が13%、「わりにそう思う」が31～54%、「まあまあだと思う」が33～46%、「少しそうでないと思う」が0～5%であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.4～3.8）。 「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目9）についても、「かなりそうだと思う」が15%、「わりにそう思う」が36%、「まあまあだと思う」が44%、「少しそうでないと思う」が3%、「全くそうでないと思う」が2%であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値3.6）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	総合人間科学・全学共通科目の「女性と健康」領域に含まれる科目である。ラケットスポーツ（バドミントン、卓球、テニス）の技術練習およびゲームを行った。「全体を通した」学生の到達度自己評価では、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。また、「知識・理解（DP1）」、「態度（DP4）」、および「技能・表現（DP5）」に関する学生の到達度自己評価でも、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、平均値が3.5～4.0であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。 本科目では、ラケットスポーツおよびウォーキング・ジョギングを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、ラケットスポーツのルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。 また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中には授業以外で日々意識的に歩いたり、トレーニングなどを行っている者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	概ね目標は達成できたと考える。 今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かす学生を増やすことである。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
女性史	2	後期	選択	いいえ	72

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	近代日本の女性史の学習を通して、現在に続くジェンダー問題の所在を確認することを重点化し、教育制度やメディアが意識形成に与えた影響を取り上げながら授業を進めた。初回に女性史を学ぶ意味が「伝統」を疑う知的根拠を獲得すること、そのためにジェンダーの視点で歴史を見直すことを伝え、全講義の流れを、明治時代、大正時代、15年戦争期、高度成長期、21世紀までであること確認した。昨年の講義で、世界史と関連がやや不足していた点は、今年は史料で補った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	明治から戦後に至る近代日本の女性史に関する基本的な知識を理解することを目標としていたが、試験の結果からみると、上位者と下位者に2極化している。講義後インターネットを利用して学習を進める学生もいる一方で、受講者が多いために集中できなかったなどが授業の感想としてあげられ、理解不足にある歴史に関する基礎知識量や歴史的関心の差への配慮に加え、教室の学習環境の改善も求められる。成績下位者の学生も大半は再試験のレポートでは理解を深めていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	現在の社会経済フォーラムが示す日本の女性の地位の低さの原因を歴史的背景に見出し、産業化と女性の民主化と関連付けて理解できるよう、図表を多用した資料を活用した。おおむね内容的妥当性は認められるが、学生の歴史的知識を個別的にふまえた上で講義を進める必要はあった。一部の学生においては現代社会におけるジェンダーをめぐる諸問題と日本の女性の近代化と結びつけた理解は不十分ではあった。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	初回の授業で、通説となっている歴史観をジェンダーの視点で見直すと新たな歴史が見えることを伝えた。授業では近現代史が中心であるが、各自の高校までの歴史授業による知識量に格差がある点を踏まえ、高校教科書の図表なども使用し、独自の資料集を作成した。学生数が多く、双方向的なやり取りが不足した点は課題である。改善策としては、質疑応答の時間を入れ、授業後には史料の確認を図書館やインターネットで行うようはたらきかける。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	女性史は範囲が広いため、主に日本の近代史を中心に絞り、現在の女性の状況と関連付けて授業を進めたために、生徒の関心を現状のジェンダー課題、すなわち固定的性別役割分担意識に集中させることができ、知識の理解を深められたと評価できる。日本の歴史を学ぶことが現在の世界の情勢と結びつけられるよう思考力を高めるのが課題である。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
文学	1	後期	選択	はい	26

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生たちの専攻している科目と文学との接点、および、なぜ文学を学ばなければならないのかという意義をまず、じっくり考察することからスタートした。「文学がすべての実学である」ことを理解し、自身の専門と重ねて鑑みることによって、古典、歴史、表現、言葉、こころといった事柄がすべてつながってゆくものであり、おのずと生きてゆくうえでの自身のアイデンティティと切り離せないものであることがわかるのである。そういったことを、文芸学の諸問題を実例に掲げながら講義した。私たちがドラマや映画を見て感動することは、即ち自分自身の人生を客観的に眺めていることと＜文学＞が同じであることを強調し、学生にもっと賢い判断力が定着する様、望みつつ、講義している。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	途中、やはり疲れた表情の学生もいたが、まずまず真面目に取り組んでいたようである。」					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目の位置づけから見た内容の妥当性については、75%は活かされていると思われる。文学を通して、生きてゆくことへの諸問題を取り上げているので、は学生自身の言葉で、自身の考えがしっかり語れるようになれば実力はアップすることと思う。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方法を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	休講が多いという学生があったが、毎回休講しているわけでは決してなく、幼稚園の面接のため2回続けて休講したが、外せない年間行事であることと、学生にはあらかじめ前もって連絡しているので理解はしていたようである。この度は、講義と面接の曜日が重なり運がわるかった。しかし、学生はそれぞれ温度差があるものの、真面目に受講してくれていたように感ずる。今後は、さらに学生の意欲がわくような講義展開をめざしたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成状況の総括的評価としては、今年度は、75%である、来年度はもっとアップするよう努めたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、「必修科目である」51.4%、「資格取得に必要である」41.7%、「単位数を確保する」20.8%であった。教職必修科目であるが、今年度も福祉学科のほぼすべての1年生がこの科目を受講した。2016年度から選挙権の年齢が18歳以上に引き下げられたことから、2017年度より統治機構に関する講義を基本的人権に関する講義より先に行っている。憲法は学生自身の今後の生活や人生に関係が深い、ということを明確に伝えることを心掛けた。なお、欠席率は平均4.03%であった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	後期試験の平均点は70.79点であった。成績は後期試験をベースに、コメントの記述内容について若干加点（最高10%）することで総合評価とした。その結果、再試対象者は1名、理想的レベル（90点以上）に達した者は3名であった。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が3.9、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値が3.7、「自分なりの目標を達成した」の平均値が3.6であったが、他の項目の平均値は3.1-3.5の間にあり、全体的に昨年度よりばらつきがみられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、教職指定科目であることに加えて、シラバスにも明記してある通り、福祉専門科目である「権利擁護論」で学ぶ内容の基礎となる。しかし、履修の際にシラバスを参考にした学生が半数にとどまっていることから、学部学科全体で履修登録の際にシラバスを学生に読ませ、理由の際の参考にするよう、働きかける必要がある。将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、援助の対象者を人権の主体たる個人として理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。②DP行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないと考え。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値がともに昨年度並みの3.8となった。「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値がいずれも3.7、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が3.6であり、昨年度並みの数値を維持している。他方、講義の冒頭で予習・復習の具体的な仕方について説明したが、予習を全くしなかった学生は47名、復習を全くしなかった学生は43名であった。今後は予習・復習の必要性和具体的な方法についてより丁寧な説明を心掛けたい。授業以外の学習として「復習など」、「復習で分からない所をインターネットで調べた」、「プリントにかきこんだのをノートにまとめる」などの記述があったが、授業以外に学習していない理由として「授業を主に頑張った」、「特になかったから」、「時間がなかった」などの記述が見られた。学生の意見については、「日本国憲法がある意味が理解できました」、「法律について、新たな知識を得ることができました」、「生きていく上で知らなければならないことを学べたので良かった」との意見が見られた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、豊かな教養のもと、社会を多面的に捉える基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣が定着する方を検討したいと考えている。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	森 敦嗣

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
比較文化と国際理解	2	後期	選択	はい	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は選択科目であるが、科目名は多様な内容を含んでおり学生からすると具体的に何を学ぶかをイメージしにくい科目である。今回の受講動機をみても「単位数を確保する」を動機とする回答が一番多く、「関心のある内容である」を動機とした回答は少なかった。このことは開講前から予想できたため、授業では毎回の授業内容に関わる様々な「確認チェック」という名のQ&Aに答える作業を行わせて彼らの関心を高めることを試みた。 ②授業によっては専門的な用語が頻出するため、毎回の授業の終りに授業のまとめ問題を行わせ、授業内容を復習させた。 ③授業の内容だけではイメージしにくいため、「差別」と「言語」に関する具体的な映像を見せ、それぞれについての考えをレポート形式で書かせた。 ④冬休み期間中に日本の学校制度と徒弟制度の意義に関する論文を読ませ、その内容に対する賛否と理由を書かせた。レポートとしてではなく本試験の問題に出し学生に答えさせた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された				やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本科目は5つの学科に所属する学生が受講していたが最終的な成績の平均値は80点以上であり、再試対象者は数名いたが、ほぼ全員が標準的なレベルに達したと言える。 目標別にみると、知識理解に関しては本試験の対象問題の結果を見る限り75%以上であり、学生の到達度自己評価の「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の回答が平均3.5以上であった。態度については一部の学生の中にレポート問題の提出が遅れる、またはレポートの書き方が1～2行程度しか書かないといったものがみられた。原因の一つとしてレポートの論述的な書き方に慣れていないことが挙げられる。次年度の授業ではこのことを踏まえ、冒頭でレポートの基本的な書き方をレクチャーする予定である。 学生による授業評価においては、ほとんどの項目で標準以上の評価が得られた。ただテスト、レポート、提出物などの評価基準について明確でないとの回答が一部あった。学生たちには第1講の冒頭で評価基準について伝えていたのだが、十分に浸透していなかったことが上記の評価となったと思われる。次年度は第1講冒頭だけでなく、本試験前にも再度評価基準について学生たちには明確に開示していく。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は選択科目ではあるが、総合人間科学の共通科目の位置にある科目である。総合人間科学のカリキュラムポリシーには幅広い教養と異文化理解の基盤を養うことを方針としており、本科目はその方針からみても内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみても内容的妥当性 学科によって異なるが、到達度自己評価の項目では学習意欲に関する達成度がまだ十分に達成されてはいなかった。こちらによる一方的な講義だけでは意欲が削がれるため、毎回の授業の度に学生たちに内容に則したQ&Aやアンケートを実施していたが、まだ改善の余地があると考えられる。その他の領域に関しては一部ばらつきはあるものの数値は高く、内容的には妥当であったとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学科によって異なるが、授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.1であった。受講人数が小人数と聞かされていた当初の予想を上回る多人数だったこと、さまざまな学科の学生が受講しているため、グループワークを行うことが難しかったことが原因として考えられる。次年度以降はグループ討論の機会を増やし学生たちに授業への参加を促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は開講前は「少人数が受講する」と聞かされており、シラバスもその人数に合わせたものを作成していたが、結果として50名以上が受講することになり、授業の内容と評価を多人数に合わせて修正しなければならなくなった。第1講の授業の冒頭において授業内容の変更と評価基準について伝えていたが、こちらにも不備があり学生たちに十分に伝わっていなかった。次年度のシラバスにはすでにどのような人数でも可能な授業内容を記載しているが、授業内容と評価の基準については混乱が起こることがないように学生たちに明確に伝えていく予定である。毎回の授業終わりにまとめ問題を実施したことは、平均が80点以上の本試験の結果につながった。この方針は今後も続けていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	花沢 明俊

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報処理演習	1	後期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講人数が少なかったことと、個人差はあるものの全体的に経験値が高く、授業進行が容易であり、受講者の理解度に合わせて、授業の進行速度や内容を調整することができた。エクセルによる統計処理とVBAを中心に講義を行い、情報処理基礎で学んだ基礎的知識をベースとした主体的・実践的な内容となることを重視した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績点は、課題の提出やプレゼンテーションなどのプロセス評価50%と、中間・期末試験の点数による達成度評価50%から構成されているが、課題の提出率が非常に高く、目標達成のためのプロセス遂行が確実に行われた。結果として、試験の点数も全体的に良好であった。ただし、授業内容を主体的・実践的に使いこなせるレベルまで到達したのは、一部の学生のみだった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、在学中のレポート作成や発表など、さらには、就職後の実務において、データの扱い方の理解と効率化を目的としている。このような観点から、学生それぞれの学習準備性の高低にかかわらず、全員がある一定レベルの技術水準を達成すること、授業終了後も技術習得を継続できるよう、受動学習だけではなくグループワークによる能動学習を行うこと、これら2点を柱としている。授業の妥当性が真に問われるのは、3年生、4年生の実践の機会や、就職後であるが、このような将来の展望から必要性を理解した受講動機の割合は非常に高いものの、履修率が低いため、本科目の意義を理解している学生は、学科の全学生の1割程度と推測される。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	エクセルによる統計処理およびVBAの両方について、昨年度より基礎的な内容を手厚く行ったため、理解度が上がった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	課題の提出率が非常に高かったことから、授業目標達成のためのプロセス遂行は、問題なく行われたと考えられる。また、結果として試験においても全体的に高得点であり、高い達成度が得られた。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
北九州の過去・現在・未来	2	後期	選択	はい	67

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	総合人間科学の「地域創生」の中の科目であり、3年後期に設定されている。北九州についての基本的な知識を外部講師の講演から学び、そういった状況の中で、自分が学んでいることをどのように生かせるのかということを考えるよう授業を設計した。全学共通で講座が開かれているので、他の学科の学生から、それぞれの専門分野のことについても聞く機会を設けるなどして、互いに学び合える場も設定した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員の最終的な成績が標準的なレベルを超えており、到達度自己評価で約1割の学生が否定的な回答をしているが、他の学生は肯定的な回答をしている。また、レポートや発表なども、専門教育科目で学んだことをこの授業内で学んだことが反映された内容になっており、教育目標は概ね達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみたの内容的妥当性 本科目は総合人間科学の「地域創生」の中の科目で、3年前期に設定されている。大学がある地域のことについて学ぶとともに自分の学んでいる専門分野をこの地域でどのように生かせるかということについても考える内容になっている。学生の成績についても、標準的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP, 行動目標からみたの内容的妥当性 DPの各項目について目標が達成されていることから内容的に妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、ほとんどの学生が肯定的な回答をしているが、1割弱の学生が否定的な回答をしている。受講生が想定を遥かに超える人数であったため、授業の方法など試行錯誤しながら行ったため、十分な形で授業を行うことができなかったことが原因だと思われる。大人数でも実施しやすいように、授業の方法を改善したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	最終的な成績や到達度自己評価から、地域のことについて学ぶとともに専門教育科目で学んだことを地域の中でどのように活かすかということについて考えることを通して、学びを深めていくという目標はある程度到達できたのではないかと考える。しかしながら、受講生がかなり多いため、授業運営上難しい面も多くあったため、大人数でも支障なく実施できるような方法を工夫したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	必修	いいえ	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	初回に、この授業で労働政策や福祉政策、企業の雇用システムとの関連において自身のキャリア形成を考える力を身につけること、多角的な視点でキャリア形成をとらえられるよう多様な外部や内部の講師を招いていることを伝えた。また、初回では、主体的な意識で授業の望めるよう、キャリアコンサルタントの外部講師から双方向的に学生に働きかけてもらい、1年生の必須授業として受講を義務付けられているが受け身にならないよう工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど身の回り情報を読み解く力、自らのキャリア・デザインについて考える力は、各講義後のコメントカードや、期末レポートで測った。特に、レポートでは、自分の望むキャリアにおける社会的課題を把握し、その解決方法について主体的に客観的に考えることができるかを評価した。学生は概ね、基準に到達していたが、一部、キャリアをめぐる思考が個人的体験を根拠とすることにとどまり、社会構造と関連づけられない学生がいた。到達していない学生には社会的視野について解説して再試験を実施し、この段階で全ての学生が基準を達成した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	自分の望むキャリアにおける課題を把握し、その解決方法について主体的に考えることができることを目的に、キャリアについての個人の意識がどのように社会的に形成されてきたかを学術的な視点による現状の制度の分析や歴史的背景を解説した。また、多様な講師が講義をすることで、現状把握はより深まったと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	講義やDVDの鑑賞に加えて、労働法では弁護士に解説と過労死された方の遺族の話、専業主夫の体験談、本校助産教授による性的自立の解説、本学卒業生の職業生活、キャリアコンサルタントによるワークショップなど、知識を得るだけでなく共感的に主体的に自身のキャリアの可能性や社会的課題を理解できるような内容となった。学生からは、人数が多いことへの不満が上がっており、この点の解決は検討する必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	期末レポートなどから、概ね、学生が自身のキャリア形成について考える時間となったこと、自身の可能性について自信を持てるようになったこと、今後の学生生活の重要性に気づいたことは、評価できる。課題は、人数が多いため、個別的な対応ができないことである。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎実習	1	通年	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は1年生を対象とした福祉基礎科目（選択）であり、学生が現場実習を通して体験的に学びを得るものである。学生の受講動機を見ると、「関心のある内容である」（72.7%）となっており、履修意欲は総じて高いと言える。講義では、今後の実習や学習等への動機づけとなるよう授業内容・運営を工夫した。具体的には、実習前の学内講義では、対人援助職や実習先への理解が深まるよう個別指導を行った。また、実習後には、個別面接や報告会を行い、実習体験から得た学びや課題を深めさせた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された			達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目における教育目標の達成状況について、学生の到達度自己評価から見ると、「意欲関心」（DP3）については、「自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う27.3%、かなりそうだと思う81.8%）となっており、達成できたと考える。「態度」（DP4）は、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う36.4%、かなりそうだと思う54.5%）で、これも達成できたと考える。「技能表現」（DP5）は、「コミュニケーション能力や表現力を高めることができた」（わりにそうだと思う36.3%、かなりそうだと思う63.6%）であり、達成できたとと言える。また、学生との実習後の面談や実習報告会等のおいても、これらの項目に関する学びが多数見られた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 意欲関心（DP3）、態度（DP4）、技能表現（DP5）のすべてにおいて教育目標を達成しており、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 既述の通り、本科目は福祉基礎科目として学生の実習や学習動機を高めることを目標の1つとしている。学生の到達度自己評価や実習報告会・レポート等の学びからも、CP及びカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	既述の通り、学生の到達度自己評価からは、本科目における教育目標は達成されたと言える。授業運営においては、2016年度以降、実習期間中に帰校日（1日）を設け、実習中間の振り返りや面談を実施している。2019年度も引き続きこうした取組を実施した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目を履修する学生の学習意欲・関心は総じて高いと言えるものの、履修者数は13人とどまっている（近年こうした傾向が続いている）。本科目の教育効果は非常に高く、今後、履修人数をさらに増やす働きかけが必要と考える。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会学概論	1	後期	選択	いいえ	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	○高校時代までに経験したことのない授業であり、いったい何を学ぶのかという戸惑いが大きい科目である。それを興味関心に結びつけることができるよう、様々な事例を準備した。 ○社会福祉士国家試験に対応した授業であるが、受講学年が1年生であるため、学習意欲との直接的な結びつきはないと考えられる。 ○抽象的概念が多く出てくるため、それを具体的に考えるトレーニングを行う旨を初回授業で説明し、学生が意識的な授業参加をできるように促した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	○昨年度は秀30.1%、優12.3%、良27.4%、可26.0%、不可4.1%であった。 ○本年度は秀29.7%、優10.8%、良28.4%、可31.1%、不可0.0%、平均点は79.0点であった。 ○昨年度とほぼ同様の結果であったが、昨年度の不可が本年度は可になったのは評価できる。 ○秀が多い一方で良と可も多く、二極化する傾向がみられるのも昨年と同様である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」 「学習到達度の自己評価」, 自由記述の意見など	○社会福祉士国家試験の受験科目と対応しており、DP、CP、カリキュラムマップにおける位置付けからみた内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」 「学習量の評価」 「学修のための情報利用」 「図書館, インターネット利用」 学生の意見など	○視聴覚教材としてのビデオなどへの反応があったため、今後とも教材開発や利用を進めたい。 ○歴史や社会に関する知識・関心に差があるため、これを埋めるための工夫を行いたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○昨年度と同じような結果であった。課題は下の山の学生の底上げだが、抽象的な概念への理解や活用を向上させる地道な取り組みが必要と思われる。 ○モデル図だけでなく、事例や写真を組合わせたり、身近な事例を導入した成果が見られた。引き続き工夫したい。 ○抽象的概念を具体例で理解するという基本的アプローチを徹底するため、授業中のアウトプットを増やしたい。 ○可の学生をできるだけ減らせるような基本事項の理解定着を工夫したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助の基盤と専門職	1	通年	必修	いいえ	78

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験受験に関する科目である。特段、社会福祉専門職になるための基盤となる科目であり、本学科で非常に重要な科目であることから、動機付けを大切に講義している。 第一回目の講義時に受講に関しての詳細の説明をし、シラバスに則って講義を進めた。講義の最初には、新聞等から毎時間必ず時事に関する話題を提供し、それが社会福祉専門職としてどのように捉えたらよいかを考えさせる時間を設けた。予習復習の内容の説明、理解しておくべきキーワード、実践につなげがるように専門職能団体の研修会案内等々も随時行った。リアクションペーパーに関しては、予習復習の時間の記入や、その方法、また本日の自己採点点数記入などを導入し、学習意欲の向上に努めるよう工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、体調不良で再試験を受験できなかった学生を除いた受講学生が合格領域に到達しており、標準的レベル以上に達成したものと考えられる。定期試験、確認テスト、リアクションペーパー、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。また、遅刻や欠席がほとんどなく、定期試験の結果も理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の受験資格を取得するためだけでなく、幅広く社会福祉専門職としての現状や考え方、障害福祉、精神保健福祉、貧困等々の多岐にわたる分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、社会福祉士・精神保健福祉士の国家資格を取得するための必須専門科目でもあり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものが感じられた。また、社会福祉を学ぶための1年生で開講する基礎的科目であることから、福祉専門職に興味があるということで、非常に高い意欲を感じられた。学生も成績評価から、一定の到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見での内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解は一定程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「コミュニケーション力や表現力を高めることができることができる」の箇所の平均点が他の箇所と比較すると低かった。必修科目であり、多くの人数が受講する座学であるがゆえ、なかなか困難かとは思うが、可能な限り今以上に事例等の導入を検討したり、アクティブな活動を入れ込む等を検討していくことを引き続き実施したい。学術データベースの利用に関しても殆どなされていない現状であり、利用の仕方からのインフォメーションを行うことも、引き続き検討としたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。時間の作り方に関しても、指導を続けていきたい。毎時間、予習復習の具体的情報提供を行うことも続けていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得するために必要な科目ということと、福祉学科に入学して初めての福祉の専門科目ということで、非常にモチベーションの高さを感じられた。また、今から開講される、社会福祉士や精神保健福祉士の関連科目とのつながりを考えて、思考が継続できるように教授を行った。次年度も、それらに引き継ぐような関連性を持ちながら講義を行いたいと考える。また、上記に示したように、よりリアリティを習得するために、事例を提供して検討を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回福祉業界の時事に関する資料配布し、その説明を行い、福祉専門職としての理解を深められたと感じられる。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域福祉論	2	通年	必修	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は通年科目である。そのため前期・後期に分けて、学生に対する教授内容を分けて構成した。前期は、地域福祉の基礎概念や民生委員、社会福祉協議会、共同募金等の地域福祉を推進する主体について講義を展開した。後期は、前期の学びを踏まえ、地域福祉を推進するためのソーシャルワーク（「地域福祉援助」）を中心に講義を展開した。具体的には、従来から社会福祉協議会等の基本的な実践技術であったコミュニティワーク（地域福祉の基盤づくり）に加え、近年、「社会的つながりの弱い人々」や「制度の狭間」、「複合課題」などへの対応として重視されるようになったコミュニティソーシャルワーク（地域を基盤としたソーシャルワーク）についての内容にて通年を通して講義を構成した。主には以下の点において授業準備に配慮をおいた。 ① 講話法を中心とした講義の展開が主であった。地域福祉の視点は、福祉専門職のみならず、教職・保育などと地域を担う支援者において横断的な理解が求められる。そのため3年次以降の工学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。 ② 初回講義の際には、本講義の全体像を示し、科目内容のポイント、今後の講義展開等について学生に教示した。 ③ 前期及び後期の半ば(8コマ目)には、これまでの講義内容の振り返りとして、レジュメ資料を作成し学生に共有した。おさえておくべきポイント等を整理のうえ、学生の理解度を把握したうえで、今後の講義の展開に生かすよう努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、89点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベル及び理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、中央値4.0に対して、(2)「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が平均値4.0であった。(1)「自分なりの目標を達成できた」、(3)「事象を理解する点や考え方を得ることができた」、(10)「職業選択の参考になった」を含め(4)(6)等が平均値3.9であった。一方で、(8)「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均値3.7であった。(1)「自分なりの目標を達成できた」と(10)「職業選択の参考になった」が共に平均値4.0であった。3「授業の質評価」は中央値の水準であった。 知識理解に関しては、地域福祉の観点からその知識について問うものである。地域福祉の概念・歴史・法律・制度、近年の地域福祉の問題等については、広範な情報量となるため、現代の社会福祉問題に関連させ、社会福祉士・精神保健福祉士の社会的な役割を示すことで、今後も学生の理解を促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、地域福祉の概念・歴史・法律・制度、サービスを理解できるように今後も務める。 学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な情報量となるため、その点は課題として捉え、改めて要点を整理する等、次年度に向けて検討したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の専門を学ぶ位置づけであり、必修科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目は地域における地域福祉の推進の主体や概念、近年の地域社会における福祉的課題の現状を踏まえて、地域における地域住民の役割、地域の支援機関・施設、地域を基盤としたソーシャルワークの実践概念・方法や今後の地域福祉の展望等の理解のために、講話法を中心とした講義の展開が主であった。3年次以降の本学における社会福祉士・精神保健福祉士・養護教諭・保育士の実習に向けての横断的な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による地域の実情(福祉的課題、地域の動向等)、福祉法制度・サービスの動向を注察する必要があるが、2019年度の講義に関しては、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から表現技能に関する達成度が比較的低かったが、今後の社会状況の変化による地域の実情(福祉的課題、地域の動向等)、福祉法制度・サービスの動向等についての表現の機会が少なかった点では方法的妥当性の問題である。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題(具体的な事例)を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、学んだ内容をアウトプットする機会をもつことで学生の本科目に対する学び
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価において、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均値3.7と全体数値よりも低かった。本科目は地域における地域福祉の推進の主体や概念、近年の地域社会における福祉的課題の現状を踏まえて、地域における地域住民の役割、地域の支援機関・施設、地域を基盤としたソーシャルワークの実践概念・方法や今後の地域福祉の展望等の理解のために、講話法を中心とした講義の展開が主であった。そのため、考え、話し合い、発表する機会が少なかった。次年度に向けて関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、事例を事前に提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の専門を学ぶ位置づけであることから、地域福祉に関する知識の形成については概ね達成できたが、関心意欲及び思考判断の面で課題を残した。この点は、地域福祉は広範な知識を取り扱うため、イメージしにくい課題があると考え。そのため事例の検討や演習活動を一部取り入れることで、学生自身の主体的な学びを促し、他の学生間との意見交換及び発表を介して、学ぶことの意欲を引き出していきたい。 以上のことを踏まえ、可能な限り考える時間をとること、復習課題を意識的に提示するようにすることを加えていきたい。また、適宜、授業内容を整理することで、授業中に課題を行う時間を増やすように努めたい。配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
社会保障論	2	通年	必修	いいえ	74

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、「必修科目である」85.0%、「資格取得に必要である」26.7%であった。本学科における必修科目であるとともに、社会福祉士・精神保健福祉士指定科目であることから、国家試験の出題傾向を念頭に置きつつ、法改正が頻繁に行われる社会保障制度について、最新の情報を提供することに努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	試験は前期・後期の2回実施した。前期試験の平均点は69.15点（福祉・養護教諭コース2年69.54点、子ども家庭福祉コース2年66.44点）、後期試験の平均点は63.32点（福祉・養護教諭コース2年62.90点、子ども家庭福祉コース2年66.22点）であり、福祉・養護教諭コースの後期の成績が大きく低下したことは残念である。再試対象者は20名、理想的レベル（90点以上）に達した者は8名であった。学生の授業欠席率について調べたところ、前期の平均は5.14%、後期の平均は5.74%で、昨年度をやや上回った。到達度自己評価について、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は3.8、他の項目の平均値は3.7-3.6であり、いずれも昨年度を上回っている。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみると本科目は「必修科目」、「福祉専門科目」であり、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目でもある。国家試験を受験する予定の学生が多く、学生の講義に対する動機付けは高い。試験の平均点が60点台とやや低い、これについては、学生の授業以外における学習量の問題であると考え。国家試験受験のために必要な最低限度の内容となっているため、内容的には妥当であると考え。②DP,行動目標から見ると、自己評価と成績の分布に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方法を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価のうち、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」をはじめとする項目の平均値はいずれも3.7-3.6であり、昨年度より上昇している。また、予習をしていない学生が52名、復習をしていない学生が49名と、授業以外の学習をしていない学生が全体の6～7割に上っている。ただ、その理由についての回答はなかった。他方、授業の課題以外に具体的に取り組んだ学習について「復習」、「過去問をとした」、「ルーズリーフにまとめた」、「要点をまとめる」などの回答があった。前期の講義の冒頭で、予復習の仕方について説明をしているが、社会保障制度は非常に複雑であり、授業以外で学生が学習する量を、教員に過重な負担を掛けない程度でいかに増やすかが課題となろう。学生の意見については、「ありがとうございました！」とのコメントが見られた。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	福祉専門科目であり、かつ社会福祉士・精神保健福祉士指定科目である本科目の位置づけから、知識理解、意欲関心のいずれもある程度は達成できたと考えている。今後は授業以外の学習（とりわけ予復習）の重要性を学生に伝えることが課題となろう。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
高齢者福祉論	2	通年	必修	いいえ	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、2年次を対象とした福祉専門科目（必修）である。また、社会福祉士指定科目の1つでもある。授業は、教科書を中心に展開し、単元ごとにレジュメを作成するなど、学生の内容理解を助けた。特に、法制度改正など国家試験で出題が予想される部分については、入念に解説を行うとともに、コメントカードを通じて学生の理解度の把握に努めた。また、新聞記事等を活用し、高齢者福祉に関する最新情報の提供を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な試験結果の平均は77.1点であり、本科目の教育目標はある程度達成されたと考える。授業評価アンケートでの学生の到達度自己評価においても、「自分なりの目標を達成した」（まあまあそうだと思う42.2%、わりにそうだと思う45.3%、かなりそうだと思う14.1%）、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（まあまあそうだと思う34.4%、わりにそうだと思う48.4%、かなりそうだと思う18.8%）などが示された。 一方で、授業評価アンケートからは、本科目を通して知識の修得はできたものの、学生の主体的学習態度を引き出すと言う点では課題があることが明らかとなった。例えば、学生が授業の課題以外に学習に取り組んだ割合は「していない」（84.8%）であった。また、授業参加のための準備学習をしていない学生が51.5%、授業の復習をしていない学生が50.0%見られた。図書や雑誌の利用も「利用しなかった」89.4%となっていた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 試験結果（平均77.1点）や学生の達成度自己評価結果からも教育目標は概ね達成しており、DP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は福祉専門科目（必修）であり、社会福祉士指定科目でもある。3年次の相談援助実習の領域の1つに高齢者福祉領域があることから、本科目の配当年次に問題はないと考える。また、教育目標も概ね達成しており、CP・カリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本科目の教育目標はある程度達成したと判断できる一方で、授業評価アンケートからは学生の自発的学習を十分に引き出すことができなかったことが示された。また、予習・復習についても十分に組み合わせていない現状が明らかとなった（上記の他に、授業での図書館利用率10.6%、インターネットの利用率9.1%）。この点では、昨年度同様に毎回の授業ごとに予習・復習のポイントを的確に提示し、学生の学習量を担保していく必要があると考える。また、課題を課すことも検討する必要があると考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の教育目標はある程度達成したと判断できる。しかし、再試験対象者が5名いたことや最終成績の得点差が大きいこと（最高点95点、最低点57点）から、学生の理解度に差があることが推察される。この点、毎回提出させるコメントカードの内容を踏まえた復習や小テストの定期的実施も必要と思われる。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	田代 京子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
高齢者福祉論	2	通年	必修	いいえ	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①高齢者福祉論の介護定義・介護各論等を担当した。 授業の実施で重要な介護理論は実践でどのように行われているかなどで理解を図った。介護技術は理論で理解をされるための工夫として、限られた時間内で内容を絞り、「エビデンスに基づいた介護実践」を教室の空間を活用して『みえる化』を図って実施。 例えば、福祉用具等を使用して演習体験を導入して、授業を動きのある活気あるものへと努力した。 この効果は毎回提出をさせているコメントカード等に理解しやすかったと効果を得ている。 ②コメントカードについては、毎年学生にその日の授業の感想・理解度・質問等自由に記入させて、自分自身の授業展開等の課題・学生の理解度、授業中に出来ない学生とのコミュニケーションツールとしても活用。質問等については、次回の授業の冒頭に解説・回答を行った。2019年度は提出率が高く学習意欲の高さを感じていたが、後半から一部の学生の提出がなく理解度や思考の可視化が出来ていない。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均点は60点満点で50、3点（100点満点で84点）であった。60点満点が3名。再試験者4名。 例年より学習意欲も高く感じていたが、試験の結果を受けて知識理解は達成されたと思う。 目的別にみると知識理解に関しては85%。 思考判断に関する問題（事例問題）は66%。この事例問題は、事例の家族を理解した上で問題提起された課題をどう解決するかの思考が問われるが、自分で考察する力をどう獲得していくかが課題が残る。 しかし、本年度の学生（一部を除く）については、コメントカードでいろいろな考え方について述べていたおり、今後の学習で向上が期待出来ると感じる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性、 高齢者福祉論は高齢者に対する支援を考えると、基本的基礎科目であり、必須科目であるが、高齢者を総合的に理解し知識を取得する事は、人生を生きていくための人としての尊厳を考える上において重要な科目といえる。 社会福祉士国家試験を受験しない学生や高齢者ケアをしない学生も、この科目の学習によって自分自身のライフワークと家族関係を深く考えることのできる機会となり、科目を履修した全学生が高齢者福祉に一応の興味を示して熱心に学習し、一定の成績を収めていることから、内容的妥当性はあると考える。 ②DP,行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する目標達成度がやや低いが、介護過程等の事例検討を科目で履修している学生は正解率が高いが、この科目で初めて学習した学生にとって、事例家族への支援を考察することは難しいと想定した上で、介護過程の短い授業の中で介護現場の展開の仕方を分かりやすくしたことで内容的妥当性は上がったと感じた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度の授業展開や質の向上の方法等を継続させて、授業を情報伝達場にしないこと、学生の学習支援の場と捉えて学びを支援するため、学生の到達目標（学習内容の理解度）を理解し曖昧な目標寝せず、『凝縮エッセンス』を十分に検討し、授業を支える資料も改訂をした。 授業展開においても『みえる化』授業を継続し、授業空間を活気あるものにしていきかけたが、演習に参加しようとする意欲面に欠けるところがあった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
障害者福祉論	2	後期	必修	はい	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業開始時に、大方の内容についてガイダンスし、その後の授業を進めた。質問等で研究室を訪れたり、授業終了時に質問にかいた学生もあり、強い関心があることが確認でき、一定程度は学生伝わったと考えられる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	定期試験では、高く内容理解した学生が多く、また再試験の結果も全員合格し概ね目標は達成できた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容は概ね妥当と考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業は、概ね予定通りに進化した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	授業開始時に内容等のガイダンスを行い、動機づけした。次年度も踏襲しより動機づけを深めたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
介護技術演習	1	後期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は主に外部講師2名（高齢者介護の実務者）が担当している。授業評価アンケートにおける本科目の受講動機には、「関心のある内容である」（72.7%）が見られ、学生の関心・動機は非常に高い状況にあった。授業ではこうした学生の関心・意欲をさらに高められるよう内容や指導方法について、外部講師との連携を密に図った。また、課題レポートを提出させ（計3回）、学生個々の知識・技術の習得度を把握した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された			達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の達成状況を授業評価アンケートにおける学生の到達度評価自己評価から見ると、「知識理解」（DP1）については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（わりにそうだと思う25.0%、かなりそうだと思う66.7%）となっており、目標は達成されたと考える。また、「技能表現」（DP5）は、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（わりにそうだと思う50.0%、かなりそうだと思う41.7%）であり、これも目標を達成したと考える。 しかし、学習量（予習0回75.0%、復習0回83.3%）や図書館利用の状況（図書・雑誌の利用なし91.7%）からは、今後さらに主体的な学習態度を涵養していく必要性も示された。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価からも、教育目標は達成されており、DP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP,カリキュラムマップ上の位置づけ ここ数年、受講人数が非常に少ない状況が続いたことから（2015年度11名、2016年度5名、2017年度3名）、2018年度より開講時期を1年次後期に変更した。その結果、2018年度の受講者は3名にとどまったものの、2019年度は12名とやや増加した。引き続き状況を見守る必要があると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	これまで通り、外部講師との連携を密に図ることで円滑な授業展開を行いたい。また、学生のモチベーションを維持する観点から、介護技術の習得度に応じた個別指導を行うとともに、できる限り学生の希望を授業内容に反映していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目における教育目標は達成された一方で、受講人数が少ない状況は継続された。入学後のボランティア活動、高齢者領域の実習を希望する学生については、必ず受講するよう周知したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	入学し半年が過ぎ、基礎的な学習を経て来てはいるものの、社会事象を見聞きすることがこれまでとは随分と違って来ていると思われる。 グループで、個人で調べる作業をさせたため「学習の準備」としてインターネットの活用を積極的に行っていたと伺えた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	「到達度」はいずれも高い評価であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	全員が「受講動機」は「必須科目である」であった。「到達度自己評価」において各自が達成したと回答していた。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	考えさせることを主眼においていた。より多く知識を増やすためにもインターネットの活用をうまく利用させるなど今後の指導課題と思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成状況の総括的評価としては達成されたと考える。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は1年次の必修科目であるが、社会福祉士指定科目でもあり、3年次の「相談援助実習」に向けた最も基礎的な知識・援助技術を学ぶ演習科目である。初年次の学習のため、社会福祉や社会福祉士の仕事への関心を高めることと、社会福祉にかかわる課題や課題を抱える人々に向き合う際の姿勢や考え方を身に付けることを目標に授業を展開した。学生の受講動機を見てみると、「必修科目である」が100%、「関心のある内容である」が0.0%であり、本演習に対する関心の低さがうかがえる。これは例年の傾向であるため、本演習ではできるだけ社会福祉の利用者や実践者から直接話を聞く機会や、視覚教材を取り入れ、実践場面をイメージできるようにして、社会福祉への関心を高められるよう工夫した。 今年度は昨年同様、難病当事者を講師に招き、講師との対話を通して利用者理解を深め、福祉的な関心を高めることを試みた。さらに社会福祉従事者にとって重要な価値・倫理をテーマとする回では、新たに事例演習を加え、グループワークを通じてその必要性への理解を深められるようにした。また基本的なコミュニケーション技術をテーマとする回では、学生が苦手とするクライアント主体のきき方を習得するため、面接場面の逐語録を示しながら、積極的傾聴が実践できるような演習を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は80.1点、中央値80点であり、最低点60点、最高点90点と点数の開きが大きかった。欠席が重なる学生については、80点の目標を達成することができなかったが、それ以外の学生については80点以上の成績を収めており、目標は概ね達成されたと考える。学生の学習到達度の自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」の項目については、平均値3.9、中央値4.0であった。目標の1つである福祉的関心を高めるという点については、DP3に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値3.9、中央値4.0であり、目標はおおむね達成されたと考える。基礎的な援助技術を身に付けるという点では、DP5に関わる「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」の平均値4.0、中央値4.0、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値3.9、中央値4.0であり、グループワークやコミュニケーションの演習の効果があつたことがうかがえた。ただ「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の項目において、「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名いた。次年度はより個別的な対応が必要であると考え。また「職業選択の参考になった」の平均値3.7、中央値4.0となっており、社会福祉士の仕事への関心を高めることもおおむね達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は社会福祉士の指定科目であると同時に社会福祉の基礎を学ぶ専門科目として位置付けられている。4. にも記したように社会福祉・社会福祉士への関心を高め、社会福祉に関する基礎的な知識や考え方を身につけるという目標をある程度達成できたという点で内容的に妥当であったと考えられる。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 4. に記したように内容的妥当性には問題がなかったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価では、平均値3.9-4.3、中央値4.0であり、概ね妥当であったと考える。ただ「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の項目において、「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名いた。次年度はすべての学生にわかりやすく伝えられるような説明を行う必要がある。 学習量の評価を見てみると、予習・復習を全く行っていない学生が57.1%であり、自発的学習に取り組んでいない学生も78.5%であった。今後は予習・復習を含めた自発的学習をうながす工夫が必要である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は社会福祉士の指定科目であると同時に社会福祉の基礎を学ぶ専門科目として位置付けられている。4. に記した学習達成度の自己評価、6. に記した授業の質評価より、概ね授業の目標は達成されたと考える。受講動機に記したように、初学者に対する社会福祉への関心を高める取組みは今後も重要であると考え。より実践的な内容を取り入れたり、学生が身近に感じられるようなタイムリーな話題を取り入れたりしながら授業を展開し、そのことが自己学習につながるよう努めていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	高口 恵美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅰ	1	後期	必修	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講同期は「必修科目である」が87.5%であり、続いて「資格取得に必要である」が18.8%、「関心のある内容である」が6.3%と、受講動機が低い。対人援助の仕事を目指す学生さんを対象としていたため、実践がイメージ出来るような事例を豊富に取り入れ、演習を行った。特に、多角的に物事をとらえ、考えを他者に伝える力を高めることを目的として授業を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価では「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」「専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」という項目で、平均値4.1以上である。学習量については、授業の準備や復習を行った学生は少なく、図書館利用などにもつながらなかったため、今後このような機会が得られるよう工夫したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①カリキュラムマップ上の位置づけから見て、本科目は「必須科目」であり、相談援助の基本となる技術を身につけるための科目であり、内容は妥当であると考える。②DP、行動目標から見て、受講動機の低さが見られる中、学生の自己評価は全体的に高く、学習内容も妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について「評価基準が明らかである」「学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は3.9、「説明は理解しやすいものであった」「自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文書など、何らかの形で質問を受け付け、答える機会が作られていた」の平均値は4以上であった。学習量の評価では、自主学習に取り組む機会を設けることが出来なかった様子がうかがえ、課題を明確に示し、学生が自主的に自学に取り組むことが出来るよう工夫したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	相談援助の基本的な技術の習得に向け、知識を「学ぶ」時間と、課題について「考え」ディスカッションする時間を多く設けたことから、学生の相談援助に対する関心が高まったと考える。しかし、授業時間以外に学習に取り組む機会につなげることが出来なかったことは課題である。以上のことから、学習のねらいや復習課題を提示するよう努めていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	担当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅰ	1	後期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、相談援助演習の体系、それぞれの位置づけについて理解した上で、1 社会や地域で起きている福祉的課題や問題の実情や背景、それらを抱えた人々（当事者）、2 社会福祉士の活動領域・場・具体的支援内容・役割、3 社会福祉士としての価値・倫理、4 自己覚知・他者理解、5 コミュニケーション技術について学ぶことを目的とし、授業を構成した。主には以下の点において授業準備に配慮をおいた。 ① グループワーク等を中心に、基礎的な視点(1～5に留意)に基づき、本学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。 ② 初回講義の際には、本講義の全体像を示し、科目内容のポイント、今後の講義展開等について学生に教示した。 ③ 講義内容の振り返りとして、レジュメ資料を作成し学生に共有した。おさえておくべきポイント等を整理のうえ、学生の理解度を把握したうえで、今後の講義の展開に生かすよう努めた。 ④ 本講義の特性上、福祉的な問題の理解や実際のコミュニケーション技術の方法等の理解が求められるため、モデル図や要約したものを新たな教材として作成した。また、教科書やレジュメではイメージしにくい内容については、視覚教材を併用して学生の理解を促した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員が標準的レベル及び理想的レベルに達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、中央値4.0に対して、全体的に中央値の水準であった。(2)「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、(8)「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が共に平均値4.3、(3)「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、(6)「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が平均値4.2であった。一方で、(1)「自分なりの目標を達成できた」と(10)「職業選択の参考になった」が共に平均値4.0であった。3「授業の質評価」は中央値の水準であった。 知識理解に関しては、相談援助に携わる上で、①福祉的課題や問題の実情の把握、②社会福祉士としての倫理と価値、③社会福祉士の活動領域・場・支援内容、④自己覚知・他者理解、⑤コミュニケーション技術に関する知識について捉え、技能表現にて捉えた知識を演習課題を通して表現する練習に取り組んだ。今後も現代の社会福祉問題に関連させ、社会福祉士の社会的な役割を示すことで、今後も学生の理解を促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、相談援助の技法、専門職としての価値・倫理を基盤に基本的なコミュニケーション技術を理解できるように今後も務める。 学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な情報量となるため、その点は課題として捉え、改めて要点を整理する等、次年度に向けて検討したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の基礎を学ぶ位置づけであり、必修科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目は相談援助職を目指す学生を対象に、社会福祉の基礎的な知識や技術を学ぶ科目である。そのため近年の福祉的課題や問題の実情を把握するとともに、社会福祉士がどのような倫理と価値をもち、実践するのか等の理解のために、グループワークを中心とした講義の展開が主であった。3年次以降の本学における社会福祉士・精神保健福祉士・養護教諭・保育士の実習に向けての横断的な知識と技術を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による社会福祉士の在り方や実践・方法論を注察する必要があるが、2019年度の講義に関しては、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であるとする。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみても全体的に一定の水準を保っている。自己目標・職業選択に関する達成度が比較的低く、方法的妥当性の問題である。しかし、1年生後期の段階では今後の履修状況において学びながら、自己内省を深め自己決定をしていくものであるため、本科目を学んで今後の学生の成長を注察したい。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、学んだ内容
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価において、「自分なりの目標を達成できた」と「職業選択の参考になった」が共に平均値4.0と全体数値よりも低かった。本年度は、地域社会における福祉の問題について具体的な事例を取り上げて、考え、話し合い、発表する機会をもったが、1年次生であるため具体的なイメージをもちづらかったと考えられる。科目の性質上、社会福祉における基礎的な内容をおさえるため、次年度に向けた関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、相談援助場面において社会福祉士が社会的にどのような支援を行うのか、社会的な役割を果たすのか等、事例を提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。 学生の意見として、授業での学びを深めるために、課題を提示し、その学びを整理するとともに、次年度の講義に生かしていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の基礎を学ぶ位置づけであることから、相談援助における基礎的知識の形成と基礎的なコミュニケーションについては概ね達成できたが、関心意欲及び思考判断の面で課題を残した。この点は、2年次の相談援助演習Ⅱにおいて社会福祉士が対応する事例の検討や演習活動を取り入れることで、学生自身の主体的な学びを促し、他の学生間との意見交換及び発表を介して、学ぶことの意欲を引き出していきたい。 以上のことを踏まえ、可能な限り考える時間をとること、復習課題を意識的に提示するようにすることを加えていきたい。また、適宜、授業内容を整理することで、授業中に課題を行う時間を増やすように努めたい。配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	山本 佳代子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅰ	1	後期	必修	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、1年生の必修科目であり、社会福祉士としての必要な価値や視点、態度等を理解するとともに、社会や地域で起きているさまざまな福祉的課題の実情や背景、当事者について理解することをねらいとする。これらの課題について、DVD教材を通してさまざまな領域の実情を把握し、具体的にどのような困難があるかを理解することや、当事者を招き直接話を聴く機会を設け、より具体的に一人ひとりがそれらの課題について考えられるよう組み立てた。さらに、実際にボランティア活動を体験できる機会を作り、現場で今できることできないこと、今後何が必要かを実践を通し考えられるよう工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	やや達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価を見ると、「知識理解」（DP1）は、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」において、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」が92%で目標を達成したと考える。「意欲関心」（DP3）は、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」において、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」が100%で目標を達成したと考える。「態度」（DP4）は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」において、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」が100%で目標を達成したと考える。「技能表現」（DP5）は、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」において、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」が69%、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」において、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」が84%であることから目標をやや達成したと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は必修科目である。学生が達成すべき行動目標にできるよう課題を設定し授業に取り組んだ。学生も一定の成績をおさめていること、自由記述でも「ボランティアなどの機会もあり本当に良かった」「新たな発見が多くあり、自身の課題も見つけることができた」等の記述もみられ、内容的には妥当であると考ええる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	図書館の図書、雑誌、インターネット等の利用率は高かったが、学術データベースの利用が少なかった。学術データベースに触れる機会を設けるため、次年度は図書館ガイダンスも取り入れていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	到達度自己評価の結果から、課題は概ね達成できたと考える。今年度は、一人ひとりが時間をかけて事例に取り組んでいたため、技能表現（DP5）の項目に取り組む時間を十分に確保することができなかった。予習や復習の課題を意識的に提示するようにしたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅲ	2	後期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目（2年次対象・選択）の1つであり、相談援助演習Ⅳ（3年次前期）及び相談援助演習Ⅴ（3年次後期）と連動し、5人の教員がオムニバス形式で担当している。主な教授内容は、各担当教員の専門領域（障害福祉、高齢福祉、児童福祉、医療福祉、地域福祉）における事例を活用し、支援内容の検討やグループディスカッション、ロールプレイ等を行っている。 授業評価アンケートにおける学生の受講動機では、「資格取得に必要である」（43.5%）や「必修科目である」（60.9%）が見られ、学生の多くが社会福祉士取得を意識した受講であることがうかがえる。一方で、「関心のある内容である」（4.3%）は非常に低い状況であり、授業内容や展開等を工夫し、学生の関心・意欲を高める必要があると考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全体の成績は平均78.9点であり、この点では教育目標をある程度達成したと考える。各DP項目の達成状況について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」（DP1）については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（わりにそうだと思う47.8%、かなりそうだと思う34.8%）であり、目標を達成できたと言える。思考判断（DP2）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（わりにそうだと思う43.5%、かなりそうだと思う30.4%）であり、目標をやや達成できたと言える。「意欲関心」（DP3）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う52.2%、かなりそうだと思う30.4%）であり、目標を達成できたと言える。「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う60.9%、かなりそうだと思う21.7%）であり、目標を達成できたと言える。「技能表現」（DP5）については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要とする技術を身につけることができた」（わりにそうだと思う43.8%、かなりそうだと思う34.8%）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（わりにそうだと思う47.8%、かなりそうだと思う26.1%）となり、目標をある程度達成できたと考える。 以上の他、授業評価アンケートにおける学生の自発的学習や図書館利用の状況からは、今後、学生の関心・意欲を高め、主体的学習態度を引き出す必要があると考える。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①D P 上の位置づけ 学生の到達度自己評価からは、教育目標を達成できた状況が示された。また、全体の成績は平均78.9点と高く、本科目のD P 上の位置づけに問題はないと考える。 ②C P、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は相談援助の専門的視点や態度、知識・技術を実践的に修得するものである。これらの学びは3年次開講の相談援助実習の展開において不可欠であり、本科目のC Pおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	上記で述べたように、学生の自発的学習や図書館利用の状況から、学生の主体的学習態度を十分に引き出せていない現状が明らかとなった。具体的には、授業評価アンケートにおける「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」との問いで、「していない」（60.9%）が見られた。また、「この授業では、図書館の図書、雑誌を利用した」との問いについては、「利用しなかった」（91.3%）が見られた。学生の関心・興味を引き出す授業展開について、さらに各教員の教授内容や方法の現状を見直し、改善する必要があると考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	既述の通り、全体成績という点では、本科目の教育目標はある程度達成されたと考える。しかし、学生の動機や関心を高め、主体的な学習態度を引き出すという点では課題が残ったと言える。本科目は、教員5名によるオムニバス形式の授業形態となっており、教員間の連携が特に重要になる。今後も授業内容や展開方法等について教員間で共有しながら、より教育効果の高い授業を目指したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅲ	2	後期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	事例集を読ませ行間に隠れる当事者の思いや援助者の考え方についてを学生一人ひとりに想像させる形式を用いた。「受講動機」は「必修科目」であるからが76%、「資格取得に必要」と答えた者が56.0%であった。医療の事例であったことで関心が薄かったのか自分の進む方向性が違うと判断したものなのかかわからないが、インターネットの活用などがやや少なかったと思われる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学習到達度は必ずしも高いとは言えないが、予復習の時間をとるものがいた。一部ではあっても自らで学ぼうとしているのだと評価する。。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP達成度はいずれも低いものではあったが、学習の成果はあったと判断する。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	レポートの評価について「基準が明らかでない」とする者がいた。今後は学生の納得の行く基準としたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	「学生の質問を受け付け、それにこたえる機会が作られていた」に評価」する者が多かった。今後も更に行って行きたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅲ	2	後期	選択	はい	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	毎回の課題内容について担当学生の準備だけでなく、その他の学生にも予習を求めた。授業中の印象では学生の努力がうかがえた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	大方の学生が、主体的に授業に参加していた印象を受ける。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	概ね妥当であると考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業への主体的参加を促すためにも、次年度も継続したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	大方の学生は授業参加度、レポートの内容からして概ね学習課題は達成されたと考えられる。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅲ	2	後期	選択	いいえ	29

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は2年次の社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目である。学生の受講動機をみると、「必修科目である」が85.2%、「資格取得に必要である」が55.6%、「関心のある内容である」は7.4%であり、本科目への関心の低さがうかがえる。本科目では、福祉的課題を抱えた人々への相談援助の事例を活用し、相談援助の展開とそこで活用される専門的な知識・技術の習得に向けた実技指導を行う。演習ではできるだけ多くの事例を用い、「相談援助実習」で実践的に用いられる社会福祉の視点や職業倫理、援助技術を習得できるような内容となるよう工夫した。また相談援助の実践ではチームアプローチが基本となるため、できるだけグループワークを通して課題解決を導く演習となるよう工夫した。毎時間ごとにはふり返りの時間を設け、学生のコメントに対してフィードバックを行ったり、次回の演習の冒頭で紹介しながら、専門的視点への理解を深めたり、共有したりできる機会を設けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は、79.4点で、中央値は81点であった。学生の学習到達度の自己評価は、「自分なりの目標を達成した」の平均値3.6、中央値3.0で、概ね目標は達成されたと判断した。各項目をみると、知識理解が平均値3.7-3.8、中央値4.0、思考判断が平均値3.6-3.7、中央値4.0、意欲関心が平均値3.7、中央値3.0、態度が平均値3.9、中央値4.0、技能表現が平均値3.7、中央値3.0-4.0であり、概ね目標は達成されたと考える。ただし、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の項目において、「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名いた。これらの点は、ソーシャルワークの実践的な知識・技術を身につけることに主眼をおく本科目において、目標達成が困難であったことを示しているため、次年度は各学生の達成度を判断しながら、個別の対応を丁寧に行っていきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本演習は「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目として位置付けられている。4. に記したように、内容的妥当性には問題がなかったと考えられるが、すべての学生が目標達成できるよう、個別の対応を行っていく必要がある。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 上記同様、内容的に妥当であったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価では平均値3.7-3.9、中央値4.0であった。ただし「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それにこたえる機会が作られていた」の項目において、「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名いた。今後はどの学生も質問しやすい雰囲気を授業内で作っていく必要がある。 学習量の評価をみると、予習をしなかった学生は22.2%、復習をしなかった学生は37.0%、また自発的学習を行わなかった学生は77.7%であった。課題等により予習・復習に関しては一定程度促すことができたが、自発的学習を促すことができなかった。また「図書館の図書、雑誌を利用した」学生は25.9%、「学術データベースを利用した」学生は7.4%、「インターネットを利用した」学生は48.1%にとどまった。自発的学習の必要性、図書館利用の必要性について意識づけしていく必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目である。 4. に記した学習達成度の自己評価、6. に記した授業の質評価により、概ね授業の目標は達成されたと考えるが、次年度はすべての学生が目標達成できるよう、個別の対応をしていく必要がある。また文献利用等の自発的学習をさらにうながしていく取組みが必要である。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅰ	2	通年	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目（2年次対象・通年）の1つであり、相談援助実習（3年次）の実施に向けた準備学習として位置づけられる。学生自身も本科目のこうした位置づけを認識していると思われ、授業評価アンケートの受講動機は、「資格取得に必要なである」（63.6%）とやや高い割合となっている。 本科目では、高齢者福祉領域及び地域福祉領域を担当した。既述の通り、本科目が実習に向けた準備学習であることから、実習領域・施設、利用者理解を深める授業内容とした。また、授業の展開ではグループワークを多く用い、学生間の相互交流により実習への動機が高まるよう意識した。さらに、視覚教材の活用や見学実習を行うことで、実習のイメージを具体化できるよう工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された	やや達成された	達成された	どちらともいえない	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	各DP項目の達成状況について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」（DP1）については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（わりにそうだと思う36.4%、かなりそうだと思う54.5%）であり、目標を達成したと言える。「思考判断」（DP2）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（わりにそうだと思う40.9%、かなりそうだと思う36.4%）となっており、目標をある程度達成できたと言える。「意欲関心」（DP3）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う45.5%、かなりそうだと思う36.4%）であり、目標を達成できたと言える。「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う45.5%、かなりそうだと思う36.4%）となっており、これも目標を達成できたと言える。「技能表現」（DP5）については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（わりにそうだと思う31.8%、かなりそうだと思う27.3%）、また、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は、「わりにそうだと思う」（22.7%）、「かなりそうだと思う」（40.9%）となっていることから、目標達成はどちらとも言えないと考える。 以上、DP項目の達成度からは、総じて本科目の教育目標は、ある程度達成されたと考ええる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP上の位置づけ 授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、全体として教育目標を「ある程度達成」しており、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は3年次に実施する相談援助実習の準備学習として、実習に必要な知識・技術や態度を修得するものである。本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	昨年度は教育目標をやや達成できなかったが、本年度はある程度達成できた。今後も学生個々の理解度や学習の進捗状況の把握を十分に行い、授業を展開していきたい。また、学生が図書館を積極的に利用するなど、主体的な学習態度の涵養と言う点では、昨年度同様に課題が残ったと考える。学生の学習意欲を高め、実習への動機が高まるよう取り組みたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	既述の通り、本科目における教育目標はある程度達成された。本科目は、実習への準備・事前学習としての位置づけにあり、実習への動機や実習態度に直接関わってくる。今後も引き続き学生個々の状況を踏まえながら、授業改善に取り組みたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅰ	2	通年	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目の一つであり、「相談援助実習(3年次)」の実施に向けた準備段階として位置づけられる。児童福祉領域の実習で求められる知識・技術を確認し習得すると同時に、実習に向けての動機づけが高まるよう、現時点で取り組むべき課題を明確化するためのグループワーク、その課題に主体的に取り組むためのグループ学習に重点をおいて授業を展開した。見学実習においては、2時間程度の見学と講義のみ行う過去の形態を見直し、昨年度と同様に、現場にて4～5時間活動を体験することを通して、対象者との関わりから学び、自己の課題を振り返る機会を得ることができたと考える。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価において、平均値の低さが目立ったのは「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」という質問項目（かなりそうだと思う10%、わりにそうだと思う40%、まあまあそうだと思う50%、平均値3.6）であった。「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（かなりそうだと思う35%、わりにそうだと思う45%、平均値4.2）、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」（かなりそうだと思う35%、わりにそうだと思う40%、平均値4.1)においては平均値は高く、その他の項目においては平均値3.8～3.9であった。教育目標は一定程度は達成されたと評価した。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,行動目標からの内容的妥当性 4(2)に記述したように、十分とはいえないものの一定程度の達成状況にあると考えることができ、本科目の位置づけから見た内容的妥当性に問題はないと考える ②CP,カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は3年次の「相談援助実習」の実施に向けて展開される科目であり、実習に向けた具体的準備、実習に向けての動機づけを行い、準備学習を深めていくものである。本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては、平均値4.1～4.3となっており比較的高い評価が得られた。図書、雑誌など図書館利用の状況においては「利用した」が70%と比較的高い割合を占めたが、利用していない学生が30%存在していること、授業に参加するための準備を1度も行わなかったものが30%、復習を行わなかったものが40%おり、自発的学習に取主体的に学びに向かう態度を十分に引き出すことができていない状況であることが明確になった。昨年度の受講学生と比較すると全体的な状況はやや改善されたが、引き続き学生の主体的かつ積極的学習を進めるような姿勢を養うことに取り組んでいきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目における教育目標はある程度達成できたと考えるが、主体的学習態度の形成においてさらなる改善、工夫が必要であるとする。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅰ	2	通年	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉士指定科目であり、3年次の「相談援助実習」に向けた準備学習を行う科目として位置づけられる。授業は、2年次までに修得した相談援助にかかわる基礎的な知識・技術を障害者領域に特化して再度復習、整理し直し、加えて社会福祉士を目指すモチベーションを確認して、実習に向けた自己の準備性や対人援助職への適性を確認していくことを目標にして展開した。受講動機を見てみると、「必修科目である」が78.6%、「資格取得に必要である」が58.8%を占め、「関心のある内容である」は7.1%であった。必ずしも社会福祉士取得に意欲の高い学生のみが受講している訳ではないことを踏まえ、将来の進路を見定めていくことも目標に加えて、できるだけ実習やソーシャルワーカーの仕事をイメージ化できるよう指導内容に反映させていくよう努めた。 前年度と同様、今年度も障害者支援の現場で実際に用いられている、視覚的構造化や認知行動療法などの技術を実践的に学べる演習を取り入れた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は83.6点、中央値85点で十分な目標レベルに達していた。学生の学習達成度の自己評価においては、「自分なりの目標を達成した」の項目が、平均値3.8、中央値4.0であった。各項目をみると、知識理解が平均値3.9-4.1、中央値4.0、思考判断が平均値3.9、中央値4.0、意欲関心が平均値3.9、中央値4.0、態度が平均値3.9、中央値4.0、技能表現が平均値3.9、中央値4.0であった。このことから学生の自己評価においても概ね目標は達成されたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」という社会福祉実践の展開につなぐ科目として位置付けられている。学生の資格取得へのモチベーションに課題はあるものの、「職業選択の参考になった」の平均値3.9、中央値4.0という評価をみると、本科目を通して学生が進路を定めていくことに貢献できた点で内容的妥当性はあったと考えられる。 ②DP、行動目標からみての内容的妥当性 4. に記したように成績の平均値、および学生の自己評価から内容的妥当性はあったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業の質評価の回答をみると、全ての項目において、「少しそうでないと思う」、「全くそうでないと思う」と回答した学生はおらず、平均値4.1、中央値4.0であった。 学習量の評価をみると、予習を全く行わなかった学生は21.4%、復習を全く行わなかった学生は28.6%であり、課題等への取り組みを通して、一定の学生に対しては学習を促すことができたと考える。ただ自発的な学習に関しては、71.4%の学生が全く行っていなかった。今後は資格取得への関心をさらに高めることで、自発的な学習を促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」という社会福祉実践の展開につなぐ科目として位置付けられている。本科目を通して「職業選択の参考になった」の評価から、学生が進路を定めていくことに貢献できたと考える。今後は資格取得への関心をさらに高めることで、自発的な学習を促していきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神障害者の生活支援システム	2	後期	選択	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、メンタルヘルスの課題を抱える当事者(精神障害者など)の生活支援の意義と特徴及びそれに関する制度と施策についての理解を深めるとともに、さまざまな活動領域における精神保健福祉士の相談援助活動について理解することを目的に本授業を構成した。実践事例・福祉教材などを用いたり、社会的な課題について考察することで、精神障害者の生活支援システムについての知識と支援内容の基本的な理解を深めた。主には以下の点において授業準備に配慮をおいた。 ① 講話法を中心とした講義の展開が主であった。地域で生活するメンタルヘルスの課題を抱える当事者及び家族、支援者等に関する横断的な理解が求められる。そのため3年次以降の本学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。 ② 初回講義の際には、本講義の全体像を示し、科目内容のポイント、今後の講義展開等について学生に教示した。 ③ これまでの講義内容の振り返りとして、レジュメ資料を作成し学生に共有した。おさえておくべきポイント等を整理のうえ、学生の理解度を把握したうえで、今後の講義の展開に生かすよう努めた。 ④ 本講義の特性上、地域で生活するメンタルヘルスの課題を抱える当事者、家族、支援者、各種法制度等の広範な理解が求められるため、モデル図や要約したものを新たな教材として作成した。また、教科書やレジュメではイメージしにくい内容については、視覚教材を併用し
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	達成された		やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、91点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベル及び理想的レベル（概ね80点以上として試験を作成）に達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、中央値4.0に対して、（2）「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が平均値4.0、（3）「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、（6）「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」、（10）「職業選択の参考になった」が平均値3.9であった。そして、（1）「自分なりの目標を達成できた」が平均値3.8であった。一方で（8）「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均値3.7であった。3「授業の質評価」は中央値の水準であった。 知識理解に関しては、地域福祉の観点からメンタルヘルスの課題を抱える当事者の地域生活を支える知識について問うものである。精神保健福祉に係る法制度、サービスについては、広範な情報量となるため、現代の社会福祉問題に関連させ、社会福祉士・精神保健福祉士の社会的な役割を示すことで、今後も学生の理解を促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、メンタルヘルスの課題を抱える当事者の地域生活を支える法律、制度、サービスを理解できるように今後も務める。 学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な情報量となるため、その点は課題として捉え、改めて要点を整理したり、グループ討議等、次年度に向けて検討したい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「精神保健福祉関係科目」では、精神保健福祉の専門を学ぶ位置づけであり、選択科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目はメンタルヘルスの課題を抱える当事者の地域生活を支える支援の在り方、諸制度やサービスの仕組み等の理解のために、講話法を中心とした講義の展開が主であった。3年次以降の本学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による法制度・サービスの動向を注察する必要があるが、2019年度の講義に関しては、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から表現技能に関する達成度が比較的低かったが、メンタルヘルスの課題を抱える当事者及び家族への支援や地域生活支援上の諸制度・サービスの表現の機会が少なかった点では方法的妥当性の問題である。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題(具体的な事例)を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、学んだ内容をアウトプットする機会をもつことで学生の本科目に対する学びを促したい。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	到達度自己評価において、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均値3.7と全体数値よりも低かった。本講義は、講義形式により、メンタルヘルスの課題を抱える当事者の地域生活を支える知識について学ぶ機会を中心においたため、事例を取り上げて、考え、話し合い、発表する機会が少なかった。次年度に向けて関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、事例を事前提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、「精神保健福祉関係科目」では、精神保健福祉の専門を学ぶ位置づけであることから、精神障害者に対する地域支援に求められる基礎的知識の形成については概ね達成できたが、関心意欲及び思考判断の面で課題を残した。この点は、3年次の精神保健福祉の関連科目(演習活動や現場での実習体験等)を通して、学生自身の主体的な学びを促し、精神保健福祉士に求められる倫理と価値、知識や技術を学ぶことの意欲を引き出していきたい。 以上のことを踏まえ、可能な限り、学生自身の考える時間をとること、学生が体験的に捉えた学びを基に、コミュニケーションを図ることで、学生自身の学びを深めていきたい。そして、主体的な学びを深めていくためには、復習課題を意識的に提示する。適宜、授業内容を整理することで、授業中に課題を行う時間を増やすように努めたい。配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	高口 恵美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	1	後期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講動機は「必修科目である」が97.3%であり、「資格取得に必要である」が17.8%、「関心のある内容である」が4.1%、「単位数を確保する」が4.1%であった。精神保健福祉士を目指すものにとって基本的な知識を得る教科であるが、関心は低い。授業では精神保健福祉に関する具体的なイメージが持てるよう事例を豊富に取り入れながら、相談援助職における基本的なスキルとなる要約や記録の機会を多く設けた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価では「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は4.4、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「専門分野のさまざまな課題を検討する力をえることができた」の平均値が4.3と、精神保健福祉に関する理解を高めることができた。「専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」「職業選択の参考になった」の平均値4以上という評価からも、本教科を通して、精神保健福祉に関する関心を高めることができた様子が伺える。一方「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値は3.6と全体を見ると低めであった。これは授業内容が記録や要約、知識の習得を中心に授業を進めていたためであると考え。今後、学生が主体的に学習に取り組めるよう、問いや考察を深める機会を取り入れたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見て、本科目は資格取得に必要な「選択科目」であり、精神保健福祉に関する基盤となる知識を高める教科である。学習達成度の自己評価からみても、DP、CPともに内容は妥当であると考え
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について「評価基準が明らかである」の平均値4.3、「学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は4.3、「説明は理解しやすいものであった」4.3、「口頭、文書など、何らかの形で質問を受け付け、答える機会が作られていた」の平均値は4.2であった。今後は、評価基準や学習課題など明確に示すよう意識して取り組みたい。また、考察や意見交換の時間を意識的に設けたい。学習量の評価では、積極的に記録を取り入れたこともあり、期待以上に予習復習に取り組んでいる様子が伺える。更に理解を深めるため、学生が自主的に調べて考察することが出来るよう工夫したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉の基本的知識を「学ぶ」時間と、学んだことを要約し記録する時間を多く設けたことから、学生の知識向上につながったと考える。その結果、精神保健福祉に関する関心の高まりや、「この講義を通して精神コースにしようと決めた」など進路選択のきっかけとなっている。さらに、ディスカッションの時間などを積極的に取り入れ、自身の考えを深める機会を設けたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	三木 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神疾患とその治療	2	後期	選択	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の資格取得には必修の授業であるばかりではなく、精神保健分野での仕事を行う上での基本になる授業である。本年度は、精神医学の基本である国際的な疾患分類であるICDの改定が予定されているなど、現在の精神医学には大きな変化が生じている。今回の講義ではこうした動向も取り入れて実施する予定である。このため内容は基本的な項目をわかりやすく学べるように工夫していく。授業評価は出席とレポートによって行う予定である。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	出席、レポートを対象として評価を行う。出席前に指定した教科書の当日に講義を行う個所には目を通して頂きたい。当日には配布資料を準備する予定である。レポートについては求めた内容に該当する内容であるか。内容が一般的に認められていることであるか、さらに学生自身の意見が反映されているかによって評価を行う。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①専門的な基礎知識に該当する授業であるが、なるべく臨床的な知識を取り入れ興味を持てるように工夫した。②出席は確実に行っていたので今年度も現在の対応を継続したい。こうしたことから講義の携帯はおおむね妥当であったと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	おおむね問題はないと考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	今年度は、精神医学の基礎をなす疾患分類の改定が予定されている。現在の教科書には反映されておらず、これまでの知見との相違についても抗議を行いたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助演習Ⅰ	2	後期	選択	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であり、受講学生は、全員が精神保健福祉士レーンである。精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、1年生時や2年生前期において受講済みの精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更には精神保健福祉士レーンで初めての演習グループであることも十分に考慮をして講義を展開させた。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、北九州市における精神保健福祉社会資源マップの作成をグループ化して行うことを事前に知らせ準備させた。毎回講義のレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、演習参加協力度、リアクションペーパー、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全体的に80点以上が殆どを占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、初めての精神グループでの演習で、仲間との理解も深まったし精神に進んでよかったと思ったや、次年度からも精神保健福祉関連の講義が楽しみです等の内容の記載もあった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、受講の全学生が、精神保健福祉士のレーン選択の学生であり、精神障害者福祉や医療福祉領域に興味があるということで、講義に対してのモチベーションは非常に意欲的なものを感じられ、高い関心を感じられた。学生も成績評価からみて、一定の到達領域に達しており、内容的には十分に妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性についても、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均点が、他の項目と比較すると低かった。その場面設定を行い、実際にグループ化して社会資源マップを作成する作業を行った。2年生になって初めての自分の専攻の演習であったので、なかなか慣れていないということもあったかもしれないが、可能な限り今以上に展開できるように、次年度以降も工夫をしていきたい。また、昨年度は、調査の作業を課したのでインターネット上での検索は多く、残念ながら学術データベースの活用が殆どなされてなかった。今年度は利用の仕方からのインフォメーションを行い、積極的に活用できるよう指導をした。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、忙しかったという回答があった。時間の作り方に関しても、引き続き具体的な方法を提示するなどの指導を行いたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	精神保健福祉士国家試験受験資格の必須科目であり、全員が精神保健福祉士養成レーンの学生であった。1年次や2年前期での精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授を行ったが、初めての専攻のグループであるので、前半部分は相談援助の基本的なことの復讐も含めて講義を進めていくこととした。また、後半部分は、実際に援助支援をする時に必要なものに理解を深めさせるために、地元の精神保健福祉の社会資源マップの作成をグループ化して分担で課した。更には、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、ロールプレイを取り入れ実際に演じてみるという演習を行って、良い意識づけはできたと思う。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めることができたと感じられる。次年度も引き続き、予習復習、学術データベースの利用方法に関しても、具体的な指示を出すことにしたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
心理学概論Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	77

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	福祉の領域の専門職を目指す学生が、総合的な人間理解の基盤を確立するための1つの学問領域として、心のメカニズムを究明する心理学を学ぶことは極めて重要であると位置づけている。内容的には理論的要素の強い学問領域であり、特に脳の働きと人間の行動との関連に重点が置かれているために、文系の学生には理解しにくい学問と言えるであろう。また高校までに生物を学んできたかどうかで、学生間の学修準備性は大きく異なると考えられた。従って第1回目の講義において「生物を学んだことがあるか」について口頭で問うたところ、半数以上の学生が生物を学んできていないようであった。そのため脳の働きを説明する前に、ニューロンの役割など基本的なところを細かく解説し、対応した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	本試験の成績の平均値は70.99（±17.01）であり、昨年度（66.6（±14.4））と比べて上昇がみられた。追再試験受験者数も12名（前年度比-9名）と減少した。今回は秀をとった者の人数が8名以上（1割以上）おり、双峰性の分布が益々顕著になったものと考えられる。今回は学生の表情を見ながら、適宜説明を工夫したが、それにより全体の進捗が落ちてしまったところがある。国家試験にかかわる科目であるため、教授内容は減らせない中で説明を丁寧にするのが、だんだん困難になってきたと感じている。なお最終的に不可であった学生の試験の回答内容を検討する限り、本試験にあたって準備不足であったと考えられる。また何度か「分からないところはそのままにしておかないこと」「レジュメや教科書で分からない場合には心理学の他の教科書などを読んで復習に努めること」等指示を行ったが、学習量の評価を見ると復習を行った者の人数と成績の良かった者の数が大よそ同じであったため、日ごろから復習を行っていた者とそうでない者の差が出た可能性はある。まずは日々の復習から力を入れてもらいたいと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は社会福祉学を学ぶ上での基礎科目として位置づけられており、学科のCPとも合致する科目であるといえるであろう。学生も「必修科目である(実際には選択科目であるが)」、「資格取得に必要である」、「関心のある内容である」と考えている者も多いため、内容的妥当性があるものとする。一方DP及び行動目標から検討すると、昨年度に知識理解を向上させるように復習を促していく事を課題として提示したが、復習を実行したり自発的に学習した者が十数名見られたため、一部の学生にとっては方法論的妥当性もあったものと評価できる。またこのことが、全体の平均値の向上や秀が占める者の割合の上昇につながったものと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において「説明は理解しやすいものであった」という項目の平均値が3.9と比較的高かったことから、講義内容そのものに対する評価はそれほど悪くなかったと考える。しかしながら復習機会が少ないために授業で理解したことが定着していなかった者が少なくなかったと言え、それが成績の差に表れていると考えられる。理解を定着させるためには復習が必要であることを何度も指示していくしかないと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生のコメントとして「例があると分かりやすく入りやすかった」「授業は面白いものだった」「先生が試してみてくださいと言ったことを試した」など、講義内容を楽しいものと評価したり、興味を持ったことについて自分なりに調べる・体験する・復習するなど実際の行動に結びついていた者がいたことは嬉しかった。理解を定着させる努力をする学生が増えることを期待する。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	野井 未加

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
発達心理学Ⅰ	1	後期	選択	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本学科が養成する資格を取得する上で、胎児期～児童期までの発達過程について心理学的観点から理解することは極めて重要であると位置づけているが、受講者数は学科の約半分しかいないのは残念な事であった。内容的には理論的要素の強い学問領域ではあるが、自らの発達を振り返ることができるためイメージしやすいところがあったと考えられる。またできる限り、具体的な事例などを紹介することでイメージの共有を図った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は81.03(±10.21)と、昨年度(73.1(±16.9))に比べ大幅に上昇した。またすべての学生が単位を取得できた（昨年度は単位取得がかなわなかった学生1名）。学生による到達度評価が3.8と高めであり、知識の確認・修正・獲得の領域も3.9と高かった。昨年度に比べ、恒常的に復習を実行している者が少数ながら一定程度存在すること、受講動機に「関心のある内容である」と答えた学生が64.5%と、高かったことも成績の平均値の上昇に関与していると考えられる。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目の内容は福祉の専門職(特に児童・障害児・教職・保育)にとって必須の知識であり、学科のCPとは合致していると考えられる。学生の受講動機としては「資格取得に必要である」「関心のある内容である」がそれぞれ35.5%、64.5%と多くを占めており、この点からは内容的妥当性があるものとする。一方DPは標準的水準以上の達成をしていると評価している。今後も人間の発達の複雑さ、面白さに触れ、自発的で発展的な学習を促すよう、参考文献などを適宜紹介していきたい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においていずれの項目も3.5-4.1と、昨年度と比べ評価が大幅に上昇したと理解している。また直接質問に来る学生も少数ながら存在した。また学生からの質問については感想に記載されているものもあった。以前の授業では感想に書かれた質問に文書で応じたこともあったが、回答だけで4, 5ページに至り先に進めないこと、学生自身が自己学習する機会が減ってしまうことが懸念されたため、2016年度より第1回目の授業の中で、「分からないことがあれば、一度は自分でレジュメや教科書、その他の関連図書を読んで解決する努力をしてほしい。その上で分からないことがあれば、直接質問に来るように。」と伝えることとしている。また参考になる関連図書についても提示した。予習・復習の仕方については、一人ひとり理解度や学習方法が異なるため、各自に必要な程度・方法で行ってほしいと考えている。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学生自身の到達度評価及び成績も概ね高い値を示していると考えられるため、本科目における授業構成・展開でさほど問題はないと思われる。引き続き、学生が自発的・発展的に学習するように、レジュメに提示されている参考文献を読むなどの注意喚起を行っていく。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	水貝 洵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
障害者心理学	2	後期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	障害に関する診断的理解にとどまらず、障害児者の体験についてライフサイクルごとに理解を深めることを目指した。「受講動機」をみると「関心のある内容である」および「教員に勧められた」が該当し、どちらも同数であった。今後の実習等に活かそうと考えていた学生が多いと予測され、受講動機は高かったことが推察される。そのため、授業の目標ともあわせ、事例などを提示ししながら、発展的に学習を深めていけるよう配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講した学生の成績の平均値は、84.2点（SD=2.95）であり、学生の授業目標の達成度は概ね理想的なレベルに到達していたことが示唆された。「到達度自己評価」の項目への回答についても、概ね4点から5点に分布しており、学生の学習目標が到達されたといえるだろう。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	3年時での実習の前段階として、障害に関する専門的知識を身に着け、適切な援助の在り方について考える姿勢を培うことは重要と考えられ、開講時期は妥当であると考えられる。また、授業の目標にDPも対応しており、設定DPも妥当である。 授業内容は、上記で述べた学習目標および対応DPに関連して勧められ、適切であったと考えられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	「図書館、インターネット利用」については、「利用していない」との回答結果になった。授業での学習のみで完結し、自発的な学びの姿勢に繋がらなかったことが考えられる。そのため、授業内容と関連した図書の紹介や発展的な学習テーマを提示し、学生が授業から自発的な学びへとつなげやすいよう工夫する必要があると考えられる。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	受講した学生は授業目標を概ね達成できており、授業進度や内容は適切であったと考えられる。図書館やインターネットの利用が少なく、自発的な学習へと発展しなかったため、受講学生の関心意欲が高まるよう図書を推薦するなどして工夫したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
臨床心理学概論	1	後期	選択	いいえ	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	学生の受講動機は、「必修科目である」41.9%、「資格取得に必要である」48.4%、「関心のある内容である」9.7%、「単位数を確保する」12.9%、「友人が履修している」4.8%であった。本科目は選択科目であるが、資格取得のための必修科目として受講した学生が多かったようである。本科目は、1年後期開講科目であり、初めて臨床心理学に触れる科目であることから、その基礎理論を具体的に分かりやすく伝えること、テキストの内容に加え、適宜参考資料をプリントし添付することで、学生のこの分野への知識理解の深まりと意欲関心の高まりを促している。 授業毎に提出させている小レポートに挙げられた質問や疑問は、次回授業にてフィードバックを行い、学生の関心に応じるよう工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は76.6点であった。90点以上16.7%、80～89点29.5%、70～79点25.6%、60～69点17.9%であった。また、追再試受験者中33%の者については、再度勉強をし直し標準レベルの知識を獲得したことを確認することができた。したがって、おおむね標準的レベルの知識を獲得することができたと評価する。 学生の自己評価においても、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均点は3.7点と高い。その他項目についても概ね3.6点であり、知識の習得の実感を持ち、意欲的に課題に取り組んだと評価する学生が多かったと考えられる。 意欲関心については、殆どの学生が小レポート30点配点中8割を超えており、概ね達成されたと言える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「選択科目」であるが、社会福祉士、精神保健福祉士、養護教諭、保育士など対人援助職としての専門性を獲得する上で、臨床の心理学を学ぶことは基礎である。したがって、1年次の臨床心理学概論の学習は重要でかつ妥当であると考ええる。 臨床心理学概論における臨床心理学の基礎理論は、カウンセリング論、発達臨床心理学における応用的知識へつながる重要な導入科目として位置づけられる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方針を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業は、スライドを用いてテキストのキーワードや概念を分かりやすく伝えるように工夫した。また、テキストの内容に加え、適宜参考資料をプリントし添付することで、学生のこの分野への知識理解の深まりと意欲関心の高まりを促した。 学生アンケートによると、授業の質の評価において、「評価基準は明らかだった」3.9点、「範囲や課題は明らかだった」3.8点、「説明は理解しやすいものであった」3.8点となっている。 一方で、学習準備を30分程度1回以上行った者が23名だった。また、復習を30分程度1回以上行った者が26名だった。昨年度は約7割の学生が予習復習に取り組んでいたが、今年度は3割と少なかった。自由記述には「本を読んだ」「自分なりのノートに調べて書き加えた」といった自発的な学習に取り組む学生がいる一方で、授業以外の学習は「することがなかった」「する必要がなかった」「しなくていいと思った」と述べる学生が複数いたことは残念な結果であった。 分からないことは個別に質問や確認に来るようにと促していたが、アンケートにて「質問を受け付け、答える機会が作られていた」に数人「そうではないと思う」と答えていることから、成績の振るわない学生のなかには、授業内容についての疑問や自分自身の学習課題を解決できていない学生が含まれているようである。今後もそのような学生に対し、積極的な学びを引き続き促していく必要がある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目の目的とする基礎的知識の形成、意欲関心の向上について、概ね達成できた。 一部学生に、自主的な予習・復習を行い、日々の授業内容について行くことが難しい学生がいたことから、そのような学生に対しても十分な学びを促していきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
微生物学	1	後期	選択	いいえ	45

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①昨年同様、第1回目の講義において本科目のCP、該当DP、授業概要、達成すべき行動目標と達成目安について説明した。また、養護教諭免許取得に必要な科目のため内容は専門的であること、講義の前後に主体的な学習が必要なことを説明した。 ②知識の整理をするために講義8回目に小テストを実施し、早期から講義を振り返る姿勢を促した。 ③特に大切にしていることは、感染症についての基礎的な知識を修得し、そこから学校や医療福祉現場で発生した感染症事例について学ぶことである。講義→感染症事例→予防策という一連の流れにより現場に必要な知識の修得を目指した。 ④講義内容を整理するために講義進行にそって重要ポイントを数回提示し、雑誌・図書を積極的に利用し自主学習するよう促した。また、講義外にも空き時間を利用し質問をうける体制をとった。 ⑤学生のモチベーションを上げるため、養護教諭として活動している先輩の情報や感染症についての最新のトピックスを提供した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①総合評価の平均値は72点であり、再試対象者は4名だった。うち2名が受験し再試験に合格した。70%の学生が標準レベル（70点以上）に達しており、理想レベル（80点以上）に達した学生は30%だった。小テストの平均得点は7.5/10点であった。 ②自由記述から「ノートを作成した、興味あることを調べた、小テストの勉強をした」などの記述があり、主体的に学習に取り組む姿勢や小テスト導入の効果が見られた。 ③学生の自己点検評価値は、「知識を確認し新たに得ることができた4.5」、「専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた4.3」「専門分野について学びたいと意欲をもつことができた4.2」と、知識の修得と課題を検討する力の評価値は昨年より高かった。 学習量については、1回に30分以上の予・復習を4、5回以上かけた学生が24～27%いた。一方、0回の学生は7～10%で、この学習量の割合と再試験受験者の割合はほぼ一致していた。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 専門教育科目で養護教諭取得免許取得に必要な必須科目である。将来の就職に向けて福祉・医療・学校現場に必要な感染症の基礎知識を身につけるうえで、CPの位置付けからみた講義内容は妥当であると考え。学生の到達度自己評価「職業選択の参考になった4.0」からも講義内容は適切だったと思われる。 ②DP, 行動目標からみての内容的妥当性 養護教諭採用試験や福祉・医療現場で役立つ知識の修得を目指しており、上記に記載した学生の知識到達度からみても内容は妥当であったと考える。 ③まとめ 以上、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考え。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①学生の授業の質評価は、「テストなどの評価基準の明確さ4.3、学習範囲の明確さ4.2、説明の理解しやすさ4.3」、「質問を受け、答える機会を作る4.2」と、いずれも評価値は昨年を上回った。授業工夫により到達度自己評価や授業の質評価が、プラスに転じていることから次年度も今年度の授業工夫を継続し行う。学生の自由意見には「実際の事件や事例による講義でわかりやすかった」、「大学の講義で一番興味があった」、「興味深い内容で難しかったが楽しかった」などの意見があった。 ②今年度の図書館利用率は60%と、昨年度19%に比較し利用率が3倍ほど増えた。重要ポイントを提示し、雑誌・図書を積極的に利用しまとめよう促したためと思われる。 ③「できれば発疹などの画像を見せるのを控えていただくと嬉しい」との自由意見があった。これについては、医療・福祉・教育現場で役立つことを意識した講義内容にするため、教科書に掲載がない感染症状についてはスライドを使い講義する旨、学生に説明する。 ④学生間の学習に対する意識の差は明確で、予復習に全く時間かけていない学生が約10%いる。この割合と再試験受験者の割合はほぼ一致していた。学生には、本科目に興味関心を持つように講義を通し働きかけるとともに、小テストに向けた学習の整理を早期にするよう促
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	・専門教育科目、教員免許資格に関わる科目として将来の就職現場に必要な知識を修得し理解するという目標は、学生の知識到達度からみてやや達成できたと思われる。 ・次年度も今年度の授業における取り組みを継続し行なう。また、学生間の学習姿勢・学習量の差の是正も含め、修得した知識が将来の就職現場にどのようにつながるかをイメージできるような講義内容を提供し、学生の学習に対するモチベーションをあげていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	坂巻 路可

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養学	2	後期	選択	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、食物に含まれる栄養素の役割やその人体での機能について解説し福祉に従事する立場から健康、栄養の大切さへの理解を深めることを目的としている。本科目は、選択科目であり、養護教諭一種免許状の必修科目である。受講動機においては、「資格取得に必要である」が最も多く66.7%、次いで「必修科目である」が40.0%であった。昨年度までと同様、興味・関心を持って授業に臨めるよう、栄養に関連する新聞記事等の情報提供を行いながら、授業を展開するよう努めた。授業で使用する配布資料等は、昨年度のものに新しい情報を追加し、修正を加え、よりわかりやすい内容とした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	総合的な成績の平均値は75.4（±8.9）点であった。再試対象者はいなかった。本試験の成績については、標準的レベル(70点以上)に達したものは45.2%、また理想的レベル（80点以上）に達したものは35.5%であった。学習到達度の自己評価においては、約9割の回答者が自分なりの目標を達成し(96.8%)、新たな知識を得ることができた(100%)と回答している。また、ほぼ全員の回答者から「学びを深めたい」(93.3%)、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(100%)との回答が得られたことから、教育目標は概ね達成できたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、選択科目（養護教諭一種免許状の必修科目）であり、福祉分野における栄養学の基礎的な知識の修得を目指している。学生による授業評価においては、ほぼ全員が新たな知識を得ることができており、また、事象を理解する視点や考え方を得ることができた、課題を検討する力を得ることができたと評価している。成績評価においても、一定の成績を修めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から知識理解、意欲関心に関する達成度は比較的高く、本科目の内容的妥当性は問題はないと思われる。 まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習到達度の自己評価においては、ほぼ全員が自分なりの目標を達成し、新たな知識を得ることができたと回答している。また、授業の質の評価においては5項目の平均値は3.6(±0.1)であった。学修のための情報利用においては、3割程度であったが「履修の際にシラバスを活用した」、「授業の計画を立てた」との回答も得られており、授業の進め方については、問題はないと思われる。図書館等の利用について、利用者が少なかったため、情報収集の場、学習の場として今後、積極的な図書館の活用を勧めたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	学習到達度の自己評価から、大多数の学生が目標を達成し、栄養学分野において新たな知識を得ており、また事象を理解する視点や考え方を得ることができたと考える。次年度に向けこれらの評価を維持・向上できるよう、授業の進め方や教材の内容を検討する。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生理学	2	後期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	生理学は、細胞の機能から生命体の維持の基本となる主要臓器の働きについて学ぶ学問である。福祉学科、特に養護教諭を目指す学生にとっては必要な科目であることから、内臓機能や神経系の働きについて理解することに重点を置いた。高等学校で学んだ生物基礎の知識をもとに、対象を認識するための感覚器の働き、中枢での情報の統合、運動神経による骨格筋の制御の仕組みなど、基本的な事柄が理解できるように努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	どちらともいえない				
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価のすべての項目において、「少しそうでないと思う」以下の否定的な意見が1-3割程度あり、平均値が2.9-3.3、中央値が3.0であったことをみると、本科目で意図した教育目標は達成できたとは言えないレベルである。しかしながら、最低でも7割程度の学生が肯定的な意見を示していることから、ある程度の効果があったともとらえることができる。 評価はレポートで行ったが、レポート内容からは将来の自分の夢に対して非常に真摯に向き合っていた学生もいれば、終始批判や不満を述べることに徹する学生もあり、全ての学生に本科目が有益だったと言い難いと感じた。担当教員は福祉学科に属していないため、一部の学生は講義時間内に雑談をしたり、音楽を聴いたり、他のことをしていた。注意しても特に反省する様子もなく、手持ち無沙汰になると眠ってしまっていた。これは、ひとえに担当教員の力不足によるもので、生理学の魅力を伝えることができなかったためと猛省している。ごく一部ではあるが「2/3以上の出席をもって定期試験の受験資格がある」ことから1/3は休む権利があると主張する学生も散見されたことから、次年度は教員と学生が歩み寄るためにはどのような方法があるか、模索してみたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、社会福祉士国家試験の中の「体の構造と機能及び疾病」において必要な生理学分野の科目である。受講生の約6割が資格取得を目指して受講を決めている。カリキュラムマップの中では、「解剖学」、「医学総論」などと連携して、人体の構造と機能と疾病の成り立ちについての正しい知識を身につけるための科目である。 近年の教員採用試験問題は、難易度の高い設問も含まれており、本科目の授業内容では不十分な点もあるかと考える。時間数が限られる中で、採用試験問題のレベルに合致した授業内容となるよう、創意工夫が必要と考えている。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	講義で使用したスライドや資料は全て印刷をして学生に配布した。これらの資料はほとんどが教科書から抜粋しており、教科書を読み進めるために必要なエッセンスを書き出している。つまり、自宅での復習や次回の予習に役立てられるよう配慮したつもりである。しかしながら、予習・復習を全く行わなかった学生が大半で、インターネットの利用などほとんどの学生が行っていなかったことから、周知が足りなかったと考えている。 今年度は学生の能動的な学習意欲を引き出すためにも、「実感・体感する生理学」を目指して、血圧測定と肺活量計を用いて測定を行った。水銀柱を用いた血圧測定は、興味を持って受け入れられたと考えられる。体感・実感は動機づけには有効であった。次年度も続けたいと考えているが、あくまでも座学であり演習の時間を設けることには少し抵抗を感じている。次年度は、NHKスペシャル「人体」のビデオ鑑賞を通して、生理現象について考える機会を設けてみることも検討している。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	限られた時間内に、人体のすべての臓器について基本的事項を習得することは不可能である。生理学で学ぶ事象については、身近な現象や病態などをできるだけ多く例示したつもりであるが、必ずしも学生にとって理解できる内容ではなかったのかもしれない。現に、レポートには少数ではあるが、講義そのものを否定するものがあり、科目に対する批判というよりは担当者に対する嫌悪感が表れていた。毎年同じような内容の講義をしているつもりではあるが、学年によって受講態度などが大きく異なり、対応に苦慮しているのが実情である。 今後の課題としては、より丁寧な説明を行い、教科書全ての項目を網羅しようとするのではなく、学生に興味を持ってもらえるような事例をもっと多く提示する必要があると考えている。次年度は、2年前期で開講される「解剖学」も本科目担当者が担当するため、大まかな一連の流れを示しながら、個々の講義の位置づけを伝えられるよう努力したい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校保健Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。受講動機としては、「資格取得に必要である」75.9%、「必須科目である」41.4%、「関心のある科目である」0.0%であり、資格取得や必須科目であるが、関心意欲が低いことが分かる。 これらのことから、授業では養護教諭の執務について、学校保健Ⅰで学んだことを基礎に、できるだけ具体例を示し、グループワークやロールプレイを取り入れ、関心意欲を高めるように心がけた。 ②本科目は学校保健Ⅰの教授内容を踏まえ、養護教諭の専門性に基づいた養護活動の基本について学ぶ。学生は自身が児童生徒のときに出会った養護教諭のイメージを持っている学生が多い。そのため、オリエンテーションでは自分自身が児童生徒だった時の養護教諭のイメージと理想の養護教諭像のグループワークを行い、授業に対する関心意欲を高めるように心がけた。講義内容は、養護教諭の職務内容をわかりやすく解説し、学校現場の実践に役立つように、具体的な事例を提示し、養護教諭の職務内容への理解と専門性について解説した。さらに、第14回、15回では学生自身が養護教諭として保健室経営がイメージできるように理想の保健室のレイアウトを考え、グループ発表
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値は73.0（±9.4）であった。理想的レベル（80点以上）は10名であった。 目標別の到達度は、知識理解に関しては70.0%、思考判断70.0%、関心意欲73.0%であった。基礎的な問題の正答率は高かったが、基礎的な知識を応用した論述問題の正答率が低かった。このことは、基礎的な知識の定着とそれを応用しての理解が不十分であったと考えられる。授業では基礎的な知識の定着を確認しつつ、グループワークなどを通して応用力の定着を図るように授業構造を改善していきたい。 学生の授業評価においては知識理解において、知識を確認、修正したり、新たに得ることができた（平均値4.1、中央値4.0）、自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた（平均値4.1、中央値4.0）また、関心意欲においては、自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値4.0、中央値4.0）であった。 次年度に向けて、基礎的な知識を活用し応用問題に対応できるように復習問題などの課題を取り入れていきたい。さらに、発展的に課題を解決していく力を身につけることができるように授業内容を工夫していきたい。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,CPカリキュラム上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「保健・医療関係科目」であり、養護教諭一種免許状取得を取得するための看護臨床実習、養護実習の履修要件科目である。 受講動機としては「資格取得に必要である」75.9%、「必須科目である」41.4%であった。 また、学生の授業評価においては知識・理解において、知識を確認したり、修正したり、新たに得ることができた（平均値4.1、中央値4.0）、また、自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた（平均値4.1、中央値4.0）、職業選択の参考になった（平均値4.1 中央値4.0）と答えている。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。 ②DP,行動面から見ての内容の妥当性 成績評価から見て知識理解に関する達成度が比較的低かったが、基礎知識を活用し、応用問題に適応するように授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であったと考える。また学生の授業以外に取り組んだこととして、授業内容をもとにレジュメを活用し、予習や復習に取り組んでいた。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生の授業評価においては、「予習や復習に取り組んだ。」という意見があった。一昨年度、学生から演習をするための模擬保健室に設置についての要望があったが、設置することができ、今年度より演習をする際に活用している。また、学生が自主的に教員採用試験等の演習に活用し、採用試験対策に効果を上げることができた。 さらに授業では、学校現場で臨機応変に対応できるような実践力を身につけることができるように、グループワークなどを取り入れ、コミュニケーション力や表現力を身につけることができるように、授業内容を工夫していきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、養護教諭一種免許状を取得するために必要な科目である。基礎的な知識は概ね達成できたが、学校現場では臨機応変に対応することが求められる。基礎的な知識を定着させ、さらに活用できるような実践力が身につくように授業構造を改善していきたい。 授業内容について基礎的な知識の定着を図るとともに、復習課題を提示し、応用力の養成に取り組んでいきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
看護学	2	後期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。 受講動機としては「資格取得に必要である」85.2%、「必須科目である」22.2%、「関心のある内容である」3.7%であった。このことから、資格取得や必須科目であるが、関心が低い科目であることがわかる。これらのことから、講義を通して基礎的な知識が定着できるように、講義と演習のバランスを考え授業計画を立て、関心を高めるように心がけた。 ②授業では、養護教諭に必要な看護理論について基礎を学び、その定着を図るために解剖生理学の復習を取り入れながら授業をおこなった。また、学校現場において実践に生かすことができるように、児童生徒に多い疾患についてグループワークを取り入れた。さらに、学校現場における養護教諭に必要な看護の知識をわかりやすく解説することに心がけ、意欲関心が高まるよう授業内容の改善に心がけた。（意欲関心88.0%）
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な平均値は75.3点（±9.4）であった。理想的レベル（80点以上）は10名であった。 目標別の達成度は知識理解に関しては、71.6%、思考判断76.0%、意欲関心88.0%、態度80.7%であった。知識理解では、基礎的な問題の正答率は高かったが、基礎的な知識を応用した論述問題の正答率が低かった。このことは、基礎的な知識の定着とそれを応用しての理解が不十分であったと考えられる。授業では基礎的な問題の定着を確認しつつ、復習問題を課題に出すなどの工夫を通して、応用力の定着を図るように授業構造を改善していきたい。 学生の授業評価においては思考・判断において、自分が学ぼうとしている専門分野において課題を検討する力を得ることができた（平均値3.9中央値4.0）、関心・意欲において、自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値4.0中央値4.0）であった。また、職業選択の参考になった（平均値4.0、中央値4.0）であった。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,CPカリキュラム上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「保健・医療関係科目」であり、養護教諭一種免許状取得するための看護臨床実習、養護実習の履修要件科目である。 受講動機としては、「資格取得に必要である」85.2%、「必須科目である」22.2%、「関心のある内容である」3.7%であった。このことから、資格取得や必須科目であるが、関心が低い科目であることがわかる。 学生の授業評価においては、知識・理解において、知識を確認、修正したり、新たに得ることができた(平均値3.8中央値4.0) また、関心・意欲においては、自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた(平均値4.0中央値4.0)と答えている。また、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。 ②DP,行動面から見ての内容の妥当性 成績評価から見て最終の平均値は高かった。さらに基礎知識を活用し、応用問題に適応するように授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であったと考える。また学生の授業に取り組んだこととして、授業内容をもと提出した課題に真摯に取り組んでいた。 ③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業では、講義でしっかりと基礎知識を身につけ、グループワークなどを取り入れ、学校現場で実践できるような力を身につけることができるように授業内容を工夫していきたい。また、オリエンテーションの際に授業についてシラバスについて丁寧に説明を行い、自分の目標が達成できるように目標シートを提示するなどの工夫を行いたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は、養護教諭一種免許状を取得するために必要な科目である。基礎的な知識は概ね達成できたが、学校現場では医学的な知識を持った専門職として臨機応変な対応が求められる。基礎的な知識を定着させ、学んだ知識をさらに活用できるような実践力が身につくような授業構造に取り組んでいきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育原理	2	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	○学生にとってわかりにくい授業のひとつであり、授業において教育を本質・文化・制度など多面的に理解するためのフックを工夫した。 ○保育士という専門職にとっての教育の意味をイメージできるようつとめた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	どちらともいえない	やや達成された		どちらともいえない		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	○昨年度は秀27.3%、優45.5%、良22.7%、可4.5%、平均点80.9であった。 ○本年度は秀11.1%、優22.2%、良44.4%、可22.2%、平均点68.9点であった。 ○昨年度から平均点が10ポイント以上低下した。特に秀優が大きく減少している。 ○授業中の参加の様子を見る限り、保育に近い内容や現代的なトピックには反応するが、歴史的な変遷や教育の本質の意味など土台部分には興味が持ちづらいのではと思われる（昨年度と同様の傾向）。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	○DP、CP、カリキュラムマップ上では保育士に必要なものとして位置づけられており、内容妥当性について問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	○テキストを毎年変更しながら試行しているが、これだというものに至っていない。次年度は昨年度同様のテキストを用い、補足資料や動画など学生の興味関心に働きかける工夫をしたい。 ○Google Classroomなどを活用して細かな課題設定を組み込んで、学生の参加度向上を実現したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	○レポート試験であったため、興味や知識のレベルとレポートとして求められる論理構成の間に落差があったように思う。評価方法を含めて次年度の課題としたい。 ○教育思想や歴史のパートに対する関心の低さが目立つ。高校までの歴史科目への理解や関心と関係していると思われる。できる限り興味を持てるような工夫をしたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育者論	1	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は保育士資格取得のための必修科目である。保育者の役割と倫理、保育の専門性について理解すると同時に、学生の今後の学びへの意欲、保育者像をいかに描いていくに関わる重要な科目である。保育者の専門性の奥深さや魅力を伝えるとともに、幅広い専門的知識が求められること、ソーシャルワークの専門性と保育の専門性をかけ合わせることがいかに役立つのか、現代の子どもと家庭をとりまく現状で求められるのはなぜかを伝えることに重点をおいた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された			
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学習到達度の自己評価によると、「知識・理解」（DP1）「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方をえることができた」、「思考・判断」（DP2）「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」において、（かなりそうだと思う15.4%、わりにそうだと思う38.5%、まあまあそうだと思う46.1%）であった。なお、「関心・意欲」（DP3）「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（かなりそうだと思う15.4%、わりにそうだと思う53.8%、まあまあそうだと思う30.8%）、「態度」（DP4）「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（かなりそうだと思う7.7%、わりにそうだと思う61.5%、まあまあそうだと思う30.8%）であった。本科目における教育目標はある程度達成できたと考えが、「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容」に示された内容と照らし合わせると、本科目と関連するDPとの位置づけは修正が必要である。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP,行動目標からの内容的妥当性 4(2)に記載したように、学生の学習到達度自己評価と「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容」に示された内容とを照らし合わせると、現時点では、本科目が含むべき教育内容とめざす教育目標に関連するDPが設定されておらず、修正が必要である。 ②CP,カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は保育士養成科目の導入部分に位置づけられる科目であり、他の保育専門科目に取り組む土台となる科目である。カリキュラムマップにおいては適切な位置づけである。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価においては、平均値3.7～4.1となっており、比較的高い評価を得たと考える。「学習量の評価」や「図書館利用」等においては、授業の予習復習を一度も行わなかった学生、図書館を利用しなかった学生がいずれも半数を超えており、学生が学びを深めたい意欲をもち、自発的学習につながるような授業の展開を工夫していくことが今後の課題である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目における教育目標はある程度達成できたと考えるが、主体的学習態度の形成においてさらなる改善、工夫に努めていきたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	田中 沙織

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
子どもの保健Ⅰ	2	通年	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業評価アンケートから、資格取得に必要な科目のため受講している学生達であるという結果であった。 そのため、専門職として「必要な知識・技術」を獲得できるよう授業内容を構成した。非常勤という立場から、受講学生の普段の様子は開講まで正確に把握することはできないため、具体的な事例の提示、教科書の内容の実演を行い、机上の知識とならないよう配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の「達成度自己評価」については9割以上が達成できたと考えているが、成績評価からは受講者全員が意欲的な学習が進められるような授業構成だったとはいえない。「図書館利用」からは、一部学生においては幅広いソースから学習の準備をしていたと判断できるが、「学習量の評価」からは、予習・復習をしたのは僅かである。毎授業ごとの小テストを行うことで、前回の授業の重点ポイントを整理したり、学生のこれまでの生活の経験から授業内容が理解しやすくなるように事例を用いての理論の解説を試みたが、全体としての目標達成度はそれほど高いとは言えない。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は資格取得に必要な科目であり、具体的な「知識・技術」の取得を目指す科目である。そのため、D P の知識理解、技能表現に合致するものであり、C P、カリキュラムマップ上の位置づけにおいても妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については、今後の課題として学生と教員間でさらなる評価の共有を行うことで目的の共有が達成され则认为。集団内の学力・意欲・態度に開きがあるため、全体の授業の流れとは別に、個人の学びに応じた支援方法を模索する必要がある。一部成績下位の学生については、授業開始時に実施する小テストが全く回答できていなかったり、回答する意思がないこともあり、「学習量の評価」の復習時間の短さの通り、学習習慣が身につけていない学生が一部存在すると考える。これらの学生に対しては、教科書の内容解説や専門職としての事例提示ではなく、大学生である現在の状況に即した事例提示や学習意欲を高める授業導入が必要である则认为一方で、科目教授内容の過密さから困難な側面もある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	資格取得に係る専門科目で知識理解、技能表現を身につけることを目標にしている本科目で、成績評価の結果からは、学生が目標達成に向け取り組んだ結果として、概ね目標は達成できたと考える。一部成績下位の学生や不合格の学生に対する関心・意欲を高める取り組みが課題である。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育の心理学Ⅰ	2	後期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	毎年の挑戦ではあるが、受講生との対話ある講義を心掛けたいと努力した。例年の事ではあるが、講義の導入に当たり学生の興味・関心のある内容を話すために、毎講義の最後に本時の講義に対する感想や質問を書いてもらうことにしている。本時終了後にその内容を精査して回答や問題定義を考えて講義に臨んだ。このことでスムーズに講義の内容には入れた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された		
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	保育士資格希望の学生への講義だった。これに対する評価は一定の成功を示していると思われる。それは以下の3点においてである。①成績評価のほとんどが平均以上の結果を出している。②自由記述の欄に、「わかりやすく、面白い講義であった」と講義者の狙い通りのコメントが見られた。③学生の出席状況からみて、欠席傾向のあるものを除けば、95パーセント以上の学生が講義15回の90パーセント以上の頻度で参加していることは学習意欲の高さが示唆される。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	講義の経験は多いけれど、今年度も達成状況の総括的評価は3段階A,B,C評価のBの中であったように思う。授業者の体調、意欲。内容の鮮度。それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができない場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。本年度もその数においてやはりBの上であった。努力を重ねたい。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	ラパスで年度当初の学生に期待した行動目標は概ね達成出来たと思う。しかしまだ授業中に集中力が途絶える学生が幾人か存在する。注意の仕方に工夫をくわえてきたが、全員をかなりの集中度に持っていくのは容易ではない。今年度取り組んだ映像や教師の発問、討議話題の挿入などまだ工夫の余地を継続して続けたい。がんばりたいと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	講義の道を究めるのは厳しい。今年度の達成状況の総括的評価はやはり3段階A,B,C評価のBの中ではなかろうか。授業はアートというのが私の持論であるが、授業者の体調、意欲。内容の鮮度、それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができない場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。本年度はその数においてやはりBの上であった。努力を重ねたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	田中 沙織

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育内容 健康	2	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業評価アンケートから、資格取得に必要な科目のため受講している学生達であり、実践現場についても十分とは言えないがそれぞれ実習で学んだことをさらなる学びに繋げようという意思も感じられる。そのため、講義形式で知識の伝達等に留まらず、演習の中で専門職として「必要な知識・技術」を獲得できるよう授業内容を構成した。非常勤という立場から、受講学生の普段の様子は開講まで正確に把握することはできないため授業内での学生の興味・関心や技能・経験を把握することに努め、具体的な事例の提示、教科書の内容の実演を行い、机上の知識とならないよう配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の「達成度自己評価」については9割以上が達成できたと考えているが、成績評価からは全員が目標を達成したとはいえず、「やや達成された」とした。課題に取り組む際に「図書館利用」「インターネット利用」については一部学生においては幅広いソースから学習の準備をしていたと判断できるが、学習準備性についても個人によって意欲・能力に差異があり、教員側が期待する学習量を満たす学生は一部のみの学生に限られた。資格取得のための科目という性質を考えると、受講意欲が低い学生も数名みられたが、学生が主体的に授業に参加したと思える割合を増やすことで意欲を持って授業に臨めるようになった学生も少なくなく、全体としての目標達成度は達成された部分が多い。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は資格取得に必要な科目であり、具体的な「知識・技術」の取得を目指す科目である。そのため、D P の知識理解、技能表現に合致するものであり、C P、カリキュラムマップ上の位置づけにおいても妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	一部成績下位の学生については、授業開始時に実施する確認テストが全く回答できていなかったり、回答する意思がないこともあり、学習方法が明確でないこと習慣が身についていない学生が一部存在する。これらの学生に対しては、さらに具体的な学習方法の提示や、課題に対するアセスメントを行いながら、大学生である現在の状況に即した事例提示や学習意欲を高める授業導入が必要であるとする。一方で、科目教授内容の過密さから困難な側面もある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	資格取得に係る専門科目で知識理解、技能表現を身につけることを目標にしている本科目で、成績評価と学生が目標達成に向け取り組んだ結果として、概ね目標は達成できたとする。授業内容や授業スケジュールなど、学生にとって見通しを持って学習ができるように情報の提示の仕方を工夫する必要がある。また、一部欠席回数や遅刻が多い学生の関心・意欲を高める指導についても課題が見られる。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育内容 ことば	1	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、7割以上の学生の動機がそれに該当科目である。そのため、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価結果から全体的な教育目標は達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」においても全項目3.8点以上であり、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。一名、履修放棄があった点について、来年度以降、細やかなサポートを心がけたいと考える。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育技術に関する内容の教授であることから、関連D Pについては妥当であるとする。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、C P, カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方は概ね問題ないと考えている。実演形式で保育の表現技術について教授した。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	成績評価上も概ね教育目標は達成できているとする。履修放棄の学生に対するサポートについて考える必要がある。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育の表現技術Ⅳ	2	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、8割以上の学生の動機がそれに該当する科目である。そのため、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。保育技術に関する教授内容であるが、技術獲得のための課題は授業時間中だけでは実施困難であるため、基本的には次回授業時提出の形をとった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートにおいて全ての学生が「到達度事項評価」にて全項目達成できたと感じており、シラバスの達成目標を基に作成した自己評価チェックリストにおいても9割以上の学生が学修効果を実感している様子が確認された。成績評価上も良好で、学生の実感と近い結果であった。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育技術に関する内容の教授であることから、関連D Pについては妥当であるとする。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、C P, カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であるとする。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方は概ね問題ないと考えている。実演形式で保育の技術について教授し、授業外の学習時間で課題を行うという進め方であったが、学生の目標到達や成績状も良好な結果であった。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	成績評価上も概ね教育目標は達成できているとする。次の段階として、これ以降の授業で本授業で獲得した技術を発揮できる時間の確保ができればなお良いとする。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	田中 沙織

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
子どもの保健	1	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業評価アンケートから、資格取得に必要な科目のため受講している学生達であるという結果であった。 そのため、専門職として「必要な知識・技術」を獲得できるよう授業内容を構成した。非常勤という立場から、受講学生の普段の様子は開講まで正確に把握することはできないため、具体的な事例の提示、教科書の内容の実演を行い、机上の知識とならないよう配慮した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の「達成度自己評価」については9割以上が達成できたと考えているが、成績評価からは受講者全員が意欲的な学習が進められるような授業構成だったとはいえない。「図書館利用」からは、一部学生においては幅広いソースから学習の準備をしていたと判断できるが、「学習量の評価」からは、予習・復習をしたのは僅かである。毎授業ごとの小テストを行うことで、前回の授業の重点ポイントを整理したり、学生のこれまでの生活の経験から授業内容が理解しやすくなるように事例を用いての理論の解説を試みたが、全体としての目標達成度はそれほど高いとは言えない。					

5. D P, C P, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
D P, C P, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は資格取得に必要な科目であり、具体的な「知識・技術」の取得を目指す科目である。そのため、D P の知識理解、技能表現に合致するものであり、C P、カリキュラムマップ上の位置づけにおいても妥当であると考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進め方については、今後の課題として学生と教員間でさらなる評価の共有を行うことで目的の共有が達成され则认为。集団内の学力・意欲・態度に開きがあるため、全体の授業の流れとは別に、個人の学びに応じた支援方法を模索する必要がある。一部成績下位の学生については、授業開始時に実施する小テストが全く回答できていなかったり、回答する意思がないこともあり、「学習量の評価」の復習時間の短さの通り、学習習慣が身につけていない学生が一部存在する则认为。これらの学生に対しては、教科書の内容解説や専門職としての事例提示ではなく、大学生である現在の状況に即した事例提示や学習意欲を高める授業導入が必要である则认为一方で、科目教授内容の過密さから困難な側面もある。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	資格取得に係る専門科目で知識理解、技能表現を身につけることを目標にしている本科目で、成績評価の結果からは、学生が目標達成に向け取り組んだ結果として、概ね目標は達成できたと考える。一部成績下位の学生や不合格の学生に対する関心・意欲を高める取り組みが課題である。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	金谷 めぐみ

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育内容の理解と方法Ⅱ	1	後期	選択	はい	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この授業では、保育士に求められるピアノの技術を習得する。前期「保育内容の理解と方法Ⅰ」で習得したピアノ演奏技術を引き続き向上させるよう、ひとりひとりに適した指導を心掛けた。また、学生の学習内容を確認できるよう「レッスンシート」を継続し、学生が練習課題を記入したものを教員が毎回チェックすることで、適切に助言できるよう工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	やや達成された				やや達成された	
（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートにおいて、学生が授業時間外にピアノの自主練習を行ったことが記述されており、学生が技術習得に向けて自主的に取り組んだことが示された。ピアノ経験年数の差異が影響されたが、必要に応じて個別指導を行うことによって全員が一定程度のレベルに到達することができた。試験の結果から、大半の学生は一定程度の技術レベルに到達することができたと判断された。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP,カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は1年次開講科目であり、保育専門科目の受講に対する動機づけにつながるという点で重要な科目であると考えている。教育目標においてはピアノ奏法のレベルによる目標設定を行ったが、授業内容としては歌唱や人の前に立って表現活動を行うことを取り入れた。また、学習準備性において個人差が大きかったものの、授業への取り組み、達成状況においてはある一定の成果が得られたことから、内容的には妥当であると判断できる。 ②DP,行動目標からの内容的妥当性 それぞれにおいてある程度達成されており、内容的妥当性には問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値が3.5であった。ピアノ奏法の評価基準について、より具体的に示すことで、学生の試験に向けた取り組みに役立つような内容となるよう工夫を行うべきと考える。その他の項目についても、平均値は3.5であったことから、学生が自ら音楽表現を楽しむことに重点をおくことで、学習への意欲を向上させることができるよう、次年より工夫したい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	達成度自己評価の結果と日々の学生の取り組みの様子から、教育目標は一定程度達成できたと考えられる。本科目は1年時のみの開講であり2年次以降は個人の努力でさらにピアノ奏法のレベル向上に努めていくことが求められることから、具体的な評価基準を学生に周知させ、学生の技術習得への意欲を高め、自発的な練習につながるようさらに工夫していくことを来年度の+C21:H25課題としたい。

リフレクションカード 2019年度後期

学科	福祉学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育原理	1	後期	選択	はい	41

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①教職をとる学生が始めて学ぶ科目であるため、教育に対する関心及び基礎的な思考力を育てることを目標とした ②受講動機は基本的に教職課程の必修科目であるため、基本的に学生は真面目に受講していた。 ③前年のこの講義では、「『教育原理』なのに、教育のこととは関係ないことを説明されて、あまり理解できませんでした。」という意見があったので、人間理解が教育の基本原理だというような「常識」を丁寧に説明した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成されなかった	達成されなかった				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	試験成績の平均は61.59であり、全体の平均点62.47に比してわずかに低かった。ということは定期試験の不合格者は41名中17名おり、深刻な事態となっている。幸い再試験でなんとか合格はできたものの不安を感じる。80点以上は6名であり、もう少しいてほしい。 学生の自己評価でも、各項目に於いて「全くそうでない」「少しそうでない」というところに4～7人おり、殊に「全くそうではない」というところに1から3名いるのが非常に好ましくない。到達度の平均値は各項目3.1～3.4と高くない。 授業に対する評価も2.9～3.4であり、学生の評価は昨年同様によくない。「全くそうでない」「少しそうでない」というところに9～12人いるのはよほど講義が不満だったのだろうが、特に自由筆記の回答もないのでよくわからない。ただ、実感として例年より福祉学科の学生の手応えが弱かった感がある。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価	
DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職科目であるため、受講動機も圧倒的に資格取得・必修というものが多い。カリキュラム上の位置づけに問題はないと考える。
6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	わからないことは質問しやすいように工夫したのだが、それでも質問の機会が少なかったという回答が多いのはよくわからない。さらに丁寧な説明を心懸けたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	あまり成績はよろしくなかったが、福祉学科が伸びていない理由はよくわからない。意欲をどう持たせるかが、課題だろう。